



2014年度後学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）

授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
 1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。
 平成 26 年 8 月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学
 ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html シラバス検索)

授業の目標
学習内容
授業計画
 これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
 こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
 意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の
 場所で待機する時間のこと。
 会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・
 時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
 市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番
 号。
受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。

授業科目名	ドイツ語 A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 2	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1 回 話法の助動詞 2 回 話法の助動詞 3 回 動詞の 3 基本形 4 回 動詞の 3 基本形 5 回 動詞の 3 基本形 6 回 時制 7 回 時制 8 回 形容詞 9 回 形容詞 1 0 回 形容詞 1 1 回 関係代名詞 1 2 回 受動 1 3 回 受動 1 4 回 接続法 1 5 回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法 1 8 歩				
参考書	無し				
予習・復習に ついて	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の 方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィス アワー	火曜日 7・8 時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員から のメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

■学期

◇この欄に「後学期（前半）」「後学期（後半）」と記載された授業については、後学期をさらに半分に分けて開講されます。「後学期（後半）」の開始時期は後学期スケジュール（P29）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「後学期（前半）」「後学期（後半）」の場合は6,800円です。

平成26年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕
〈後学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅱ	エゲンヘルグトーマス	後学期	月3・4	共P101	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	コルベイ	後学期	月3・4	共A404	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅱ	南 富鎮	後学期	月3・4	共A305	若干名	A	9,500円
4	全学	初修外国語(フランス語)Ⅰ	安永 愛	後学期	月5・6	共A405	若干名	A	9,500円
5	全学	NPO・ボランティア論	日詰 一幸	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
6	全学	地域社会と災害	牛山 素行	後学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
7	全学	私たちの生活と植物	木寄 暁子	後学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
8	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
9	全学	ヒューマン・エコロジー	野上 啓一郎	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
10	全学	Modern Japanese Literature	コルベイ	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
11	全学	人間環境と分子科学	山本 歩	後学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
12	全学	歴史と文化	山田 智	後学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
13	全学	ことばと表現	森本 隆子	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
14	全学	現代の社会	小清水 貴子	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
15	全学	数理の構造	鈴木 信行	後学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
16	全学	経済と社会	櫻井 良治	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
17	全学	心理学	橋本 剛	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
18	全学	数学の世界	大田 春外	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
19	全学	化学の世界	瓜谷 眞裕	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
20	全学	教育の原理(D組)	菅野 文彦	後学期	水3・4	共A401	若干名	A	9,500円
21	全学	初修外国語(ドイツ語)Ⅱ	エゲンヘルグトーマス	後学期	水5・6	共P101	若干名	B	9,500円
22	全学	数学概論B	浅芝 秀人	後学期	水5・6	共A202	若干名	A	9,500円
23	全学	初修外国語(ドイツ語)Ⅳ	エゲンヘルグトーマス	後学期	木1・2	共P101	若干名	B	9,500円
24	全学	初修外国語(フランス語)Ⅳ	コルベイ	後学期	木1・2	共A105	若干名	B	9,500円
25	全学	生物学Ⅱ(基礎B)	丑丸 敬史	後学期	木1・2	理B202	若干名	A	9,500円
26	全学	地球科学Ⅱ(基礎B)	森下 祐一	後学期	金1・2	理B202	若干名	A	9,500円
27	全学	数学Ⅵ(微分積分C)	田中 直樹	後学期	金3・4	共A302	若干名	B	9,500円
28	全学	物理学Ⅰ(力学)	岡 俊彦	後学期	金3・4	共B301	若干名	A	9,500円
29	人文社会科学部	地方財政論Ⅱ	川瀬 憲子	後学期	月1・2	人E201	若干名	C	9,500円
30	人文社会科学部	経済政策Ⅱ	寺村 泰	後学期	月3・4	人大講	若干名	B	9,500円
31	人文社会科学部	企業経済特論Ⅱ	鈴木 拓也	後学期	月7・8	共L306	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
32	人文社会科学部	政策特論Ⅱ	鳥畑 與一	後学期	月9・10	人大講	若干名	B	9,500円
33	人文社会科学部	経営情報論	伊東 暁人	後学期	火3・4	人E201	若干名	B	9,500円
34	人文社会科学部	世界経済論Ⅱ	安藤 研一	後学期	水1・2	人E201	若干名	C	9,500円
35	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅱ	山下 隆之	後学期	水3・4	人大講	若干名	B	9,500円
36	人文社会科学部	社会経済論Ⅱ	遠山 弘徳	後学期	水5・6	人E201	若干名	C	9,500円
37	人文社会科学部	環境政策Ⅱ	水谷 洋一	後学期	木3・4	共L306	若干名	C	9,500円
38	人文社会科学部	理論と情報特論Ⅳ	上藤 一郎	後学期	金1・2	人E201	若干名	C	9,500円
39	人文社会科学部	金融論Ⅱ	小倉 将志郎	後学期	金3・4	人大講	若干名	B	9,500円
40	人文社会科学部	統計学Ⅱ	上藤 一郎	後学期	金5・6	人E201	若干名	C	9,500円
41	人文社会科学部	社会調査論	平岡 義和	後学期	月3・4	共A201	若干名	A	9,500円
42	人文社会科学部	文化人類学入門	長沼 さやか	後学期	月9・10	人B401	2～3名	A	9,500円
43	人文社会科学部	日本近世社会史	今村 直樹	後学期	火3・4	人B401	若干名	B	9,500円
44	人文社会科学部	ヨーロッパ文明史Ⅰ	藤井 真生	後学期	火5・6	人B303	若干名	C	9,500円
45	人文社会科学部	ラテン語Ⅱ	田中 伸司	後学期	火7・8	人B403	若干名	A	9,500円
46	人文社会科学部	応用倫理学	松田 純	後学期	火9・10	人B401	若干名	B	9,500円
47	人文社会科学部	教育現象の社会学	荻野 達史	後学期	水3・4	人B301	3名	B	9,500円
48	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅱ	松田 純	後学期	水5・6	人B402	若干名	B	9,500円
49	人文社会科学部	先史社会論	山岡 拓也	後学期	水5・6	人B401	若干名	C	9,500円
50	人文社会科学部	臨床社会心理学Ⅱ	江口 昌克	後学期	水7・8	人B402	若干名	B	9,500円
51	人文社会科学部	アジア近現代史	戸部 健	後学期	木1・2	人B402	若干名	C	9,500円
52	人文社会科学部	考古学概論	篠原 和夫	後学期	木3・4	共B501	若干名	B	9,500円
53	人文社会科学部	社会心理学Ⅱ	橋本 剛	後学期	木3・4	人B402	若干名	B	9,500円
54	人文社会科学部	基礎心理学	田辺 肇	後学期	金1・2	人B401	若干名	A	9,500円
55	人文社会科学部	日本文学概論Ⅱ	森本 隆子	後学期	月3・4	人B403	若干名	B	9,500円
56	人文社会科学部	日本・アジア言語文化基礎論Ⅰ	袴田 光康	後学期	月3・4	人B401	若干名	B	9,500円
57	人文社会科学部	比較文学文化基礎講読Ⅴ	大原 志麻	後学期	月9・10	人B304	若干名	C	9,500円
58	人文社会科学部	日本文学史Ⅳ	袴田 光康	後学期	火5・6	人B208	若干名	B	9,500円
59	人文社会科学部	中国語史	張 盛開	後学期	火5・6	人B204	若干名	B	9,500円
60	人文社会科学部	翻訳論Ⅲ	今野 喜和人	後学期	火7・8	人B302	若干名	B	9,500円
61	人文社会科学部	比較言語文化基礎演習Ⅱ	花方 寿行	後学期	水9・10	人B303	若干名	C	9,500円
62	人文社会科学部	日本語文化各論Ⅵ	酒井 英行	後学期	火9・10	人B301	若干名	B	9,500円
63	人文社会科学部	言語学原書講読Ⅱ	熊谷 滋子	後学期	水1・2	人B206	若干名	B	9,500円
64	人文社会科学部	日本語学概論Ⅰ	勝山 幸人	後学期	水3・4	人B403	若干名	B	9,500円
65	人文社会科学部	ドイツ事情Ⅳ	エゲンヘルグトーマス	後学期	水3・4	人B304	若干名	B・C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
66	人文社会科学部	英語学各論Ⅱ	小町 将之	後学期	木3・4	人B302	若干名	C	9,500円
67	人文社会科学部	日本語文化基礎講読Ⅳ	小二田 誠二	後学期	金1・2	人B402	若干名	B	9,500円
68	人文社会科学部	イギリス文学文化各論Ⅱ	鈴木 実佳	後学期	金1・2	人B205	若干名	C	9,500円
69	人文社会科学部	法制史Ⅱ	橋本 誠一	後学期	月3・4	人B302	若干名	B	9,500円
70	人文社会科学部	政治思想Ⅰ	井柳 美紀	後学期	水3・4	人E201	若干名	A	9,500円
71	人文社会科学部	国際法	板倉 美奈子	後学期	水5・6 金7・8	共A106	若干名	B	14,700円
72	人文社会科学部	不法行為法	米谷 壽代	後学期	木3・4	人B401	若干名	C	9,500円
73	教育学部	応用数学基礎	畑 宏明	後学期	月9・10	教B218	若干名	B	9,500円
74	教育学部	ポルトガル語・ブラジル文化	ヤマモト・ルシア	後学期	月9・10	教B216	若干名	A	9,500円
75	教育学部	集合と論理	山田 耕三	後学期	火3・4	教G201	若干名	A	9,500円
76	教育学部	代数学Ⅱ	谷本 龍二	後学期	火7・8	教B216	若干名	B	9,500円
77	教育学部	微分積分学	大和田智義	後学期	火9・10	教G201	若干名	A	9,500円
78	教育学部	解析学Ⅱ	大和田智義	後学期	水5・6	教G201	若干名	B	9,500円
79	教育学部	言語学入門	宇都宮 裕章	後学期	木3・4	教B217	若干名	A	9,500円
80	教育学部	日本語教育概論	宇都宮 裕章	後学期	木5・6	教B217	若干名	A	9,500円
81	理学部	計算機構論	鈴木 信行	後学期	月1・2	理B204	若干名	C	9,500円
82	理学部	幾何学Ⅰ	久村 裕憲	後学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
83	理学部	位相数学Ⅰ	保坂 哲也	後学期	火1・2	理B211	若干名	C	9,500円
84	理学部	代数学Ⅰ	浅芝 秀人	後学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,500円
85	理学部	マルチメディア表現法	横山 美佐子	後学期	火5・6	理B204	若干名	B	9,500円
86	理学部	代数学入門	毛利 出	後学期	火7・8	理B204	若干名	C	9,500円
87	理学部	数理情報学	依岡 輝幸	後学期	火7・8	理B201	若干名	C	9,500円
88	理学部	位相数学入門	依岡 輝幸	後学期	水1・2	理B204	若干名	C	9,500円
89	理学部	微分積分学Ⅱ	田中 直樹	後学期	水3・4	理B204	若干名	B	9,500円
90	理学部	微分積分学Ⅳ	板津 誠一	後学期	水5・6	理B204	若干名	C	9,500円
91	理学部	線型代数学Ⅱ	毛利 出	後学期	木3・4	理B204	若干名	B	9,500円
92	理学部	解析学Ⅰ	田中 直樹	後学期	木3・4	理B201	若干名	C	9,500円
93	理学部	複素解析学Ⅰ	奥村 善英	後学期	金1・2	理C309	若干名	C	9,500円
94	理学部	確率モデル論	板津 誠一	後学期	金5・6	理B204	若干名	C	9,500円
95	理学部	力学Ⅰ	森田 健	後学期（前半）	月5・6 金3・4	理B203	若干名	A	9,500円
96	理学部	力学Ⅱ	森田 健	後学期（後半）	月5・6 金3・4	理B203	若干名	A	9,500円
97	理学部	解析力学	青山 昭五	後学期	火1・2	理B203	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
98	理学部	統計物理学	溜淵 継博	後学期 (前半)	火3・4	理B203	若干名	C	6,800円
99	理学部	原子核物理学	松山 晶彦	後学期 (後半)	火3・4	理B203	若干名	C	6,800円
100	理学部	計算物理学入門	嘉規 香織	後学期 (前半)	火5・6	共L1F実習室1	若干名	C	9,500円
					火7・8				
101	理学部	計算物理学	溜淵 継博	後学期 (後半)	火5・6	共L1F実習室1	若干名	C	9,500円
					火7・8				
102	理学部	量子力学Ⅱ	土屋 麻人	後学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
103	理学部	熱力学	鈴木 淳史	後学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
104	理学部	統計力学Ⅱ	青山 昭五	後学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
105	理学部	電磁気学Ⅱ	松本 正茂	後学期	金1・2	理B203	若干名	B	9,500円
106	理学部	固体物理学	松本 正茂	後学期	金5・6	理B203	若干名	C	9,500円
107	理学部	有機化学Ⅱ	山中 正道	後学期	月5・6	理B213	若干名	A	9,500円
108	理学部	有機化学Ⅳ	塚田 直史	後学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,500円
109	理学部	基礎熱化学	河合 信之輔	後学期	火1・2	理B202	若干名	A	9,500円
110	理学部	無機機器分析	加藤 知香	後学期	火1・2	理B213	若干名	B	9,500円
111	理学部	応用生化学	瓜谷 眞裕	後学期	火3・4	理B212	若干名	C	9,500円
112	理学部	代謝生化学	山本 歩	後学期	水1・2	理B201	若干名	C	9,500円
113	理学部	天然物有機化学	小林 健二	後学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
114	理学部	量子化学Ⅰ	松本 剛昭	後学期	水3・4	理B213	若干名	B	9,500円
115	理学部	構造化学	岡林 利明	後学期	水3・4	理B211	若干名	C	9,500円
116	理学部	無機化学Ⅰ	菅野 秀明	後学期	木1・2	理B213	若干名	B	9,500円
117	理学部	反応錯体化学	近藤 満	後学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
118	理学部	化学反応論	関根 理香	後学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
119	理学部	有機機器分析	坂本 健吉	後学期	金5・6	理B213	若干名	B	9,500円
120	理学部	植物生化学	天野 豊己	後学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
121	理学部	分子生物学	山内 清志	後学期	月5・6	理B212	若干名	A	9,500円
122	理学部	生物科学の最前線	塩尻 信義	後学期	火1・2	理B212	若干名	C	9,500円
123	理学部	生化学(1年生用)	天野 豊己	後学期	火5・6	理B212	若干名	C	9,500円
124	理学部	植物発生学	木寄 暁子	後学期	火5・6	理B202	若干名	C	9,500円
125	理学部	発生生物学Ⅱ	塩尻 信義	後学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,500円
126	理学部	生物学Ⅱ	藤原 健智	後学期	木1・2	理B212	若干名	A	9,500円
127	理学部	神経科学	竹内 浩昭	後学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
128	理学部	微生物学	藤原 健智	後学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
129	理学部	生物環境科学概論Ⅰ	塚越 哲	後学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
130	理学部	構造岩石学	増田 俊明	後学期 (前半)	火1・2	理B201	若干名	C	6,800円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
131	理学部	マイクロテクニクス	道林 克禎	後学期 (後半)	火1・2	理B201	若干名	C	6,800円
132	理学部	地球化学	森下 祐一	後学期 (前半)	火3・4	共C611	若干名	C	6,800円
133	理学部	地球科学入門Ⅲ	生田 領野	後学期	火5・6	理B201	若干名	A	9,500円
134	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅱ	道林 克禎	後学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
135	理学部	地球生命史	加藤 憲二	後学期 (前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
136	理学部	地球科学入門Ⅳ	木村 浩之	後学期	金7・8	理B201	若干名	A	9,500円
137	理学部	放射化学Ⅰ	大矢 恭久	後学期	月7・8	理B213	若干名	B	9,500円
138	理学部	放射線生物学概論	山内 清志	後学期	火9・10	理B202	若干名	B	9,500円
139	理学部	放射化学概論	矢永 誠人	後学期	水5・6	理B202	若干名	B	9,500円
140	農学部	植物生理学	原 正和	後学期	月1・2	農B208	若干名	B	9,500円
141	農学部	持続可能型農業科学	南雲 俊之	後学期	月1・2	農B201	若干名	C	9,500円
142	農学部	森林利用システム学	近藤 恵市	後学期	月3・4	農B205	若干名	B	9,500円
143	農学部	園芸食品利用学	山脇 和樹	後学期	水1・2	農B205	若干名	A-B	9,500円
144	農学部	食品機能化学	森田 達也	後学期	月3・4	農B210	若干名	C	9,500円
145	農学部	生体機能学	茶山 和敏	後学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,500円
146	農学部	応用生態学	澤田 均	後学期	月3・4	農B201	若干名	C	9,500円
147	農学部	農業簿記入門	柴垣 裕司	後学期	月5・6	農B210	若干名	A	9,500円
148	農学部	植物ゲノム科学	堀池 徳祐	後学期	月7・8	農B201	若干名	C	9,500円
149	農学部	生化学	鳥山 優	後学期	火1・2	農B208	若干名	C	9,500円
150	農学部	森林環境水文学	土屋 智	後学期	火1・2	農B205	若干名	B	9,500円
151	農学部	微生物代謝工学	徳山 真治	後学期	火1・2	農B201	若干名	C	9,500円
152	農学部	食品製造化学	日野 真吾	後学期	火3・4	農B201	若干名	A	9,500円
153	農学部	土壌圏科学	南雲 俊之	後学期	火3・4	農B208	若干名	B	9,500円
154	農学部	生命環境倫理学	竹之内 裕文	後学期	水1・2	農B201	若干名	B	9,500円
155	農学部	有機化学概論	河岸 洋和	後学期	水1・2	農B210	若干名	A	9,500円
156	農学部	植物機能科学	原 正和	後学期	水3・4	農B210	若干名	B	9,500円
157	農学部	住環境構造学	安村 基	後学期	水3・4	農B211	若干名	C	9,500円
158	農学部	植物細胞工学	原田 久	後学期	水3・4	農B203	若干名	B	9,500円
159	農学部	植物微生物学	瀧川 雄一	後学期	水3・4	農B201	若干名	B	9,500円
160	農学部	環境社会学	富田 涼都	後学期	水5・6	農B208	若干名	B	9,500円
161	農学部	森林生態学	檜本 正明	後学期	水5・6	農B205	若干名	B-C	9,500円
162	農学部	動物生理学	与語 圭一郎	後学期	水5・6	農B201	若干名	C	9,500円
163	農学部	高分子材料学	山田 雅章	後学期	水7・8	農B203	若干名	A	9,500円
164	農学部	野菜園芸学	糠谷 明	後学期	木1・2	農B203	若干名	C	9,500円
165	農学部	分子機能化学	平井 浩文	後学期	木1・2	農B210	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
166	農学部	分子細胞生物学	與語 圭一郎	後学期	木3・4	農B208	若干名	B	9,500円
167	農学部	森林・地域景観生態学	藤本 征司	後学期	木3・4	農B204	若干名	A	9,500円
168	農学部	酵素科学	村田 健臣	後学期	金1・2	農B205	若干名	B	9,500円
169	農学部	分子生物学	加藤 竜也	後学期	金1・2	農B210	若干名	B	9,500円
170	農学部	環境毒性学	釜谷 保志	後学期	金1・2	農B208	若干名	C	9,500円
171	農学部	溪流環境学	土屋 智	後学期	金1・2	農B204	若干名	B	9,500円
172	農学部	環境情報学	野上 啓一郎	後学期	金1・2	農B203	若干名	B	9,500円
173	農学部	樹木成分化学	河合 真吾	後学期	金3・4	農B205	若干名	B	9,500円
174	農学部	生物有機化学2	轟 泰司	後学期	金3・4	農B210	若干名	C	9,500円
175	農学部	植物生理学	大野 始	後学期	金3・4	農B201	若干名	B	9,500円
176	農学部	応用測量学	逢坂 興宏	後学期	金5・6	農A537	若干名	C	9,500円
177	農学部	応用昆虫学	西東 力	後学期	金5・6	農B208	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

(D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業))

平成26年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕
〈後学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
178	全学	基礎無機化学	平川 和貴	後学期	月1・2	8-11	若干名	A	9,500円
179	全学	基礎無機化学	平川 和貴	後学期	月3・4	8-11	若干名	A	9,500円
180	全学	ことばと表現	田村 敏広	後学期	火3・4	6-22	若干名	A	9,500円
181	全学	日本国憲法	岡田 安功	後学期	火3・4	総24	若干名	A~B	9,500円
182	全学	現代の社会	笹原 恵	後学期	火3・4	情21	若干名	A	9,500円
183	全学	初修外国語(フランス語)Ⅱ	田中 柊子	後学期	火5・6	情23	若干名	A	9,500円
184	全学	心理学	高橋 晃	後学期	水3・4	情11	若干名	B	9,500円
185	全学	法と社会	原田 伸一郎	後学期	水3・4	情21	若干名	A	9,500円
186	全学	現代の社会	中澤 高師	後学期	水3・4	総34	若干名	A	9,500円
187	全学	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後学期	木1・2	8-11	若干名	A	9,500円
188	全学	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後学期	木3・4	8-11	若干名	A	9,500円
189	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	後学期	金3・4	総31	若干名	B	9,500円
190	全学	化学物質と人間	田中 康隆	後学期	金3・4	総24	若干名	C	9,500円
191	全学	医学と人間	山本 裕之	後学期	金3・4	8-11	若干名	B	9,500円
192	全学	初修外国語(フランス語)Ⅰ	田中 柊子	後学期	金5・6	情23	若干名	A	9,500円
193	全学	ヒューマン・エコロジー	戸田 三津夫	後学期	金5・6	総21	若干名	B	9,500円
194	全学	ロボットと人間	末長 修	後学期	金5・6	5-31	若干名	B	9,500円
195	全学	グローバル社会とナノテクノロジー	下村 勝	後学期	金5・6	総22	若干名	B	9,500円
196	全学	新・佐鳴湖から考える	戸田 三津夫	後学期	金5・6	6-22	若干名	A	9,500円
197	工学部	環境化学工学	松田 智	後学期	月1・2	3-31	若干名	B	9,500円
198	工学部	電子計算機工学	中井 孝芳	後学期	月5・6	2-31	若干名	C	9,500円
199	工学部	機能性有機材料	久保野 敦史	後学期	月7・8	3-31	若干名	B	9,500円
200	工学部	リスク分析(※1)	前田 恭伸	後学期	木1・2	5-11	若干名	C	9,500円
201	情報学部	社会調査論	中 正樹	後学期	月1・2	情21	若干名	A	9,500円
202	情報学部	博物館展示論	高松 良幸	後学期	月1・2	情25	若干名	A	9,500円
203	情報学部	現代コミュニケーション論	近藤 真	後学期	月7・8	情21	若干名	A	9,500円
204	情報学部	美術史	高松 良幸	後学期	火1・2	情23	若干名	B	9,500円
205	情報学部	認知心理学	漁田 武雄	後学期	水5・6	情21	若干名	A	9,500円
206	情報学部	情報社会思想	岡田 安功	後学期	水7・8	情21	若干名	B	9,500円

※1: パソコンを持参

- A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)
 B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2~3年次対象の授業)
 C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3~4年次対象の授業)
 ※演習の難易度は「D」になります。
 (D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3~4年次対象の授業))

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅱ (Basic German II)				
担当教員名	エゲンベルグトーマス (EGGENBERG THOMAS)	所属等	大学教育センター		
		研究室	人文学部A棟 225		
分担教員名					
クラス	学部共通 6	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一層興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、アットホームのような雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>01 Guten Tag! 挨拶の言葉、紹介、数字20まで、スペル、国と言葉</p> <p>02 Freunde, Kollegen und ich 趣味、約束、曜日、仕事・職業・働く時間、数字20以上、何月、季節</p> <p>03 In der Stadt 場所や建物、物、交通手段、外来語</p> <p>04 Guten Appetit! 食事、食文化、スーパーでの買い物</p> <p>05 Tag für Tag 時間、家族、遅刻、電話</p> <p>06 Zeit mit Freunden 旅行計画、誕生日、招待、レストラン、出来事、イベント</p> <p>07 Kontakte 打ち合わせ、説明、手紙、外国語</p> <p>08 Meine Wohnung 部屋、家具、インテリア、好み、ライフスタイル</p> <p>09 Alles Arbeit? 一日の経過、過去の出来事、就職活動、ブログ</p> <p>10 Kleidung und Mode 服、ファッション、デパート、ベルリン</p> <p>11 Gesund und munter 体、スポーツ、医者・病院、健康</p> <p>12 Ab in den Urlaub! 旅行、ガイドブック、ホテルの予約、クレーム、はがき、お土産 その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど</p>				

受講要件	なし
テキスト	必要な学習ツール： <ul style="list-style-type: none"> - 教科書：Netzwerk - Kursbuch A1, Langenscheidt 出版社, ISBN 978-3-468-46800-1 - 独和辞典（電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります） - メディアプレーヤーかスマートフォン
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp 静岡大学のドイツ語： www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jmozono/
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtime テスト（20%）、期末テスト（30%）。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。
オフィスアワー	月曜日の昼休み。気楽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp
担当教員からのメッセージ	
教職科目区分	

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ)				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語聴解、口頭表現				
授業の目標	4技能（聞く・話す・読む・書く）を総合的に学習しながらフランス語でのコミュニケーション能力を高める。日常生活に必要な語彙や表現を繰り返し練習しスムーズに会話ができるようになることを目標とする。同時に、フランスの文化や習慣についても理解を深める。				
学習内容	まず、その課での重要な語彙・文法・文型の紹介と意味の確認をする。そして、その文型を使った口頭練習を行う。次に練習した文型を含む会話タスクを行い、クラス全体で確認する（ペアワークまたはグループワーク）。適宜、聴解の問題や長めのスクリプトの読解の練習もする。				
授業計画	回	内容			
	1	Moi, c'est Thomas.			
	2	Allons, du courage.			
	3	Mais il n'est pas français.			
	4	Ah, voilà Pistache!			
	5	Il y a un chat sur la table!			
	6	Maman, je n'aime pas le noir.			
	7	復習/中間テスト			
	8	Oui, je suis sa fille.			
	9	Je fais des crêpes!			
	10	Et il boit du lait?			
	11	Tu as l'air fatigué!			
	12	Tu as de la chance!			
	13	Tu imagines maman!			
	14	Le passé composé			
	15	DELFA 1 / 復習			
受講要件	※教育学部の学生は「学部指定履修科目」に指定されているので、原則履修すること。				
テキスト	Claire Renoul, Le français tricolore: rouge, éditions asahi, ISBN 978-4-255-35238-1				
参考書					
予習・復習について	前期の学習内容の復習が必要。授業日には教科書を必ず持参すること。				
成績評価の方法・基準	出席、授業への参加 (30%) 小テスト (ペーパーテスト、口頭テスト) (70%) 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14:30~16:00				
担当教員からのメッセージ	実践的な会話練習をしながら、フランスの日常生活の雰囲気を楽しみましょう!				
教職科目区分					

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅱ (Basic Modern Korean Ⅱ)				
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟527	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	1	曜日・時限	月3・4
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているため日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎知識を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語・日本文化への理解も深めていきます。 				
授業計画	回	内容			
	1	復習			
	2	発音規則			
	3	指示代名詞			
	4	形式名詞			
	5	目的助詞			
	6	叙述表現			
	7	場所の助詞			
	8	否定文			
	9	曜日を覚える			
	10	敬語表現			
	11	過去表現			
	12	過去の敬語表現			
	13	未来表現			
	14	数詞			
	15	総復習			
受講要件	教育学部1年・理学1年、農学部1年（選択）				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう一初級』朝日出版社、2006年				
参考書	とくにありません。				
予習・復習について	教員がその都度指示しますが、基本的にはご自分で決めてください。				
成績評価の方法・基準	出席40%、試験60%。最初の授業時にもう一度お知らせします。				
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	難易度A。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語です。ぜひ気楽に挑戦してみてください。				
教職科目区分					

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅰ (French I)				
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟525	
分担教員名					
クラス	人1	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	フランス語の基礎、フランス語圏の文化				
授業の目標	前期の「フランス語入門」の授業に引き続き、フランス語の基礎力を身につけるとともに、フランス語圏の文化に触れていきます。				
学習内容	教科書『Elle est gourmande!』に沿い、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけていきます。折々、フランス語圏の話題に触れます。				
授業計画	回	内容			
	1	教科書第6課までの復習			
	2	教科書第7課前半			
	3	教科書第7課後半			
	4	教科書第8課前半			
	5	教科書第8課後半			
	6	教科書第9課前半			
	7	教科書第9課後半			
	8	復習・中間テスト			
	9	教科書第10課前半			
	10	教科書第10課後半			
	11	教科書第11課前半			
	12	教科書第11課後半			
	13	教科書第12課前半			
	14	教科書第12課後半			
	15	まとめと復習			
受講要件	※「学部指定履修科目」に指定されているので、原則履修すること。				
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の60点に達しない場合のみ、出席点（1回1点）を加点します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	フランス語の音とリズムがなじむようになったら、上達も早いでしょう。せっかくフランス語を勉強するので、フランス語圏のことに興味を向けてみてください。				
教職科目区分					

授業科目名	NPO・ボランティア論 (Introduction to Nonprofit Organizations and Voluntary Groups)				
担当教員名	日詰 一幸 (HIZUME Kazuyuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟621	
分担教員名	久保田 翠、今井 奈保子				
クラス	学部共通1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	ボランティア、ボランティア団体、市民活動、非営利組織、社会的企業、協働、市民社会				
授業の目標	ボランティア活動やNPO活動について、その概要を理解する。				
学習内容	NPOやボランティア活動に関する理論を学ぶとともに、実際に静岡県内で活動しているNPO法人の関係者から活動に実態を学びます。				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス			
	2	国際ボランティア活動の世界（1）			
	3	国際ボランティア活動の世界（2）			
	4	国際ボランティア活動の世界（3）			
	5	NPOの基礎知識（1）			
	6	NPOの基礎知識（2）			
	7	福祉とアートの融合によるNPO（1）			
	8	福祉とアートの融合によるNPO（2）			
	9	福祉とアートの融合によるNPO（3）			
	10	NPOの基礎知識（3）			
	11	NPOの基礎知識（4）			
	12	NPOの基礎知識（5）			
	13	環境分野で活動するNPO			
	14	福祉分野で活動するNPO			
	15	男女共同参画分野で活動するNPO			
受講要件	特にありません。				
テキスト	社団法人大阪ボランティア協会編『テキスト 市民活動論』				
参考書	その都度紹介します。				
予習・復習について	特にありません。				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験を総合して成績を評価します。				
オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00（事前に連絡をください。）				
担当教員からのメッセージ	講義中の私語、携帯電話の使用（特にスマートフォン）、他の授業の準備等を厳しく禁じます。				
教職科目区分					

授業科目名	地域社会と災害 (Regional Society and Natural Disaster)				
担当教員名	牛山 素行 (USHIYAMA Motoyuki)		所属等	防災総合センター	
			研究室	防災総合センター	
分担教員名	原田 賢治、石橋 秀巳、矢守 克也、横幕 早季、山岡 泰治				
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	豪雨災害、地震災害、火山災害、津波災害、防災、防災対策、防災行政				
授業の目標	静岡県では災害というと地震災害に目が向きがちかもしれないが、豪雨災害をはじめとして、災害には様々な姿がある。本講義では、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目指す。				
学習内容	(1)自然災害の基本的な性質を理解し、長期的かつ広い視野から災害を見ることができるようになる。(2)自然災害をもたらす様々な自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(3)地域における自然災害による被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。				
授業計画	1 2014/10/6 自然災害科学概論1 牛山素行 静大 2 2014/10/15 地震災害 原田賢治 静大 3 2014/10/20 自然災害科学概論2 牛山素行 静大 4 2014/10/27 火山災害 石橋秀巳 静大 5 2014/11/10 津波・高潮災害 原田賢治 静大 6 2014/11/17 豪雨災害 牛山素行 静大 7 2014/11/25 洪水・土砂災害 牛山素行 静大 8 2014/12/1 緊急被ばく医療 山岡泰治 浜松医科大 9 2014/12/8 地域社会と災害 矢守克也 京大 10 2014/12/15 災害情報 牛山素行 静大 11 2014/12/22 警報と避難 牛山素行 静大 12 2015/1/5 行政と災害対応 牛山素行 静大 13 2015/1/19 防災行政実務 杉村晃一 静岡市 14 2015/1/26 ハザードマップ 牛山素行 静大 15 2015/2/2 災害と身近な暮らし 横幕早季				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。講義中に適宜資料を配付する。				
参考書	特に指定しない。講義中に文献を紹介する場合がある。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間中に小課題を出題し、その内容を採点する。最後に、出題したすべての小課題の採点結果を集計し、成績を評価する。小課題の出題回数は未定で、出題日は予告しない。出題形式はレポート形式の場合と、クイズ形式の場合があり、いずれも講義時間中に記入、提出する。 ・小課題の提出回数が、出題回数の2/3以上の者を成績評価の対象とする。たとえば、8回出題の場合5回以上の提出が必要となる。成績評価対象者が自動的に「可」以上の成績となる訳ではない。 ・欠席、遅刻などによる小課題の事後提出は認めない。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。 				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学際科目「地震防災」の内容を拡大させた講義です。「地震防災」と本講義は、両方、あるいはどちらか一方のみを受講しても構いません。 ・成績評価方法にも書いてあるように、本講義では小課題の提出回数不足の場合、講義期間終了後にレポート出題などによって救済をすることはありません。単位を絶対に落とすと困るが、欠席回数が増えるかもしれないと思う人は受講しないことを勧めます。 				
教職科目区分					

授業科目名	私たちの生活と植物 (Living with plants)				
担当教員名	木寄 暁子 (KOZAKI Akiko)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 701	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	バイオテクノロジー、遺伝子、遺伝子組換え植物、農業				
授業の目標	植物は私達にとってなくてはならない存在である。この授業では、私達が植物とどう関わってきたのか、またどう関わっていこうとしているのかを考えるとともに、植物を通して環境、バイオテクノロジー、農業などについて考える。				
学習内容	特に遺伝子組換えやクローン技術などのバイオテクノロジーの分野で、人々の関心が高いが、必ずしも正しく理解されていないことに関して、その本質を理解するための基礎を学ぶ。また背景として、私達がどのように植物に関わってきたかを学ぶことで、植物を含む自然環境、そして新しい科学技術と、今後どのように関わっていくべきかを新たな視点で考える力をつける。				
授業計画	1. 植物と人との関わり 2. 生命の歴史と植物 3. 植物の体と細胞 4. 5. 植物の体をつくる物質 6. 7. 遺伝子とは。 8. 9. 遺伝子の働き 10. 11. 遺伝子と農業（栽培植物、品種改良） 12. 13. 遺伝子組換え技術 14. 15. 遺伝子組換え植物の可能性と問題点				
受講要件	理学部生物科学科の学生は履修しないように				
テキスト	特に指定しない				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	エネルギーと環境 (Energy and Environments)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	矢永 誠人、近田 拓未				
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (大矢・近田) 2. エネルギー・環境問題(2) (近田) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：岡田) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：岡田) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	【基礎講座】エネルギーと地球環境				
参考書	原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	ヒューマン・エコロジー (Human Ecology)				
担当教員名	野上 啓一郎 (NOGAMI Keiichiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 608	
分担教員名	雨谷 敬史、戸田 三津夫、安村 基、山脇 和樹、藤本 征司、檜本 正明、恒川 隆生、山本 雅昭、竹之内 裕文				
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ヒューマン・エコロジー、安全・快適・便利、水環境、食料と生活、生態学、風景、環境リスク、行政法、刑法、環境倫理・哲学				
授業の目標	人間と環境との関係を「俯瞰的に見る目」を養うことが目標である。つまり、1. リスクで理解する目、2. 時の流れを見る目（過去と現在を比較する目）、3. 地域の環境容量を見る目、4. 政治・経済・法律を見る目、5. 食料を見る目、6. 景観を見る目、7. 環境倫理・哲学を見る目、7. マインドセットを見る目等である。				
学習内容	リスクで見る原則、持続可能性で見る原則、人間社会を理解する原則、問題解決スキルの原則、感性で見る原則を主な内容とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 野上啓一郎（静岡大学農学部）：はじめに 戸田三津夫（静岡大学工学部）：都市と田舎---安全・快適・便利をもとめて--- 戸田三津夫（静岡大学工学部）：水環境の保全と修復 安村 基（静岡大学農学部）：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 山脇和樹（静岡大学農学部）：食料と生活エネルギーの循環 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 藤本征司（静岡大学農学部）：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 檜本正明（静岡大学農学部）：乾燥地生態系概論 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 山本雅昭（静岡大学法科大学院）：ヒューマンエコロジーをめぐる刑事規制--- 雨谷敬史（静岡県立大学）：室内環境に快適さや安全性を求めて 雨谷敬史（静岡県立大学）：環境リスク評価と管理 野上啓一郎（静岡大学農学部）：国富消尽 竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部）：ヒューマンエコロジーという問い 竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院自然科学系教育部）：人間と動物の間 				
受講要件	特になし				
テキスト	ヒューマンエコロジーをつくる---人と環境の未来を考える---共立出版 野上啓一郎編				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	復習が必要				
成績評価の方法・基準	各教員から指示がある。それらを纏めて評価する。				
オフィスアワー	本講義の責任者である野上まで、メール連絡すること。 afknoga@icloud.com				
担当教員からのメッセージ	授業計画の順番や内容は変更することがあります。				
教職科目区分					

授業科目名	Modern Japanese Literature (Modern Japanese Literature)				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード					
授業の目標	The main goal of this class is to gain a general understanding of the work of a few major writers of Japanese literature who have published in the 20th century. Through their writings we will draw an overview of the major trends in Japanese literature and cultural production.				
学習内容	Every class we will read a short story in English. We will discuss in English the text and the context surrounding its creation. We will then compare selected passages from the English translation with the Japanese original in order to understand the translator's work. When appropriate we will watch movie adaptations of novels written by the writers studied in class.				
授業計画					
受講要件					
テキスト	Theodore W. Goosen(ed.), The Oxford Book of Japanese Short Stories, Oxford University Press, 1997. ISBN 978-0-19-958319-5				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	Exam:30% Final Paper:40% Participation:30% *You cannot be absent more than three times.				
オフィスアワー	Monday, 14:30 to 16:00				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	人間環境と分子科学 (Molecular Science in the Human Environment)				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名	坂本 健吉、大吉 崇文				
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	分子、化学、メディアリテラシー、疑似科学、地球温暖化、環境汚染				
授業の目標	人間をとりまく環境や分子科学については国民の関心も高く、毎日のように多くの報道が行われています。この講義ではこれらについて、誤った報道に惑わされることのない、正しく広い科学的教養を身につけることをめざします。				
学習内容	食品の安全など身近な問題から地球全体の将来に関わる問題まで、今日の環境問題を理解するためには化学物質やその反応について幅広い正確な知識が必要です。報道などでは語られない、これらの問題を理解するために必要な分子科学的な知識を分かりやすく概説します。				
授業計画	環境や分子科学に関する問題を毎回1テーマずつ、臨機応変に取り上げます。これまでに取り上げたテーマは「オゾン層破壊」、「新薬開発」、「形の数学と化学」、「環境ホルモン」、「麻薬」、「iPS細胞」などでした。				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しません。				
参考書	テーマごとに必要であれば随時紹介します。				
予習・復習について	特に必要ありません。				
成績評価の方法・基準	レポートあるいは小試験によって評価します。				
オフィスアワー	特に用事のない限りいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)				
担当教員名	山田 智 (YAMADA Satoshi)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟512	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	歴史学、理論、方法論、中国				
授業の目標	情動に訴える歴史物語の浅薄さから抜け出し、理性で人類社会を認識する「歴史学」の方法に触れ、科学的視野を涵養する。				
学習内容	はじめに歴史学の基礎理論を概観し、その理解を基礎に考古学と文献史学の両面から中国の歴史を、現代から遡りながら俯瞰する。				
授業計画	回	内容			
	1	イントロダクション——「歴史」と「歴史学」——			
	2	考古学の方法論～型式学から歴史学へ			
	3	歴史学の方法論（1）～近代歴史学とマルクス主義			
	4	歴史学の方法論（2）～アナールからシステム論へ			
	5	成果の確認と解説（1）			
	6	中国における「近代」の模索～「周辺化」との戦い			
	7	中華帝国の興亡～交易世界の中の中国			
	8	中国における「古代」の完成～「国家」と「皇帝」の成立			
	9	中国王朝の始まりと専制権力～神話から歴史へ			
	10	成果の確認と解説（2）			
	11	中国における戦争の始まり～「邑制国家」の展開			
	12	殷王朝の「発見」～甲骨文字の世界			
	13	夏王朝の探求（1）～発掘調査の語るもの			
	14	夏王朝の探求（2）～現代中国と「歴史」			
	15	成果の確認と解説（3）			
受講要件	特になし。				
テキスト	特になし。				
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。				
予習・復習について	高校世界史の教科書が手元にあるのであれば、確認しておいてください。				
成績評価の方法・基準	3回に分けて講義内容の理解度を確認します。第1回を30パーセント、他の2回をそれぞれ35パーセントとして成績評価を行います。				
オフィスアワー	水曜日昼休みに研究室へ。				
担当教員からのメッセージ	膨大な歴史用語を「暗記」するのではなく「理解」するように努めてください。				
教職科目区分					

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	森本 隆子 (MORIMOTO Takako)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろうか？ 文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。 偉大なる人気作家たちは、規範に閉塞せず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。 <血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。 近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。 <幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。 「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情… — 「近代小説」の発生 第2～6回 夏目漱石『こころ』 — 2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場 ・<私的空間>の発生 — 純白の愛と性欲と ・男たちの絆 — 三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮 — 愛と友情の連続体 第7、8回 「新しい女」の発生と男たち — 夏目漱石 VS. 森鷗外 第9、10回 <家族映画>を<読む> — 「？」・テキストとしての映画 第11、12回 村上春樹『ノルウェイの森』 — 「まとも」であることの断念・社会からの逃走=闘争 第13回 ジブリの批評性 — 脱・漱石、脱・堀辰雄、あるいは男と国家の退場 第14、15回 女性作家の時代 — ばななの「夢のキッチン」と江国の「きらきら」& 「流しのした」</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて提示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ること、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	後期は火曜56限です。出来れば、あらかじめアポをお取り下さい。				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				
教職科目区分					

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	小清水 貴子 (KOSHIMIZU Takako)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟202C-2	
分担教員名	小川 裕子、冬木 春子、馬居 政幸、渡辺 明広				
クラス	学部共通2	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	少子化、家族、高齢者、障がい者、共生				
授業の目標	1. 少子化や高齢化など人口構造の面から現代日本の状況や背景を考える。 2. 障がい者、高齢者など、いわゆる「弱者」を閉め出す社会について関心を深める。誰もが共生できる社会の実現について、自らの考えを深める。 3. 現代における家族の形態や機能をふまえた上で、多様化する子育てのあり方について現状と課題を探る。 4. 高齢者の居住環境から高齢社会に向けての典型的な生活課題と対策を考える。				
学習内容	1. 現代日本の家族がおかれている状況や問題を調査データを用いて分析し、社会変化と関連させて考察する。 2. 繁栄する現代社会の一方で、私たちの社会は障がい者、高齢者など、いわゆる「弱者」を差別したり、除外するものになってはいないかを検証し、共に学び、共に生きる新しい社会の実現について考える。 3. 多様な子どもの成育環境に注目し、現状と課題を把握する。 4. 高齢者の居住関連の施設に注目して、高齢社会の生活対策について考察する。				
授業計画	回	内容			
	1	なぜ子どもが少なくなったか—少産から晩婚・非婚に			
	2	高齢化率上昇で何が変わるか—単身化と社会保障のミスマッチ			
	3	人口が減るとなぜ問題か—富の分配から負担の再配分へ			
	4	「弱者」（障がい者）を締め出す社会（1）			
	5	「弱者」（障がい者）を締め出す社会（2）			
	6	共生社会の実現に向けて			
	7	共生社会を創る① いのちと向き合う			
	8	共生社会を創る② 子どもの育ちと家族			
	9	共生社会を創る③ 支え合う暮らし			
	10	現代社会と家族			
	11	変容する家族と地域			
	12	男女共同参画社会と子育て			
	13	高齢期の居住課題とそれを支える施策の動向			
	14	我が国の各種高齢者向け住宅・居住施設の現状と課題			
	15	デンマークの高齢者住宅の概要			
受講要件					
テキスト	担当者が遂行する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業の中で課題を示す				
成績評価の方法・基準	出席と授業中のワーク、レポートを総合して評価を行う。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	現代社会における問題解決の担い手として展望を拓けてほしい。				
教職科目区分					

授業科目名	数理の構造 (The Structure of Mathematics)				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	いろいろな数、整数、論理的な証明、演繹的推論、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学の基礎事項にも簡単に触れる。				
学習内容	日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。 高校の数 I 数 A 程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。				
授業計画	以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式をとり、議論に参加を求める場合もある。 1. いろいろな数 2. 整数の話 3. 論証の構造（数理論理学入門） 4. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 5. 線形代数学の基礎				
受講要件	なし。高校 1 年生くらいの数学（数 I 数 A 程度）の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってくれると確実です。				
担当教員からのメッセージ	数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかし、この講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに出席してください。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話を行います。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。				
教職科目区分					

授業科目名	経済と社会 (Economy and Society)				
担当教員名	櫻井 良治 (SAKURAI Ryoji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟413	
分担教員名					
クラス	学部共通5	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	現代経済学入門、ケインズ、景気対策、乗数理論、アベノミックス				
授業の目標	<p>現代経済の基本であるケインズ理論を中心に学ぶ。ケインズ経済学の基本理論について、景気対策を中心に学ぶ。特に、社会保障や公共事業等の課題について、現代経済との関連で学ぶ。</p> <p>最近の政府の経済対策であるアベノミックスについては、その方法と成果について、学ぶ。</p> <p>経済学の基礎となる市場経済については、以下の無償配布テキストで説明する。</p>				
学習内容	<p>図表や解説の多い、分かりやすいテキストにそって、経済と社会について論じた主要な部分を学ぶ。受講生数が少ない場合、学生のグループ発表形式を取り入れる。授業の進展に応じて、授業の関連課題について、学生有志の発表を実施する。この場合、発表内容とレジュメの水準で成績評価する。調査発表課題は、「アベノミックス」となる予定。</p> <p>また、現代経済についてのある程度の理解が得られた時点で、経済新聞等の新聞記事を題材に学生報告を行い、それについて議論する。</p> <p>以上の授業計画は、学生の関心の度合いや経済社会の動向に沿って、教育効果を高めるために、多少の変更がありうる。以下の授業日程は、テキストにそって書かれている。ただし、受講整数によってテキスト使用範囲が減った場合、その部分は新聞発表やグループ発表等に置き換わる。</p>				
授業計画	回	内容			
	1	現代経済入門の解説			
	2	アダム・スミス経済学と国家の役割			
	3	R. A. マスグレイブの国家の役割			
	4	景気調整機能			
	5	自動安定化機能 (build-in-stabilizer)			
	6	裁量的な経済 (財政) 政策			
	7	ケインズの人その政策			
	8	ケインズ理論と失業対策、公共投資			
	9	乗数理論			
	10	赤字公債政策の問題点			
	11	資源配分機能			
	12	所得再分配政策			
	13	景気調整機能			
	14	社会保障の役割の増大			
	15	年金・医療・介護制度の具体的役割			
受講要件	教室内の勉強環境を良好に保つため、授業中のおしゃべり、「内職」を厳禁とし、違反者の受講を禁止する。				
テキスト	(必携) 櫻井良治著『コスト大国日本の財源』勁草書房、2005年5月(大幅な値引き販売予定) テキストは絶版となり市販されていないので、教員が初回の授業で購入方法を案内する。				

参考書	リレー講義テキスト『経済と政策』櫻井担当箇所の市場経済入門に関する部分（ダウンロード、または無料で資料配布）
予習・復習について	週一回の授業ごとに、最低1時間以上の予習・復習を要する。病気等で欠席の場合は、必要箇所を読んでおくこと。
成績評価の方法・基準	以上のように、授業中の発表や報告を評価することによる。受講生が多ければ、小テストやレポートの実施によって評価する。具体的な評価方法については、初回以降に受講整数を把握したうえで、説明する。
オフィスアワー	月曜日 5時30分～6時
担当教員からのメッセージ	テキストは必ず購入すること。授業中頻繁に使用するので、購入意思のないものは受講しないこと。 授業中の質問は評価するが、授業後もメールで受け付ける。 連絡先 所在：共通教育L棟 413 電話：054-238-4279 メール： jersaku@hss.shizuoka.ac.jp 熱心な受講生を歓迎する。現代経済学は、世の中の動きと密接にかかわっていたため、新聞、テレビやインターネット等で、経済・社会の動向について、学んでおくこと。
教職科目区分	

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	橋本 剛 (HASHIMOTO Takeshi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 1	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	心理学、認知心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学、論理的思考力、ソーシャルスキル				
授業の目標	大学生の基礎的素養としての心理学を習得する。				
学習内容	本講義では、心理学の諸領域にわたる基礎的知見を概観することによって、現代心理学の全体像を的確に理解するとともに、大学生として、そして現代社会を生きる一人としての基礎的素養である論理的思考力（クリティカル・シンキング）および対人関係能力（ソーシャル・スキル）の向上を目指す。				
授業計画	回	内容			
	1	心理学の定義と方法			
	2	感覚と知覚			
	3	記憶、認知、思考			
	4	学習、動機、感情			
	5	発達			
	6	パーソナリティと知能			
	7	心理療法とカウンセリング			
	8	ストレスとウェル・ビーイング			
	9	自己			
	10	社会的認知			
	11	社会的影響			
	12	グループ・ダイナミックス			
	13	親しい対人関係			
	14	社会と文化			
	15	まとめ			
受講要件	指定された学部・学年であること。「担当教員からのメッセージ」の約束を守れること。				
テキスト	必携テキストは指定しない。				
参考書	サブテキストとして、長谷川寿一他『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣（2000 円＋税）、橋本 剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社（1650 円＋税）を推奨する。さらに授業時に参考文献を随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習に取り組むこと。授業内容と自身の生活を照らし合わせながら、新たな視点や問題意識を見いだすような開拓精神をもって授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	試験成績 85%、平常点（各回授業の小レポート等）15%。試験期間中に筆記試験（テキスト、レジュメ、ノートいずれも持ち込み不可）を実施する予定。平常点が一定基準を下回った場合は試験成績を問わず単位を認めない場合がある。詳細については初回に説明する。				
オフィスアワー	火曜日 3・4 限を予定。				
担当教員からのメッセージ	難易度 A。適切な学習環境と円滑な授業進行を実現するために、受講マナーを遵守できることを履修申請の条件とします。				
教職科目区分					

授業科目名	数学の世界 (Introduction to Mathematics)				
担当教員名	大田 春外 (OTA Haruto)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	微分、積分、関数、極限				
授業の目標	高等学校で数学 II は学習したが、数学 III の授業を受けていない（または、数学 III を受けたが落ちこぼれてしまった）学生を対象に、微分と積分の講義をします。				
学習内容	高等学校数学 III の微分積分+アルファの内容。具体的には、1 変数関数（特に、分数関数、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数、無理関数）の微分、平均値の定理、置換積分と部分積分、およびそれらの応用が中心。授業時間中だけでは十分な問題演習ができないので、毎週予習・復習のための演習問題を配ります。				
授業計画	回	内容			
	1	関数とグラフ			
	2	微分と微分公式			
	3	合成関数の微分法			
	4	三角関数の微分			
	5	逆三角関数の微分			
	6	指数関数、対数関数の微分			
	7	対数微分法			
	8	高次導関数			
	9	☆中間テスト			
	10	平均値の定理と不定形の極限			
	11	マクローリンの定理・微分の応用			
	12	不定積分と定積分			
	13	置換積分			
	14	部分積分			
	15	定積分の応用			
受講要件	教育学部数学教育専修の学生は、受講出来ません。 高等学校の数学 II の知識を必要とします。				
テキスト	石村園子『やさしく学べる微分積分』共立出版，2000 円+Tax				
参考書	授業の最初に紹介する。				
予習・復習について	数学は復習が特に大切。毎週，復習のための演習問題を配りますので、次週までにしっかり復習しておこう。				
成績評価の方法・基準	中間テスト 30%+期末試験 70%、授業への取り組み状況を加味して評価します。				
オフィスアワー	授業の最初に知らせる。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、高等学校の数学 II の内容を使います。数学 II を学習していない学生は、授業開始までに各自で勉強しておいて下さい。 この授業だけではありませんが、休まず出席することが大切。遅刻もしないように気をつけよう。				
教職科目区分					

授業科目名	化学の世界 (Introduction to Chemistry)				
担当教員名	瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名	山中 正道				
クラス	学部共通 3	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	我々が生活していく上で大切な化学の知識を学ぶ。				
学習内容	我々の身の周りにあるもの（電池・プラスチック・薬など）、日常生活で見聞きする現象（触媒作用・大気汚染など）を化学の視点から見直してみるにより、化学の基礎を学ぶ。				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス：化学を学ぶ意義について			
	2	12 講：地球環境と化学			
	3	17 講：視覚と色素 2			
	4	19 講：農薬とフェロモン			
	5	22 講：栄養とアミノ酸			
	6	23 講：薬と作用			
	7	24 講：ビタミンと病気			
	8	25 講：ホルモンと生体情報			
	9	1 講：銅と文明			
	10	2 講：鉄と生活			
	11	8 講：周期律と元素			
	12	10 講：触媒と反応			
	13	13 講：エネルギーと化学			
	14	15 講：セッケンと洗剤			
	15	21 講：プラスチックと生活			
受講要件	高校で化学 I か理科総合 A を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 2 5 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人 定価 1890 円				
参考書					
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習それぞれ週 1 時間程度テキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として 3 分の 2 以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、出席状況とレポートで判断します。				
オフィスアワー	特に設けません。空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	化学を身近な学問として感じてもらえるとうれしいです。				
教職科目区分					

授業科目名	教育の原理 (Principles of Education)				
担当教員名	菅野 文彦 (SUGANO Fumihiko)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 103	
分担教員名					
クラス	教 (D組)	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	教育理念、教育史、教育思想				
授業の目標	この授業科目は、学校教員の免許状取得希望者を対象とし、教育職員免許法に定める「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する教職科目として位置づけられるものです。教育に関する原理的・歴史的なアプローチを中心としつつ、教育(学)に関する基本的な理解や認識を得ることを目標としています。				
学習内容	まず、人間の「発達」との関連で「教育」が持つ意味をおさえることからはじめ、教育の目的・理念に関する原理と、教育思想の歴史について概説します。さらに、学校教育制度の成立と展開、教育方法(および内容)の歴史的変遷を経て、現代社会における教育のあり方を考えていきます。講義形式と中心とした授業になる予定です。				
授業計画	第1回. 導入 第2回. 1. 人間形成と教育の意味 (1) 動物と人間 (2) 「発達」とは? 第3回. 1. 人間形成と教育の意味 (3) 「教育」とは? 第4回. 1. 人間形成と教育の意味 (4) 「発達」概念の再検討と「教育」の逆機能 第5回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (1) 教育目的とは? 第6回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (2) 教育目的の二面性 第7回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開 第8回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開(続) 第9回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開(続) 第10回. 2. 教育の目的・理念と思想史 (3) 教育思想の歴史的展開(続) 第11回. 3. 学校教育の歴史的展開 (1) 学校の出現と制度化 第12回. 3. 学校教育の歴史的展開 (2) 教育方法の歴史的変遷 第13回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (1) 戦後日本の教育理念 第14回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (2) 社会の変化と教育の目的・目標 第15回. 4. 現代社会と教育の目的・目標 (3) 問われる教育の足場 第16回. 試験				
受講要件	教育学部のD組と指定された人達のための科目です。				
テキスト	資料はプリントして配布します。				
参考書	授業のなかで適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習・復習のし方については、授業のなかで話したり相談に応じたりします。				
成績評価の方法・基準	試験およびレポートその他の提出物から教育(学)に関する基本的な理解や認識がどの程度得られたかを把握し、出欠状況ほか授業への参加度も加味して評価します。知識の習得とともに、自分なりの思考を大切にしましょう。				
オフィスアワー	質問等はなるべく毎回の授業終了後に受けたいと思いますが、その他は適宜、連絡のうえ。				
担当教員からのメッセージ	授業科目の性格上、「昔話」(=歴史の話題)が多くなりますが、各自の思考や理念形成のための素材となることを願っています。				
教職科目区分	【科目区分】教職に関する科目 【含める事項】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）Ⅱ (German II)				
担当教員名	エゲンベルグトーマス (EGGENBERG THOMAS)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	人 1	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、アットホームのような雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>01 Guten Tag! 挨拶の言葉、紹介、数字20まで、スペル、国と言葉</p> <p>02 Freunde, Kollegen und ich 趣味、約束、曜日、仕事・職業・働く時間、数字20以上、何月、季節</p> <p>03 In der Stadt 場所や建物、物、交通手段、外来語</p> <p>04 Guten Appetit! 食事、食文化、スーパーでの買い物</p> <p>05 Tag für Tag 時間、家族、遅刻、電話</p> <p>06 Zeit mit Freunden 旅行計画、誕生日、招待、レストラン、出来事、イベント</p> <p>07 Kontakte 打ち合わせ、説明、手紙、外国語</p> <p>08 Meine Wohnung 部屋、家具、インテリア、好み、ライフスタイル</p> <p>09 Alles Arbeit? 一日の経過、過去の出来事、就職活動、ブログ</p> <p>10 Kleidung und Mode 服、ファッション、デパート、ベルリン</p> <p>11 Gesund und munter 体、スポーツ、医者・病院、健康</p> <p>12 Ab in den Urlaub! 旅行、ガイドブック、ホテルの予約、クレーン、はがき、お土産</p>				

	その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど
受講要件	なし
テキスト	必要な学習ツール： - 教科書：Netzwerk - Kursbuch A1, Langenscheidt 出版社, ISBN 978-3-468-46800-1 - 独和辞典（電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります） - メディアプレーヤーかスマートフォン
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp 静岡大学のドイツ語： www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jmozono/
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtime テスト（20%）、期末テスト（30%）。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。
オフィスアワー	水曜日の昼休み。お気軽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp
担当教員からのメッセージ	
教職科目区分	

授業科目名	数学概論B (Mathematics B)				
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟615	
分担教員名					
クラス	農2	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	ベクトル、線形写像、行列、行列式、連立1次方程式				
授業の目標	行列の演算、行列式の計算および連立1次方程式の解法の修得を目標とする。				
学習内容	数および比例の高次元化である、ベクトルおよび線形写像を調べるために、比例定数の高次元化である行列や、拡大率の一般化である行列式を導入し、その性質を調べ、計算する。また、行列の基本変形を利用して連立1次方程式を解く。				
授業計画	<p>高校時における履修状況等を見て、進度別に3つにクラスを分ける。 3クラスの担当教員は、 クラス1： 若井教員 クラス2： 浅芝教員 クラス3： 依岡教員 である。</p> <p>授業計画</p> <p>0章. 準備 0. 写像と集合 1章. 線形写像と行列 1. 比例の復習 2. 行列 3. 線形写像 4. 行列の積 2章. 行列式 5. 2次行列の行列式 6. 一般の行列式 7. 行列式の列変形 8. 行列式の形 9. 転置行列と行に関する性質 10. 行列式の展開と余因子行列 3章. 連立1次方程式 11. 行列表示とクラメールの公式 12. 掃き出し法 13. 基本変形と基本行列</p>				
受講要件	なし				
テキスト	基礎課程 線形代数, 浅芝秀人著, 培風館, ISBN: 978-4-563-00473-6				
参考書	三宅敏恒著: 「入門線形代数」(培風館) ISBN: 4-563-00216-X 小寺平治著: 「テキスト 線形代数」(共立出版) ISBN: 978-4-320-01710-8				
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	レポートなどの平常点(20%)および試験(80%)によって評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら, できるだけ早く質問に来て下さい。				
シラバス番号					
教職科目区分					

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）Ⅳ (German IV)				
担当教員名	エゲンベルグトーマス (EGGENBERG THOMAS)	所属等	大学教育センター		
		研究室	人文学部A棟 225		
分担教員名					
クラス	人1	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、異文化理解				
授業の目標	中級レベルのドイツ語コミュニケーション能力・聴力・読解力を身につけること。				
学習内容	学習者が中央ヨーロッパの文化により一属興味を持つようになることを願っています。				
授業計画	このコースでは小グループを作り、アットホームのような雰囲気の中でドイツ・スイス・オーストリアの人気作家が書いた短編やエッセーなどを読み、それに基づいて様々な話をしながらたくさんの表現を覚え、また文法規則を応用できるようにしましょう。異文化理解の楽しさを是非、体験してみてください。 ”Diplom Deutsch in Japan”（ドイツ語技能検定試験）の3級レベルを目指す学生にもお勧めです。				
受講要件	初級レベルのドイツ語能力				
テキスト	様々				
参考書					
予習・復習について	各授業にあたって1~2時間程度の予習が必要です。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ（50%）、プレゼンテーション（25%）、会話テスト（25%） 注意：3回以上の欠席＝不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）				
オフィスアワー	月・金曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です： jteggem@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅳ (French Ⅳ)				
担当教員名	コルベイ (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター	
			研究室	人 A325	
分担教員名					
クラス	人 1	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード					
授業の目標	初級終了段階から読める、ある程度まとまったフランス語の文章を精読する。同時に、中級レベル以降の文型や表現についても理解し、運用できることを目標とする。				
学習内容	フランスの様々な時事問題について書かれた文章を毎回取り上げ、精読する。そこに提出される文法事項や重要表現・語彙についても解説し、文型練習などを通して定着を図る。				
授業計画					
受講要件					
テキスト	初回の授業で指示する。				
参考書	フランス語の辞書を必ず持ってくること。				
予習・復習について	授業で学んだ文法・表現を自宅で復習すること。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（30%）、宿題（10%）、中間テスト（30%）、最終テスト（30%）				
オフィスアワー	月曜日の 14：30～16：00				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	生物学Ⅱ（基礎B） (Biology II)				
担当教員名	丑丸 敬史 (USHIMARU Takashi)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名	粟井 光一郎				
クラス	理MP	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	ヒトゲノム、遺伝子治療、性淘汰、癌とタバコ、組換え植物、iPS細胞とクローン、遺伝子と寿命、脂質、機能性食品				
授業の目標	ニュースでとりあげられる生命科学の進展に関して十分な理解が得られるようにする。				
学習内容	基本的な生物のしくみを理解した上で、生物学の進展とそれにより影響を受ける社会の問題を理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子、染色体、ゲノムとは 2. ヒトのこんな行動まで遺伝子で決定されている 3. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う） 4. 遺伝子組換え植物は本当に危険なのか？ 5. iPS細胞とは何か？ 6. 癌とタバコ 7. ヒトはなぜ老化して死ぬのか？ 8. コエンザイム Q10：呼吸の仕組み 9. セラミド：保湿剤？細胞死誘導？ 10. イソフラボン：植物の2次代謝産物 11. 抗酸化物質：細胞をダメージから守る 12. DHA, EPA：頭がよくなる脂肪酸 13. こんにゃくゼリー：本当にカロリーゼロ？ 				
受講要件	生物学Ⅰを受講していることが望ましい。				
テキスト	丑丸：『科学でわかる 男と女の心と脳』麻生一枝著、SoftBank Creative 粟井：特に定めない。				
参考書	適宜配布するプリント、ブログ				
予習・復習について	予習・復習としてテキストおよびプリントをよく読んでおく。				
成績評価の方法・基準	出席（毎回出席代わりに小テストを行う）、期末テスト、レポート。				
オフィスアワー	丑丸：特に定めないが、午後が比較的時間がとりやすいと思います。来る前に連絡をいただければ助かります。 粟井：月曜日 7・8時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	質問を活発にして欲しい。				
教職科目区分					

授業科目名	地球科学Ⅱ（基礎B） (Geosciences II(Fundamentals B))				
担当教員名	森下 祐一 (MORISHITA Yuichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C401	
分担教員名					
クラス	理C B	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	地球科学、プレートテクトニクス、同位体、資源と環境、マグマ熱水系				
授業の目標	様々なトピックスを通じて地球に関心を持ち、地球を理解するよう努める。				
学習内容	社会との接点を持つ課題などの理解し易い例を挙げ、地球科学における研究手法や現在の知見について解説する。また、地球科学分野における機器分析法にも触れる。				
授業計画	<p>授業計画 授業のねらい：地球科学の見かた プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学（地球科学Ⅰの復習） 岩石と鉱物 同位体の性質と分析法 地球科学と化学の接点での学際的研究 地球科学と生物科学の接点での学際的研究 地球科学における機器分析法（気体質量分析法、二次イオン質量分析法など） マグマ熱水系とメタルフロー（社会における金属の役割） 鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴 外国の鉱床、特に白金族鉱床 海底鉱物資源 鉱床成因解明研究と鉱床探査法 地熱発電と温泉、地中熱の利用 資源・環境問題 地球表層変動に関するトピックス</p>				
受講要件	なし				
テキスト	浜島書店 ニューステージ「新地学図表」				
参考書	必要に応じて授業の中で地球科学分野の書籍を紹介する。				
予習・復習について	授業中にプロジェクターで写す内容の要点をノートに書留めて、随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追うことを授業後の復習として欲しい。				
成績評価の方法・基準	2/3以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。				
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問は事前にメールで時間を予約すること。				
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。知識を蓄積するより、地球科学の見方を身につける視点を持って欲しい。				

授業科目名	数学VI (微分積分C) (Mathematics VI (Infinitesimal Calculus C))				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理 P C B G	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	微分方程式、フーリエ解析				
授業の目標	理学部の専門科目を学習するための基礎である微分積分学の応用、特に微分方程式の習得を目標とします。				
学習内容	微分積分 A, B の続きである。微分積分の応用、特に微分方程式の様々な解法に重点をおき説明します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 階の微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1. 変数分離形の微分方程式 1. 2. 1 階線形微分方程式 2. 線形微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 2. 1. 定数係数の 2 階線形微分方程式 2. 2. 微分演算子による記号解法 3. フーリエ解析とラプラス変換 <ol style="list-style-type: none"> 3. 1. フーリエ級数 3. 2. ラプラス変換 4. 偏微分方程式 (フーリエの解法) <ol style="list-style-type: none"> 4. 1. 弦の振動方程式 4. 2. 棒の熱伝道の方程式 				
受講要件	微分積分 A, B の内容を理解していることが望ましいです。				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。				
参考書	洲之内治男, 網谷正信 (著) 新応用解析, サイエンス社, ISBN4-7819-0140-9 C3341				
予習・復習について	授業のノート, 参考書等で予習および復習をしてください。数学を自分のものにするためには演習問題を解くことが重要です。				
成績評価の方法・基準	成績評価は受講態度, レポート (20%) および最終試験 (80%) により総合的に行われます。				
オフィスアワー	初回の講義の際に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	演習問題を解くことによりはじめて数学が自分のものとなります。				
教職科目区分					

授業科目名	物理学 I (力学) (Physics I (Mechanics))				
担当教員名	岡 俊彦 (OKA Toshihiko)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 411	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	力学				
授業の目標	力学の基礎を理解する。				
学習内容	物理学は現代科学の基礎となるもので、生物学や地球科学などの分野を理解するうえでも重要となる。物理学の中でも最も基礎となる力学について学ぶ。				
授業計画	1 インTRODakション 2-3 運動の記述 4 運動の法則 5-7 いろいろな力と運動 8 -9 仕事とエネルギー 10 -12 運動量と角運動量 13 -14 剛体の運動 15 総括				
受講要件	高校のときに物理を勉強していない学生は、前期に開講している「物理入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	「力学 講義ノート」共立出版 (ISBN : 9784320034587)				
参考書	無し				
予習・復習について	必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験などにより評価する。				
オフィスアワー	授業後、適宜。必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	高校で習った数学、とくに微分・積分について復習しておくこと。授業中に小テストを行うことがあるので、毎回 A4 用紙を準備してくること。				
教職科目区分					

授業科目名	地方財政論Ⅱ				
担当教員名	川瀬 憲子 (KAWASE Noriko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟409	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	地方自治、地方分権、公共事業、まちづくり、地方税、課税自主権、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス、地域社会				
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達し、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、分野別に国際比較の観点を交えながら、幅広い洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	現代日本の地方財政をめぐる課題に焦点を当てて、財政学の方法論にしたがって、地方予算、地方経費、公共事業、社会福祉、地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの個々のテーマごとに、制度と国際比較を交えながら解題していく。地方自治における住民参加などの課題に対しては、具体的な事例を元にわかりやすく説明を加えることにしている。				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス			
	2	「分権改革」と地方財政をめぐる課題			
	3	地方予算論－ローカルガバナンスと財政民主主義			
	4	地方経費論①－国家の役割と地方経費			
	5	地方経費論②－日本の地域開発と地方財政			
	6	地方経費論③－民活型地域開発とまちづくり			
	7	地方経費論④－少子高齢社会と地域福祉			
	8	地方税論①－地方税の課税原則			
	9	地方税論②－個人住民税			
	10	地方税論③－法人住民税と法人事業税			
	11	地方税論④－固定資産税、その他の税			
	12	地方財政調整制度論（地方交付税論）			
	13	補助金論			
	14	地方債論			
	15	地方行財政改革をめぐって－住民自治と福祉社会の展望			
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社				
参考書	宮本憲一・遠藤宏一編(2006)『セミナー現代地方財政Ⅰ』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳(2008)『セミナー現代地方財政Ⅱ』勁草書房、川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考書、新聞などをしっかりと読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	平常点(30%)と定期試験(70%)をもとに評価を行う。コメントペーパーや小レポートを課す予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。 科目等履修生：認める。 難易度C				

授業科目名	経済政策Ⅱ (Economic PolicyⅡ)				
担当教員名	寺村 泰 (TERAMURA Tai)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟315	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	経済政策、重商主義、自由主義、帝国主義、現代資本主義、福祉国家				
授業の目標	重商主義から現代資本主義にいたる経済政策を概観し、経済政策の発展過程を学ぶ				
学習内容	本講義は、経済学を学ぶものにとっての基礎教養ともいえる大局的な経済政策の発展過程について考察する。資本主義的な経済システムの展開過程と経済政策の発展・展開過程は密接に関連している。したがって、歴史的な序列に従いながら経済政策の基本的性格の段階的変化を解説する。				
授業計画	重商主義期の経済政策 A 重商主義とは B 前期重商主義の経済政策 C 後期重商主義の経済政策 自由主義期の経済政策 A 産業革命の展開(経済的基礎過程の変化) B 資本主義確率過程における国家の変容(政策主体の確立) C 重商主義政策の廃棄と自由主義経済政策の定置(政策内容) 帝国主義期の経済政策 A 大不況と独占資本の成立(経済的基礎過程の変化、政策主体の変容) B 各国の経済政策(政策内容) C 帝国主義批判の経済政策思想 現代資本主義の経済政策 A 現代国家の特徴 B 現代資本主義の経済政策の形成 C 福祉国家型現代資本主義の成立 D 軍事国家型現代資本主義の成立 E 産業国家型現代資本主義の成立 F 社会主義体制の崩壊と現代資本主義の変容				
受講要件	特になし				
テキスト	レジュメを配布する				
参考書	講義中に指示する				
予習・復習について	特に必要ない				
成績評価の方法・基準	期末の記述式テストで判定する				
オフィスアワー	掲示する				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度B(普通)				
教職科目区分					

授業科目名	企業経済特論Ⅱ				
担当教員名	鈴木 拓也 (Takuya Suzuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟 413	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	5つの競争要因、新製品開発、製品ライフサイクル、プライシング、流通チャネル、IMC、広告、セールス・プロモーション				
授業の目標	マーケティングの基本を一通り理解し、それを使って考える能力を養う。				
学習内容	<p>マーケティングは、企業が自社の商品が売れるようになるために行う諸活動（製品開発、ブランド付け、価格付け、広告など）の総称です。現代ビジネスにおいてマーケティングは必要不可欠のものとなっています。特に多くの業界が成熟している現在においては、いかにして他社との違いを明確にし、それを消費者に認識させるのか、価格をいくらししたら消費者に受け入れられるのか、最適な販路は何かといったマーケティングの課題が企業の戦略において大きな比重を占めるようになっていきます。</p> <p>そこでこの授業では、前期「マーケティング」に引き続き、主に消費財メーカーのマーケティングを想定し、製品、ブランド、消費者行動、プロモーションといったマーケティングの基本について理解します。主に取り上げるテーマは、マーケティング4Pごとの戦略（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、マーケティング・コミュニケーション戦略）、サービス財のマーケティング、人的販売などです。</p>				
授業計画	<p>以下のテーマを主に取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業界の構造分析（5つの競争要因） 2. 製品戦略の立案とライフサイクルを通じてのマーケティング 3. サービスの設計とマネジメント 4. 価格設定戦略と価格プログラムの策定 5. メーカーによる流通チャネル戦略 6. 小売業と卸売業 7. マーケティング・コミュニケーション戦略 8. 広告、セールス・プロモーション 9. 人的販売（セールス・フォース、営業戦略） 				
受講要件	原則として前期「マーケティング」を履修済みであること。夜間主学生については「メッセージ欄」を参照。				
テキスト	フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー（著）、恩藏直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』、ピアソン・エデュケーション、2008年。 ※前期「マーケティング」と同じ本を使用します。				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストの該当部分を読んでくる。復習：教科書、ノート、配布資料を見直す。				
成績評価の方法・基準	期末試験 70%、ミニレポート 30%。1回あたり 1,200 字程度（A4 で 1 枚程度）のレポートを授業中に 3 回課す予定です。				
オフィスアワー	毎週火曜日の 16:00～17:00、18:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（B） ※夜間主コース学生は前期「マーケティング」の単位を取得した場合のみ履修可。 内容は前期「マーケティング」の続きです。必ず「マーケティング」を履修した上でこの授業を受けるようにして下さい。履修する人は初回から必ず出席して下さい。				
教職科目区分					

授業科目名	政策特論Ⅱ (Special Lecture on Policy Ⅱ)				
担当教員名	鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟412	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月9・10
キーワード	I Rs、カジノ、ギャンブル orゲーミング、依存症				
授業の目標	秋の国会で本格的審議が予定されている、いわゆる「カジノ推進法案」。刑法で禁止されてきた民間賭博を合法化しようという同法に社会的関心も高まっています。カジノは果たして、国と地方の経済活性化の起爆剤となるのか？それとも期待外れに終わってギャンブル中毒者増大など社会的コストを高めるだけの結果になるのか？ホットな政策論議を共に行いましょう！				
学習内容	そもそもカジノとは、I Rs（統合型観光施設）とは何なのか？という基本から、アメリカ、韓国、マカオ、シンガポールなどの諸外国ではどういう結果をもたらしたのか？という現状分析を経て、ギャンブルの経済的意味、そして、その経済的メリットとデメリットの比較から、カジノに関する政策決定はどうあるべきかなのかについて学んでいきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. カジノをめぐる賛否の検討 2. 「カジノ賭博」とは何か 3. ギャンブルと依存症の発生 4. ギャンブルの経済的利益とコスト 5. カジノの経済学的検討 6. カニバリゼーション（共食い）の発生 7. カジノがもたらしたもの：海外事例 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	『徹底解剖！カジノ賭博合法化』（合同出版、1200円+税、2014年）				
参考書	適宜授業で指定します。				
予習・復習について	積極的な学習を期待します。				
成績評価の方法・基準	小レポートと最終テストの総合評価です。				
オフィスアワー	水曜日の昼休み時間です。				
担当教員からのメッセージ	ホットな政策論議に対する知的好奇心と探求心を期待します。				
教職科目区分					

授業科目名	経営情報論 (Management Information)				
担当教員名	伊東 暁人 (ITO Akito)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟414	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	ICT（情報通信技術）、経営、組織、意思決定、コミュニケーション、ビジネスプロセス、システム、情報、ネットワーク、企業				
授業の目標	組織（おもに企業）における ICT 利用の変遷を概観したうえで、ICT が組織における意思決定やコミュニケーションに与える影響、ビジネスプロセスの改革、これからの課題について理解してもらうこと。あわせて、経営情報管理にかかわる ICT の基礎的な知識を習得してもらうことです。				
学習内容	経営情報論は、経営学の領域のなかでは最も新しい分野の一つで、その学問体系は必ずしもまだ確立していません。本講義では、組織（おもに企業）における情報技術活用の変遷を踏まえたうえで、どのような考え方でシステム利用が発展してきたのか？、技術と人間の関係はどうあるべきなのか？これからの情報システムの課題は何か？、といったことを考察します。また、授業の中で、情報処理とデータ通信の基礎的な知識を習得してもらう予定です。こうした基礎知識を身につけることは、これから先に、みなさんが様々な新しい情報技術に直面した時にも、その理解の助けとなるでしょう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 講義の概要説明、経営情報論とは何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の到来と企業経営 ・経営資源としての情報 ・組織体と情報システム ・経営情報論の意義 2. 経営情報論の前提としての組織論、戦略論、経営科学 (OR) <ul style="list-style-type: none"> ・経営組織論 ・経営戦略論 ・システムとネットワーク ・オペレーションズリサーチ 3. 経営情報システム概念の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・ADP から MIS ・DSS ・OA ・SIS ・BPR 4. ICT の進展とその基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・データ処理能力の向上 ・標準化の進展 ・DB 技術の発展と活用 ・コミュニケーションネットワーク ・インターネットコンピューティング 5. ICT とビジネスプロセス革新 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の競争環境 ・プロセス革新と企業戦略 ・プロセス革新と ICT 6. ICT とネットビジネスの進展 <ul style="list-style-type: none"> ・シリコンバレーモデル ・サーチエコノミー ・Web2.0 7. ICT と組織変革 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT と組織の関連性 ・組織間関係 ・仲介組織 8. ICT と組織コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・電子的コミュニケーション ・メディア ・組織知の生成 9. ICT と社会 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的存在としての企業 ・ICT の社会的影響 ・情報倫理の諸課題 10. 講義のまとめと今後の課題・展望 <p style="margin-top: 10px;">（講義の展開と進行上、内容が前後したり割愛することがあるかもしれませんが、ご承知おきください）</p>				
受講要件	経営学の初歩的な知識があることを前提とします。				
テキスト	遠山・村田・岸『経営情報論（新版）』（有斐閣）ほかに、レジュメと参考資料を授業 HP から DL してもらいます。				
参考書	大阪市立大商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ2 経営情報』（有斐閣、2003年）など。授業内で適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストで次回授業の箇所を読み、授業 HP からレジュメと参考資料を DL し目を通す。復習：テキストの該当章末練習問題を解いてみる。				
成績評価の方法・基準	月末レポート4回（10%×4回=40%）、期末試験（60%）で評価する予定です。一定回数のレポート提出が期末試験の受験前提資格となります。				
オフィスアワー	正式には初回授業で連絡しますが、火曜 13:00-14:00 を予定しています。				

<p>担当教員からの メッセージ</p>	<p>日ごろから、新聞、雑誌、TVなどで企業や情報システムの実際について関心を持っていることが望ましいです。</p> <p>1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認める） 難易度：B（専門的）</p>
<p>教職科目区分</p>	

授業科目名	世界経済論Ⅱ				
担当教員名	安藤 研一 (ANDO Kenichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟408	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	世界経済、国際通商体制、国際通貨体制、地域経済統合、直接投資、多国籍企業、移民・外国人労働者				
授業の目標	戦後世界経済における制度的・実態的發展についての講義を行う。				
学習内容	戦後世界経済の發展は、それを支える国際機関の發展と不可分である。貿易、為替、生産要素移動などのような国際的経済活動と各種国際機関の相互作用について、GATT/WTO, IMF, EU等の実例に即しながら、説明する。				
授業計画	概ね以下のようなテーマを取り上げながら、戦後世界経済に対する理解を深めるようにする。 1. 世界経済の特徴と發展。 2. 国際経済機関の政治経済学。 3. 戦後国際貿易の發展。 4. 国際通商体制の發展と特徴。 5. グローバリゼーション化の地域経済統合の展開。 6. 国際通貨体制とIMFの發展変容。 7. 地域通貨統合の代表例としてのユーロ。 8. 世界的金融経済通貨危機の展開と意義。				
受講要件	「世界経済論Ⅰ」を受講していることが望ましい。				
テキスト	特に、指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については、学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に、指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ、資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて、新聞・テレビなどのニュースをフォローし、現在の世界経済でどのようなことが起きているのか、ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し、学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験、学期末試験では、論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず、ある程度の文章を書くことを求める。				
オフィスアワー	水曜日 17:30~18:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国、社会があり、そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に、国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更、修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">ミクロ経済学Ⅱ (MicroeconomicsⅡ)</p>				
担当教員名	山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟312	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、消費者行動、独占、寡占				
授業の目標	<p>市場メカニズムの意義について考察します。市場メカニズムで解決できない問題に関しては、代わる解決策を考えます。現代の経済問題を理論的に分析する力を養ってほしいと考えています。併せて、地方上級公務員試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてほしいと思っています。</p>				
学習内容	<p>1年次の「ミクロ経済学Ⅰ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。消費者行動の理論と不完全競争の理論に関して、中級レベルの内容を学びます。</p>				
授業計画	回	内容			
	1	オリエンテーション			
	2	近代経済学の歴史	限界革命		
	3	消費者行動の理論（1）	選好と無差別曲線		
	4	消費者行動の理論（2）	予算制約と最適選択		
	5	消費者行動の理論（3）	効用分析，双対性		
	6	消費者行動の理論（4）	スルツキー分解，需要曲線の導出		
	7	消費者理論の応用	労働供給		
	8	独占の理論（1）	独占均衡		
	9	独占の理論（2）	価格差別化		
	10	独占の理論（3）	独占の規制，部分独占		
	11	寡占の理論（1）	クールノー複占		
	12	寡占の理論（2）	シュタッケルベルグ複占		
	13	寡占の理論（3）	ベルトラン複占		
	14	寡占の理論（4）	屈折需要曲線理論		
	15	独占的競争の理論			
受講要件	ミクロ経済学Ⅰ・経済数学Ⅰを履修済みでない、単位取得は難しいでしょう。				
テキスト	浅利一郎・山下隆之著 『はじめよう経済数学』 日本評論社，2003年。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。 復習…授業時間の2倍を目安として，例題や多くの練習問題を解いて下さい。（学生便覧の人文学部規則第6条を参照。）				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験（100%）				
オフィスアワー	木曜日 12:00-12:45（通年），研究室（L312）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				
教職科目区分					

授業科目名	社会経済論Ⅱ				
担当教員名	遠山 弘徳 (TOHYAMA Hironori)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟325	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	資本主義、制度				
授業の目標	資本主義という経済システム、およびその多様性への制度経済学的アプローチを学習し理解することを目的とします。				
学習内容	1. 所得分配と成長の関係、2. 金融制度、3. 資本主義の長期モデル、4. 資本主義の多様性を理解することを目標とします。				
授業計画	回	内容			
	1	授業ガイダンス：テキスト、授業方法、授業形式および評価方法等について説明			
	2	所得と雇用の決定(1)：テキスト第9章			
	3	所得と雇用の決定(2)：テキスト第9章			
	4	賃金主導型成長と利潤主導型成長：テキスト第9章			
	5	インフレーションとデフレーション：テキスト第10章			
	6	貨幣・金融制度(1)：テキスト第5章			
	7	貨幣・金融制度(2)：テキスト第5章			
	8	中央銀行の独立性：テキスト第5章			
	9	国家の経済への介入(1)：テキスト第6章			
	10	国家の経済への介入(2)：テキスト第6章			
	11	資本主義の構造変化(1)：テキスト第13章			
	12	資本主義の構造変化(2)：テキスト第13章			
	13	資本主義の構造変化(3)：テキスト第13章			
	14	資本主義の多様性(1)			
	15	資本主義の多様性(2)			
受講要件	とくにありません。				
テキスト	宇仁・坂口・遠山・鍋島著『入門社会経済学』(第2版)ナカニシヤ出版				
参考書	ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ出版				
予習・復習について	予習にあたってはテキストを一読することが望まれます。				
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)によって評価します。				
オフィスアワー	第1回の授業のさいにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	講義はパワーポイントを使用して進めます。ファイルは提供しませんので、毎回ノートを取ることを大切となります。				
教職科目区分					

授業科目名	環境政策Ⅱ (Environment PolicyⅡ)				
担当教員名	水谷 洋一 (MIZUTANI Yoichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟401	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	直接規制、環境税、排出量取引、ポリシーミックス				
授業の目標	主要な環境問題をめぐる国内外の政策動向とそれへの経済学をベースとした政策的アプローチのエッセンスを修得することを目標とする。				
学習内容	環境政策における経済的手段のうち、主要なものをいくつか取り上げ、それぞれのアプローチの概要を具体例を引きながら講義する。				
授業計画	<p>(1) 市場均衡と外部性 (2) 市場の失敗とピグー税 (3) 環境政策における経済的手段①：直接規制と税 (4) 環境政策における経済的手段②：ボーモル=オーツ税 (5) EUにおける環境税と日本における環境税導入論議 (6) 環境政策における経済的手段③：排出量取引 (7) EU排出量取引制度とイギリスにおけるポリシー・ミックス</p> <p>■招待講師による特別講座を実施する場合がある。</p>				
受講要件	とくになし				
テキスト	なし（適宜、レジュメや資料プリント等を配布する）				
参考書	授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度レジュメ、資料プリントを読めば十分である。 宿題を出す場合がある。				
成績評価の方法・基準	試験期間中に実施する試験の点数によって成績を評価する。 特別講座を実施する場合には、講座中に行う小レポートの内容も成績評価に含める。				
オフィスアワー	火曜日 11・12 時限を予定。事前連絡が必要。 連絡先メールアドレス（jeymizu@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	講義に計画的に遅刻したり、講義中におしゃべりをする等、受講態度がわるい者には単位を認定しないことがあるので、気をつけること。				
教職科目区分					

授業科目名	理論と情報特論Ⅳ				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	パラダイム、統計学の歴史、統計的推測論、尤度、情報量基準、ベイズ推測論、不完全データの解析、多変量データ解析				
授業の目標	統計学の過去・現在・未来				
学習内容	この講義は、現代統計学の動向を展望することに目的を置きます。特に、経済データの利用を前提とした上で、統計学の新しい考え方である、データサイエンスの観点に立脚した新しい統計的方法の理論と応用について解説します。また統計学が過去どのような理論的發展経過をたどって今日の体系に到達したのか、その歴史についても取り上げます。なお受講生の人数次第では、時折、情報処理室での実習も行う予定です。				
授業計画	序 論：現代統計学のパラダイム Ⅰ．統計学の歴史 Ⅱ．統計的推測論 1. 基礎理論の復習 2. 尤度原理と情報量基準－Kullback-Leibler 情報量と AIC 3. ベイズ推測論 4. ジャックナイフ統計量とブートストラップ法 Ⅲ．不完全データの解析－EM アルゴリズム－ Ⅳ．多変量データ解析 1. 分散共分散行列と相関行列 2. 主成分分析 3. 質的データと数量化の方法				
受講要件	特にありません。				
テキスト	使用しません。				
参考書	開講時に参考文献のリストを配布します。				
予習・復習について	各單元ごとに課題が課せられます。				
成績評価の方法・基準	平常点 10%，單元ごとに課する課題の平均点 40%，期末テスト 50%で総合的に成績を評価します。				
オフィスアワー	開講時に開示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				
教職科目区分					

授業科目名	金融論Ⅱ (Theory of Money and Banking II)				
担当教員名	小倉 将志郎 (OGURA Shoshiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	貨幣(通貨)、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策				
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解				
学習内容	金融論は資金の流れにまつわる諸事象を分析する学問分野ですが、一般的に、いくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度(システム)論」、「金融業務論」、「金融政策論」、「金融史」などです。本講義では、主に「金融制度」と「金融業務」に重点を置いて学習します。なお、「金融論Ⅰ」は「銀行市場」を主に取り扱い、「金融論Ⅱ」は「証券市場」を主に取扱います。				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス			
	2	復習—直接金融とは—			
	3	証券市場と証券の発行			
	4	証券流通市場と証券取引所			
	5	証券会社と証券業務			
	6	証券市場に関する諸規制			
	7	機関投資家と企業への関わり			
	8	投資信託とその仕組み			
	9	保険会社と保険業務			
	10	ヘッジファンドとは何か			
	11	デリバティブの基礎①			
	12	デリバティブの基礎②			
	13	証券化とは何か			
	14	日本の金融システムの現在と未来			
	15	講義内容の総復習(予備)			
受講要件					
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。				
参考書	随時指定していきます。				
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます。中間課題(小レポートまたは小テスト)を課したり、出欠を取ったりした場合は加点対象とします。				
オフィスアワー	月曜15-16時を予定(変更可能性あり)				
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。				
教職科目区分					

授業科目名	統計学Ⅱ (StatisticsⅡ)				
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	母集団と標本、無作為標本抽出、確率変数と確率分布、統計的推定、統計的検定				
授業の目標	推測統計学の基礎と応用について学習します。				
学習内容	<p>本講義では、推測統計学の初歩的な基礎理論とその応用を学習します。推測統計学とは、確率論に基づいたデータ解析の方法（統計的推測の方法）に関する科学です。従って講義ではまず確率論の基礎を学習します。続いて、母集団と標本の区別と、それに基づく推測統計学の基礎概念や諸定理を取り上げそれらについて平易に解説します。その上で、応用上重要な方法である統計的推定と統計的検定法について、さまざまな方法を具体的な分析事例を用いながら解説します。なおその際、これらの手法を統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）に適用する場合の問題点に留意しながら講義を進めていく予定です。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率の基本 2. 確率変数と確率分布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 確率変数と分布 (2) 期待値と分散 (3) 2項目分布 (4) 正規分布 3. 母集団と標本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母集団と標本の峻別 (2) 確率化、復元抽出と非復元抽出 (3) 大数の法則 (4) 衷心極限定理 4. 統計的推定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 良い推定量の基準 (2) 最尤法 (3) 区間推定 5. 統計的検定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 統計的検定の論理 (2) 標本分布 (3) さまざまな統計的検定 6. 標本調査法 				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰを履修していることが望まれます。				
テキスト	金子治平・上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ－基礎編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%），②各単元毎の課題（30%），③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				
教職科目区分					

授業科目名	社会調査論				
担当教員名	平岡 義和 (HIRAOKA Yoshikazu)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C棟402	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	社会調査、調査票、質的調査、データ				
授業の目標	社会学、心理学、文化人類学などの探究方法である社会調査に関する基礎的なリテラシーを身につける。				
学習内容	この授業では、できるだけ実際の調査報告などを題材にして、それぞれの調査の特徴、留意点などについて解説していく。なお、社会学コース関係で質的調査に関する授業が「質的調査法演習Ⅰ・Ⅱ」のみなので、質的調査に関してやや詳しく論じることにはしたい。また、基本的には講義形式で行うが、できるだけ実習の要素を取り入れたい。				
授業計画	回	内容			
	1	オリエンテーション-授業の目的、内容、日程			
	2	社会調査の歴史			
	3	社会調査の意義と限界			
	4	社会調査のウソ-問題のある調査例			
	5	社会調査に取りかかる前に(1)-社会調査と問題意識			
	6	社会調査に取りかかる前に(2)-概念、記述、説明、仮説			
	7	社会調査の諸タイプ-学術調査と実務調査			
	8	質的調査の方法(1)-インタビュー調査			
	9	質的調査の方法(2)-参与観察			
	10	質的調査の方法(3)-ドキュメント分析			
	11	量的調査の方法			
	12	二次データの利用			
	13	調査報告の作成法と読み方			
	14	社会調査と倫理			
	15	質問への回答と小試験			
受講要件	特段の専門知識を必要としない				
テキスト	大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013年				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業ごとに指定したテキストの箇所の予習とともに、課題の提出を求める。				
成績評価の方法・基準	授業ごとの課題と試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	社会学コースを希望する1年生、社会調査士資格の取得を希望する1年生は受講すること。また、フィールドワークで使える社会調査の技法について解説するので、「フィールドワーク基礎演習」にも役立つ内容となっている。 1. 県立大学単位互換(○) 2. 科目等履修生(○) 3. 難易度(A)				
教職科目区分					

授業科目名	文化人類学入門				
担当教員名	長沼 さやか (NAGANUMA Sayaka)	所属等	人文社会科学部		
		研究室			
分担教員名	大野 旭、小松 かおり				
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月9・10
キーワード	文化人類学、文化、社会、フィールドワーク				
授業の目標	文化人類学とは、フィールドワークと異文化理解を通して、人間とその文化、社会のあり方と多様性について考える学問である。文化人類学の方法論と対象の広がりについて学ぶ。				
学習内容	まず、文化人類学の概要と方法について取り上げる。その上で、人間と自然との関係、人間社会の基本単位となってきた家族・親族という集団、民族・国家というより大規模な集団を取り上げ、人間社会の展開と複雑さについて論じる。また、各回においては、特定の地域文化を調査対象とした場合において、文化人類学 の中心的な方法であるフィールドワークをどのように進め、調査の成果をまとめるのかについても講義をおこなう。				
授業計画	第1回 ガイダンス (全員) 第2回 文化人類学とフィールドワーク (長沼) 第3回 人間とサルの境界線 (小松) 第4回 狩猟採集民の暮らしと食 (小松) 第5回 食をめぐる社会関係 (小松) 第6回 グローバリゼーションのなかの食 (小松) 第7回 ジェンダーについて考える (長沼) 第8回 家族と婚姻(長沼) 第9回 親族(長沼) 第10回 民族 (大野) 第11回 民族と宗教 (大野) 第12回 民族と国家 (大野) 第13回 民族問題と国際問題 (大野) 第14回 ナショナリズムの過去と現在 (大野) 第15回 総括				
受講要件	文化人類学概論を受講済であることが望ましい				
テキスト	パワーポイント資料やレジュメを使用する				
参考書	授業時に紹介する				
予習・復習について	授業内容に応じて関連文献を紹介するので、できるだけ参考文献を読むこと				
成績評価の方法・基準	提出物 (40%) + 論述試験 (60%) の合計点で評価する。				
オフィスアワー	授業時に連絡する				
担当教員からのメッセージ	旧カリキュラムの学生は、「文化人類学入門 I」または「人類学 I」に読み替える 1. 県立大学単位互換 (認めない) 2. 科目等履修生 (認めない) 3. 難易度 (A)				
教職科目区分					

授業科目名	日本近世社会史 (Social History of Japanese Early Modern)				
担当教員名	今村 直樹 (Imamura Naoki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担当教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	日本近世史・近代史、「常識」や「通説」の見なおし、歴史と現代				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本近世史・近代史研究における「常識」「通説」を見なおすことができる。 2. 日本近世史・近代史を、現代社会とのつながりのもと学ぶことができる。 3. 日本近世史・近代史における最新の研究成果を学ぶことができる。 				
学習内容	初回はガイダンス、授業の趣旨について論じ、成績評価の方法などの事務的な説明を行う。授業の前半部では日本近代史、後半部では日本近世史における、教科書に掲載されているような「常識」や「通説」について、最新の研究成果に基づき再検討する。				
授業計画	<p>初回 ガイダンス</p> <p>《前半部》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「桜」とナショナリズム ・「日清戦争」像を見なおす ・自由民権運動論の現在 ・【特論①】「付ケ火」の社会史 ・鉄道は地域社会から忌避されたのか ・近代日本における「地方自治」の起源 <p>《後半部》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【特論②】比較史のなかの明治維新 ・幕府外交の実力 ・「鎖国」言説の形成過程 ・日本社会における「年功序列制」の起源 ・「百姓一揆」像をみなおす ・百姓は「重税」にあえていたのか <p>※上記の授業計画は、授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。</p>				
受講要件	高校までの日本史の知識を習得していることが望ましい。				
テキスト	プリントを使用する。				
参考書	『シリーズ日本近現代史①～④』岩波書店、2006～07年。尾藤正英『江戸時代とはなにか』岩波現代文庫、2006年。笠谷和比古『武士道と日本型能力主義』新潮選書、2005年。				
予習・復習について	【予習】高校日本史などの教科書における該当箇所を読んでくること。【復習】毎回の講義で参考文献を示すので、わからない説明などがあれば、文献にあたって復習してほしい。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパー（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。特別な理由なく欠席が3分の1を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	水9・10限。研究室（人文A318）にて。				
担当教員からのメッセージ	コメントペーパーに記入してもらうことがあるので、積極的に疑問・感想などをよせてほしい。また、よせられた質問には、可能な限り講義で答えたい。				
教職科目区分					

授業科目名	ヨーロッパ文明史 I				
担当教員名	藤井 真生 (FUJII Masao)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	ヨーロッパ中世、封建社会、支配、象徴と儀礼				
授業の目標	西洋中世史に関する専門的なテーマについて、その概要を理解するとともに、歴史を学ぶ意義を自分なりに考察することを目標とする。				
学習内容	中世の封建社会は近代的観点からすれば無秩序な世界であったとされる。しかし、近年の研究成果によれば、中世には中世なりの慣習や規範が存在していた。本講義では、封建社会の概要を知るとともに、中世独自の支配のあり方などについて考える。				
授業計画	回	内容			
	1	イントロダクション——ヨーロッパの中世とは——			
	2	マルク・ブロックと『封建社会』			
	3	中世ヨーロッパの輪郭			
	4	生活条件			
	5	主君と家臣（1）			
	6	主君と家臣（2）			
	7	貴族と騎士（1）			
	8	貴族と騎士（2）			
	9	裁判のあり方			
	10	記憶と記録			
	11	支配者の儀礼（1）			
	12	支配者の儀礼（2）			
	13	支配者の儀礼（3）			
	14	身ぶりと象徴			
	15	「国家」の形成			
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	マルク・ブロック『封建社会』（岩波書店）、池上俊一『儀礼と象徴の中世』（岩波書店）、J・C・シュミット『中世の身ぶり』（みすず書房）、J・ル・ゴフ『中世の身体』（藤原書店）、R・バートレット『中世の神判』尚学社、ゲルト・アルトホフ『中世人と権力』（八坂書房）				
予習・復習について	できれば講義と並行して参考書に目を通しておいてください。				
成績評価の方法・基準	期末レポートおよび授業への貢献度（発言回数など）により評価します。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	難易度C この講義を、異なる文化や慣習について理解し、現代の日本社会と中世のヨーロッパ社会の相違点と共通点について思いをめぐらせるきっかけとしてください。				
教職科目区分					

授業科目名	ラテン語Ⅱ				
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟419	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	西洋古典、人文学、ラテン語文法				
授業の目標	ラテン語の簡単な文章を自力で読解できるようになる。				
学習内容	基本的な語形変化についてはすでに習得しているという前提の上で、ラテン語の文章を読むために統語法を中心に学びます。中盤からはラテン語の歌も練習します。				
授業計画	<p>前期の「ラテン語Ⅰ」のあとをうけて、「ラテン語Ⅱ」では統語法を中心に学ぶこととなります。</p> <p>文法を学びつつ、11月からはラテン語のうた（聖歌・讃美歌）などに向かってみようと思います。（美しく歌うことではなく、歌詞の内容を正確に理解することが目的ですが。）1月からは簡単なラテン語の原文に取り組む予定です。</p> <p>*一部の授業では辞書があると便利かと思いますが、購入する必要はありません。図書館のラテン語辞典（Oxford Latin Dictionaryや『羅和辞典』研究社）を使用してください。</p>				
受講要件	ラテン語Ⅰを履修していること。あるいは、それと同等のラテン語力のあること。				
テキスト	田中利光『ラテン語初歩 改訂版』（岩波書店）				
参考書	小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』中公新書(2006年) ISBN9874121018335				
予習・復習について	予習が不可欠です。1回分の予習にかかる時間は、前期の基礎的な部分の暗記をきちんとやっているかどうかによって、相当異なると思います。予習がきつい思ったときは、もう一度基礎的な変化の暗記を行ってください。				
成績評価の方法・基準	授業の平常点（宿題・練習問題への回答：70%）と期末のラテン語課題（30%）。				
オフィスアワー	火曜5・6時限（12:45-14:15）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） ラテン語の世界をのぞいてみてください。結構、楽しい世界です。				
教職科目区分					

授業科目名	応用倫理学				
担当教員名	松田 純 (MATSUDA Jun)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟418	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火9・10
キーワード	生命倫理学、医療倫理学、先端医療、バイオテクノロジー、遺伝医療、終末期医療、生殖補助医療、人体改造、願望実現医療、健康概念				
授業の目標	現代医療の最先端では、これまで不可能であったことが可能になり、常識を覆す技術革新が起こっている。これまで安定していたかに思われる人間の自己理解（人間像）はいま大きく揺らぎつつある。 生命操作技術の開発が生命観や世界観をどう変えるかを見据えた上で、倫理力を鍛える。多様な人間・社会について、歴史・民族・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重できる。				
学習内容	医の伝統的倫理と、戦後の生命倫理学、現代最先端医療が投げかける倫理問題について、具体的なケースをめぐってディスカッションを交えて展開する。先端科学技術の利用をめぐる倫理問題を多角的に考察する。				
授業計画	第1章 倫理，道徳とはなにか 第2章 倫理理論をめぐる対立 第3章 医の倫理（西洋およびインド，中国，日本） 第4章 研究倫理 第5章 生命倫理学（生命倫理の4原則）とモラルディレンマ，具体倫理学 第6章 医療の目的（健康とは，病気とは，医療，QOLとは） 第7章 現代医療の倫理問題 1 誕生をめぐる倫理問題（人工妊娠中絶，生殖補助技術） 2 死をめぐる倫理問題（「死ぬ権利」、安楽死，尊厳死，事前医療指示，緩和医療） 3 臓器移植 4 遺伝医療（ファーマコジェノミクスとパーソナルゲノム） 5 再生医療，iPS細胞と生命操作 6 エンハンスメントと願望実現型医療 第8章 現代倫理学の拡大 1 対人関係を超える倫理 2 動物倫理学——人間中心主義と生命中心主義 3 「人間の尊厳」とはなにか？				
受講要件	とくになし				
テキスト	松田純・川村和美・渡辺義嗣（編）『薬剤師もモラルディレンマ』南山堂 2010年。本書は特定の専門職名をあげているが、内容は生命環境倫理学全般を扱っている。および適宜プリントを配布				
参考書	ミヒャエル・フックス他（著）『科学技術研究の倫理入門』知泉書館、2013年 他は教室で指示				
予習・復習について	テキストを読んで予習してくる。単元ごとにまとめの小レポートをまとめる				
成績評価の方法・基準	グループディスカッションへの参加度、小まとめ数回＋学期末試験による				
オフィスアワー	水 14:30-15:30 その他メールで調整可能				
担当教員からのメッセージ	文系学生であっても、科学技術の動向に関心をもって、現代の諸課題について考える姿勢が大切です。				
教職科目区分					

授業科目名	教育現象の社会学				
担当教員名	荻野 達史 (OGINO Tatsushi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C棟403	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	青年期、学校制度、移行問題、職業社会、後期近代社会、個人化、アイデンティティ、職業教育、就労支援、サブカルチャー				
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、その理解をもとに地域社会や職場などの現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得すること。				
学習内容	青年年期移行問題とは、青年期から成人期への移行について生じる諸々の問題を指している。具体的には、一定年齢層の人々が学校から職業社会へ移行する際に生じる問題ともいえるが、個々人のアイデンティティや家族をめぐる問題なども含まれ、より多角的・多面的に検討する必要がある。本講義ではこうした立場から、歴史的な視点も多く取り入れ、移行問題について現在の理解を深めることを目指す。				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス：青年期移行問題へのアプローチ			
	2	「青年期」の出現と学校制度①欧米の経験			
	3	「青年期」の出現と学校制度②日本の経験			
	4	大衆教育社会の出現：戦後期における高学歴化			
	5	受験と学歴①地位達成をめぐる問題			
	6	受験と学歴②象徴的意味をめぐる問題			
	7	「若者文化」①消費社会と歴史的変遷			
	8	「若者文化」②移行に関わる意識の変化			
	9	家族と若者①「教育家族」の歴史と現在			
	10	家族と若者②ライフコース上の変化			
	11	労働社会と若者①移行システムの歴史			
	12	労働社会と若者②職能形成の社会史			
	13	労働社会と若者③就労支援政策をめぐって			
	14	労働社会と若者④就労支援の現場から			
	15	まとめ：移行システムの包括的再構築に向けて			
受講要件	社会学概論を受講していることが望ましい。調査論や計量分析について一定の知識があると理解がより容易になる。専門性はやや高く、難易度は中程度である。				
テキスト	テキストは特に指定しないが、参考文献についてのリストを適宜配布する。				
参考書	以下のものなどが読みやすい。宮本みち子『若者が社会的弱者に転落する』羊泉社新書、本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書				
予習・復習について	復習に力を入れて欲しい。講義の後は必ずノートを電子ファイル化し、思いついた疑問や意見も含めて書き留めていくことが理解と思考力を高めるだろう。比較的読みやすい文献も紹介するので、ぜひ各自で読み進めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	50%は出欠の確認を兼ねたアンケート（感想・疑問についての自由記述）で、残り50%は期末レポートで評価する。				
オフィスアワー	初回にアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 毎回、授業の終わりにアンケートをとるが、次の講義で毎回10～15分を使って回答する。講義のまとめのような内容ではなく、疑問や質問をコンパクトに書いてもらいたい。				

また、参考文献や新聞などを読んで抱いた疑問などあれば、その回の授業内容に直接関係なくとも書き込んでもらいたい。授業の流れの中で言及していく予定である。

教職科目区分

授業科目名	哲学の歴史Ⅱ				
担当教員名	松田 純 (MATSUDA Jun)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟418	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	哲学、西洋近代、自然観、世界観、社会観				
授業の目標	<p>すべての学の根本にある哲学、その近現代の形成・展開のなかから、われわれが生きる社会と世界の本質に迫り、時代の課題と取り組む鍵を探索する。 哲学史を過去の思想としてではなく、現代との対話のなかに引きだして考察する。 現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得。 多様な人間・社会について、歴史・民族・文化・制度といったさまざまな条件を考慮し、深く理解することができ、同時に共生への志向を尊重できる。 社会を構成する一員としての自覚を前提に、確かな論理的思考力、情報リテラシー、協働的対人能力を修得</p>				
学習内容	西洋近現代哲学の形成と展開をたどり、自然観、世界観、社会観の大きな転換を理解し、現代世界の本質を理解する。				
授業計画	<p>授業計画 1. はじめに——現代の私たちにとって<西洋近代>とは何か？ 2. 西洋近代における自然観の転換——科学革命とその影響、バコン、ガリレオ、デカルト 3. 西洋近代における社会観の転換——ホッブズ、ロック、ルソー 4. 超越神の削除——スピノザ哲学の衝撃 5. 宇宙を映す鏡——ライプニッツのモナド 6. ヒュームとカントの認識論と道徳論 5. 存在から生成へ——17世紀から19世紀にかけての自然観・歴史観の転換 6. ロマン主義——ヘルダーリン、シェリング、ヘーゲル 7. 生の躍動——ベルクソン 8. 解釈学——ディルタイ、ガダマー 9. 現代において共通善は可能か？——ヘーゲル、ミル、ノージック、ロールズ、サンデル</p>				
受講要件	哲学の歴史Ⅰ履修者、哲学概論履修者が望ましい				
テキスト	教室で資料配布				
参考書	教室で指示				
予習・復習について	配付されたプリントを予習・復習する。				
成績評価の方法・基準	小レポート3回程度。学期末試験。総合評価。				
オフィスアワー	水 14:30-15:30 その他メールで調整可能				
担当教員からのメッセージ	すべての学の根本にある哲学、その近現代の形成・展開のなかから、時代の課題と取り組む鍵をみつけてほしい。				
教職科目区分					

授業科目名	先史社会論				
担当教員名	山岡 拓也 (YAMAOKA Takuya)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	遺物の認定、遺物の形態研究、実験考古学、民族考古学、地考古学				
授業の目標	旧石器時代研究において適用されている様々な研究方法と事例研究の成果を概観することをおして、先史社会に接近するための考古学的な研究方法について理解することが、この授業の目標である。				
学習内容	文献資料が残されていない先史時代の研究は、物質資料に基づいて進められる。物質資料から先史社会に迫るために、これまでに様々な研究方法が考案され、実践されてきた。旧石器時代の研究を中心として、先史考古学の様々な研究方法や研究成果を取り上げ、解説する。				
授業計画	<p>以下の内容と順序で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺物の認定方法と後期旧石器時代を遡る時代の研究 <ol style="list-style-type: none"> a 石器の認定方法 b 様々な遺物の認定方法 2. 遺物の形態研究 <ol style="list-style-type: none"> a 日本考古学における遺物の形態研究 b 欧米の考古学における遺物の形態研究 c 遺物の形態研究の原則と事例研究 3. 実験考古学 <ol style="list-style-type: none"> a 実験考古学の方法と研究の広がり b 実験使用痕研究（石器を用いた加工実験）に関わる事例研究 c 実験使用痕研究（石器を用いた刺突実験）に関わる事例研究 4. 民族考古学 <ol style="list-style-type: none"> a 民族考古学の方法と研究の広がり b 欧米の考古学における民族考古学の事例研究 5. 地考古学 <ol style="list-style-type: none"> a 遺跡形成過程と地考古学 b 地考古学に関わる事例研究 				
受講要件	考古学の最も専門的な授業です。考古学概論を履修していることを前提に授業を進めます。				
テキスト	なし。適宜プリントを配布します。				
参考書	授業の内容に関連する参考書は適宜紹介します。				
予習・復習について	授業で紹介された参考書を自ら入手し、読解するなどをつうじて、授業内容の理解をさらに深めてください。				
成績評価の方法・基準	学期末のレポート（80%）と出席状況（20%）により評価します				
オフィスアワー	水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（j_t.yamao@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	考古学の最も専門的な授業ですので、履修に際してその点を注意してください。				
教職科目区分					

授業科目名	臨床社会心理学Ⅱ				
担当教員名	江口 昌克 (EGUCHI Masakatsu)		所属等	人文社会科学研究科	
			研究室	人文学部B棟504-1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	臨床社会心理学、ストレスマネジメント、ソーシャル・サポート、コミュニティ・アプローチ				
授業の目標	臨床心理学と社会心理学の接点とその相互循環性を理解する。				
学習内容	臨床心理学的援助において、被援助者（援助対象者）はどのような体験をしているのか、またその問題となる事象が生起する背景にはどのような社会的文脈があるのか、個人・グループ・コミュニティにおける事例を中心に検討し理解を深めていく。講義だけでなく、受講者間でのディスカッションも取り入れながら授業を進める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床社会心理学とは何か 2. 臨床社会心理学の基礎理論 3. 臨床社会心理学的アプローチの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・抑うつと認知行動療法 ・がん患者および家族への支援 ・学校適応をめぐる諸問題～ピアサポート活動の展開～ ・犯罪被害者への支援 ・災害被災者への支援 4. ヘルスケア・システムへの提言 <ul style="list-style-type: none"> ・家族のメンタルヘルス ・学校のメンタルヘルス ・職場のメンタルヘルス ・地域のメンタルヘルス 5. 健康心理学とコミュニティ心理学 <p>以上のテーマを授業で取り上げる予定。</p>				
受講要件	心理学概論および基礎心理学Ⅰの履修を前提として授業を進めるので、未履修者は特に積極的に補足学習すること。				
テキスト	特に指定しない				
参考書	坂本真士・丹野義彦・安藤清志編 2007 臨床社会心理学 東京大学出版会 坂本真士・佐藤健二編 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポート内容および出席状況を総合的に判断し評価する。 なお、レポートについては、授業時の小レポート（複数回）と最終講義終了後に提出する2種類からなる。				
オフィスアワー	初回授業時にアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	授業では、「個人と社会」、「家族と社会」、「集団と社会」との関係を、常に自分自身に準えて想像・思考する態度が求められる。				
教職科目区分					

授業科目名	アジア近現代史				
担当教員名	戸部 健 (TOBE Ken)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	A221	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	中国、近代史、現代史、国民党、共産党、日中戦争、中華人民共和国				
授業の目標	1) 近年の研究動向に適宜言及しながら、1920年代から1950年代にかけての中国史を見ていく。 2) 近代中国社会にとって、国家・党・日本・戦争などの要素がどのような意味を持ったのかについて考える。				
学習内容	1920年代～1950年代の中国史を、周辺各国との関係にも注意しながら概説的に見ていく。この時代、中国では政治的転変がめまぐるしく起ったが、そうした転変が起った原因や、その社会的な影響についても適宜論じる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 中国近現代史研究の趨勢 3. 中国共産党の成立 4. 国民党の動向 5. 国民革命と満洲事変 6. 南京国民政府と国民党 7. 革命根拠地の動き 8. 1930年代における日中関係 9. 日中戦争下の中国社会—重慶国民政府 10. 日中戦争下の中国社会—抗日根拠地 11. 日中戦争下の中国社会—日本統治下の地域 12. 日中戦争後の中国社会 13. 国共内戦と中華人民共和国の成立 14. 1950年代の中国社会 				
受講要件	特にありませんが、外国史概論とアジア史概説をあらかじめ受講しておくこと、授業内容をより深く理解できます。				
テキスト	特にありません。				
参考書	菊池秀明『ラストエンペラーと近代中国：清末・中華民国』（中国の歴史10）講談社、2005年。久保亨ほか『現代中国の歴史—兩岸三地100年のあゆみ』東京大学出版会、2008年。飯島渉ほか編『シリーズ20世紀中国史』1～4、東京大学出版会、2009年など。その他の参考文献は適宜授業中に指示します。				
予習・復習について	授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。				
成績評価の方法・基準	期末テスト：出席点など＝7：3とします。				
オフィスアワー	水曜日3・4限（10：20～11：50）。事前アポが必要（jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	授業で興味関心を持ったことについてはそのままにせず、文献を読むなどして各自研鑽を深めるようにして下さい。 難易度（B）				
教職科目区分					

授業科目名	考古学概論				
担当教員名	篠原 和大 (SHINOHARA Kazuhiro)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟315	
分担教員名	山岡 拓也				
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	考古学、遺跡、遺構、遺物、型式学、層位学、考古学的調査法				
授業の目標	考古学がどのような学問かを理解し、遺跡・遺構・遺物からその内容を考えるとともに研究方法、調査法について理解する。				
学習内容	考古学では、遺跡をいろいろな角度から調査し、そこでいろいろな方法を用いて種々の情報を引き出していく。また、その成果を室内に持ち帰った後にも、いろいろな方法を用いてものを分析し、考古学的な結論を導き出していく学問である。このような、考古学の調査から研究に至る過程を紹介しながら、考古学がなにを考える学問かを解説していく。				
授業計画	I 考古学とは ①考古学と現代社会ー考古学のイメージ／②考古学の資料と考古学の特徴 II 考古学の研究法の基礎 ①層位学と型式学／②遺跡と時間・空間 ③考古資料の分類と視点 III 考古学の調査の方法 ①遺跡の形成と考古学的調査／②考古学的調査の方法 ③資料の記録と整理／④報告書の刊行まで IV 考古学の新しい方法 ①考古学と関連分野／②ミドルレンジセオリー／③形成過程理論 V 考古学の多様化 ①環境考古学／②実験考古学／③民族考古学 VI まとめ				
受講要件	なし。ただし、受講希望者数に応じた教室が確保できない場合は、人数を制限することがあります。				
テキスト	なし。毎回プリントを配布します。				
参考書	藤本 強『考古学の方法』2000年東京大学出版会。このほかの関連する文献は適宜紹介します。				
予習・復習について	資料（プリント）の多くは事前に配布しますので目を通しておいてください。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。				
成績評価の方法・基準	出席状況（20％）と筆記試験（80％）とで評価します。				
オフィスアワー	篠原：水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（j s k sino@ipc.shizuoka.ac.jp）。 山岡：水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（j t yamao@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	遺跡や博物館で実際にものを見ることをおすすめします。登呂遺跡や賤機山古墳、片山廃寺など近隣にも重要な遺跡があります。リニューアルされた登呂博物館・登呂遺跡公園は是非見学してください。				
教職科目区分					

授業科目名	社会心理学Ⅱ				
担当教員名	橋本 剛 (HASHIMOTO Takeshi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟411	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	コミュニケーション、ソーシャルスキル、対人関係、親密性、恋愛、セクシュアリティ、進化心理学、ジェンダー、メディア・コミュニケーション、リスク・コミュニケーション				
授業の目標	コミュニケーションと対人関係にまつわる社会心理学の基礎的な知識を習得する。				
学習内容	対人関係の形成・発展・維持・崩壊という一連のプロセスは、コミュニケーションを通じて進展する。本講義では、友人関係、恋人関係の身近な対人関係から、インターネットやマスメディアに至るまでのさまざまなコミュニケーションについて、社会心理学・対人心理学の観点から理解することを目指す。				
授業計画	回	内容			
	1	オリエンテーション			
	2	コミュニケーションとは			
	3	ソーシャルスキル			
	4	対人魅力			
	5	親密化過程			
	6	恋愛の心理学			
	7	アタッチメント			
	8	セクシュアリティ			
	9	進化心理学			
	10	ジェンダー			
	11	親密な関係のダークサイド			
	12	対人関係の終結			
	13	メディア・コミュニケーション			
	14	リスク・コミュニケーション			
	15	まとめ			
受講要件	心理学概論と基礎心理学Ⅰを履修済みであることが望ましい。該当しない場合は自習で補うこと。				
テキスト	吉田俊和・橋本剛・小川一美（編）『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版				
参考書	吉田俊和・元吉忠寛（編著）『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版／和田実（編著）『男と女の対人心理学』北大路書房／池田謙一他『社会心理学』有斐閣／相川充・高井次郎（編著）『コミュニケーションと対人関係』誠信書房／橋本剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社／その他随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。				
成績評価の方法・基準	成績は試験成績（85%）と各回授業時の小レポート（15%）により評価する。				
オフィスアワー	水曜5・6限を予定している。				
担当教員からのメッセージ	社会心理学の全体像を理解するために、前期開講の「社会心理学Ⅰ」および来年開講予定の「臨床社会心理学Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。 難易度B。				
教職科目区分					

授業科目名	基礎心理学				
担当教員名	田辺 肇 (TANABE Hajime)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟412	
分担教員名	江口 昌克				
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	意識と行動、研究法と歴史、心的過程・無意識・モデル、感覚器官と脳、知覚と記憶、動機付けと学習、心の障害とメンタルヘルス、家族とコミュニティ、グループプロセス、集団力動				
授業の目標	心理学の知識と探究方法の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間の心のあり方について深く理解しつつ、共生への志向を高める。また、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	心理学の学習のための基礎となる専門知識の習得を図る。心理学概論で採り上げなかった知覚、記憶、動機付け、学習などの体験の基礎過程やその生物学的基礎を中心に、心理学とはどのような学問領域であるかについて、心理学の研究領域、心理学の歴史と諸理論(基本的認識枠組み)、心理学的な問題のとらえ方・考え方の特徴について論じる。加えて、心の障害とメンタルヘルス、家族とコミュニティ、グループプロセスなどを検討する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：心理学の領域の拡がりと学び方（1章：田辺） 2. 感覚（10章：田辺） 3. 知覚（11章：田辺） 4. 記憶（12章：田辺） 5. 脳と心（15章・16章：田辺） 6. 意識と行動：“こころ”の研究の歴史（心理学の方法と認識枠組みⅠ：田辺） 7. 科学的心理学研究（心理学の方法と認識枠組みⅡ：田辺） 8. 了解的人間理解と現象学的アプローチ、構成主義、批判心理学（心理学の方法と認識枠組みⅢ：田辺） 9. 動機づけ（5章：江口） 10. 学習（13章：江口） 11. 思考（14章：江口） 12. 心の障害とメンタルヘルス（精神保健と福祉）の基礎知識（社会と心理臨床の関連Ⅰ：江口） 13. 家族へのアプローチ（社会と心理臨床の関連Ⅱ：江口） 14. コミュニティへのアプローチ（社会と心理臨床の関連Ⅲ：江口） 15. 集団心理とグループ・プロセス（社会と心理臨床の関連Ⅳ：江口） ※単元末尾の章は教科書の関連のある箇所を示す。				
受講要件	心理学コースへの進学を考える人は、心理学概論と併せて必ず履修すること。1科目で心理学の全体を概説する科目としては「心理学」「心理学の世界」（隔年開講）の履修を勧める。				
テキスト	長谷川寿一ら（著）『はじめて出会う心理学 改訂版』有斐閣 2008 (ISBN:4641123454) 2, 100 円。 授業時必携。				
参考書	内田一成（監訳）『ヒルガードの心理学』（15版）金剛出版 (ISBN:4772412336) / 無藤隆ら（著）『心理学 New Liberal Arts Selection』有斐閣 / 中島義明ら（編）『心理学辞典』有斐閣 (CD-ROM版あり) / 中島義明ら（編）『新・心理学の基礎知識』有斐閣 (ISBN:4641183112) (CD-ROM版あり) / 藤永保（監修）『最新 心理学事典』平凡社 (ISBN:458210603X)				
予習・復習について	上に挙げたテキストおよび参考文献を参照しながら以下の方法を参考に予習・復習を充分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	選択肢式客観試験（持込不可）の成績で評価するが、授業への参加状況等を加味して（10%程度）評価する場合がある。試験範囲は講義であつたことを中心に、教科書や参考書の関連部分から一部出題される。参加状況には、授業への質問、意見、感想の提出や、予習、復習、課題への取り組みなどを含む。				
オフィスアワー	水曜7・8限（田辺）、火曜3・4限（江口）				
担当教員からのメッセージ	社会科学の心理学関係の講義系科目は、心理学概論と基礎心理学の履修を前提に展開されるので、2年次以降開講の心理学講義科目を履修する人は事前に履修しておくこと。 /				

「ヒルガードの心理学」は高価で個人購入向きでないが13-15版の訳本が図書館にある。原本の「(Atkinson &) Hilgard's Introduction to Psychology」は心理学教科書のグローバルスタンダード。原本を読む手引きとして訳本や辞典等を参照して学習するのが理想的な自習(予習・復習)の一つの方法だろう。/
難易度A (入門科目だが、教養科目ではない。専門的な学習のための基礎の修得する科目である)

教職科目区分

授業科目名	日本文学概論Ⅱ (Introduction to Japanese Literature II)				
担当教員名	森本 隆子 (MORIMOTO Takako)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	テキスト批評、個・家族・国家、innerself、語り=騙り、ジェンダー&セクシュアリティ、ホモソーシャル連続体、レズビアン連続体				
授業の目標	西欧のダイレクトな影響下に展開する日本近代文学について、通史に添いながら、その特質と限界を理解し、あわせ、文学テキストを読解する批評理論にも精通したい。				
学習内容	<p>恋愛・友情・青春・家族……—東西を問わず、近代文学の主要なモチーフとなり続けてきたこれらの概念は、近代国家が、その存立の必要上、意図的に構築し、半ば強制的に我々に課してきた人生の目標であった。</p> <p><文学>は<時代>の掣肘を受けながら、また、それに抗い続ける。明治から現代へ、男性中心主義的文学が、女性文学とサブカルへ席を譲ってゆく中で、これらの概念をめぐる葛藤と変容は、どのような文学テキストを生成してきただろうか。</p> <p><近代の終焉>を前に、徹底的な洗い出しと検証を図りたい。</p>				
授業計画	<p><近代編—家族(女)への逃走・家族(女)からの逃走></p> <p>◆夏目漱石の登場——男として立てない男の文明批評</p> <ul style="list-style-type: none"> 『坊っちゃん』—女みみたいな赤シャツと宛てにならないマドンナと言葉を持ってない未熟者 『こころ』—恋愛幻想の崩壊とホモソーシャル連続体としての「淋しい明治の精神」 <p>◆私的=性的空間の変奏—<自然主義 VS. 反自然主義>の統合点、大正文学への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人称告白体の成熟—鷗外・花袋・藤村から谷崎へ <現代編—核家族(ロマンチックラブ)の挫折から脱家族(親密感)の探求へ> <p>◆村上春樹の登場——都会の単独者・<世界の終り>(自分にしか行き着かない世界)をめぐる攻防</p> <ul style="list-style-type: none"> 分岐点としての『ノルウェイの森』—デタッチメントは批評性を獲得し得るか? <p>◆<サブカル>と<女性文学>の台頭</p> <ul style="list-style-type: none"> ジブリは近代を「再・解釈=批評」する—<水底の漱石 VS. ポニョ>、そして『風立ちぬ』 川上弘美『センセイの鞆』—反転する『瀬東綺譚』・男たちへの挽歌 ばななど江國—<孤独>の吟味がもたらすもの、あるいは<家族・恋愛・友情>の脱構築 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	生協書籍部にて販売。詳細は教室で指示します。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、前田愛『文学テキスト入門』(ちくま学芸文庫)、大澤真幸『不可能性の時代』(岩波新書)他。詳細は教室にて。				
予習・復習について	概論ですので、教室での各テキストの精読は不可能です。授業中のガイドを参考に、貪欲に、いろいろなテキストを涉猟してみよう。				
成績評価の方法・基準	各回最後のコメントペーパーの内容+期末の大レポートを総合します。				
オフィスアワー	火曜9・10限。直前でもかまいませんので、事前予約して頂けると有り難いです。				
担当教員からのメッセージ	文学作品は時代の落とし子、であると同時に、また時代をその特質から歪みまで鮮明に映し出す鏡でもあるでしょう。<読み>のさまざまを提供しますので、近代文学の豊かさを味わってほしいと思います。				
教職科目区分					

授業科目名	日本・アジア言語文化基礎論 I (Studies in Japanese Language and Culture I)				
担当教員名	袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	東アジア、太陽信仰、神話、対馬、琉球、韓国、天道信仰				
授業の目標	日本とその周辺地域における太陽信仰に関する神話を通して、東アジアに広く見られる母子の神の流離譚の意味を考えるとともに、民俗学的な知識についても理解を深める。				
学習内容	『古事記』・『日本書紀』（日本）、『おもろさうし』（琉球）、天道法師の由来記（対馬）、『三国遺事』（韓国）などの各地の神話や伝承を読み、解説を加えながら、それぞれの特徴を比較検討していく形で授業を進めていく。				
授業計画	回	内容			
	1	「お天道様」と祈り			
	2	古代日本の太陽信仰			
	3	『古事記』におけるアマテラスとスサノヲ			
	4	『日本書紀』におけるアマテラスとスサノヲ①			
	5	『日本書紀』におけるアマテラスとスサノヲ②			
	6	海幸山幸神話			
	7	出雲神話における太陽神			
	8	対馬の天道信仰			
	9	母神と子神			
	10	琉球の「テダ」と「ニライカナイ」			
	11	韓国の王権神話と日光感精神話①朱蒙神話			
	12	韓国の王権神話と日光感精神話②帝釈ポンプリ			
	13	神功皇后神話と八幡信仰			
	14	太陽信仰と山岳信仰			
	15	太陽と神々の流離			
受講要件	特になし。				
テキスト	授業の際に配布するプリントをテキストとする。				
参考書	伊藤聡『神道とは何か 神と仏の日本史』（中公新書、2012年）、鈴木正崇『祭祀と空間のコスモロジー』（春秋社、2005年）など。				
予習・復習について	漢文や古文のテキストを読むので、十分に予習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、コメント・ペーパー30%、授業態度20%。				
オフィスアワー	金曜日 12:30～13:30（事前に連絡をもらえれば曜日や時間は調整できます。）				
担当教員からのメッセージ	神話や民俗学に興味のある方にお勧めです。				
教職科目区分					

授業科目名	比較文学文化基礎講読Ⅴ				
担当教員名	大原 志麻 (Shima Ohara)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 522	
分担教員名					
クラス	人文専門 1 A	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ、地域研究、比較文化、国際社会				
授業の目標	スペイン語文法の基礎を踏まえた上で、スペイン語の読解力を伸ばし、広大なスペイン語圏への文化や歴史についての知識を深める。				
学習内容	スペイン・ラテンアメリカに広がる広大な文化圏について述べられたスペイン語による歴史、文化、社会問題などについての叙述を講読する。				
授業計画	アンダルシアの庭園、イエズス会による中南米のインディオへのキリスト教の布教、世界遺産、自然遺産、大学、イベリア半島史、スペインとラテンアメリカ世界の食文化の出会い、前コロンブス期のラテンアメリカ世界、ナショナルアイデンティティを形成した gaucho、バルセロナのモデルニスモ、気候状況、ラテンアメリカ世界のヨーロッパ文化への抵抗、カースト制度による社会の階層化、スペイン文学史、大土地所有による社会問題、広大な地域のスペイン語化のプロセス、キューバ革命について書かれたスペイン語の長文を読み進め、スペイン語の読解力を深めるとともに、スペイン語圏の歴史と文学文化への知識を広める。				
受講要件	初修外国語（スペイン語）、スペイン語 III を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	井尻直志、林美智代、田尻陽一『23 lecturas de español 読んで学べるスペイン語 23 話』朝日出版社（2100 円プラス税）。				
参考書					
予習・復習について	スペイン語を所見で読むのは困難です。必ず事前に予習をしてきて下さい。				
成績評価の方法・基準	出席、受講態度、予習状況などから判断します。				
オフィスアワー	木曜 1・2 限大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	国際競争力が問われることが当たり前となってきた昨今、目的意識を持ってスペイン語力を身につけていって下さい。				
教職科目区分					

授業科目名	日本文学史Ⅳ				
担当教員名	袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	古代文学、漢字、万葉仮名、変体仮名、和歌、物語、女流文学				
授業の目標	古代から中世にかけての文学の大きな流れを把握し、基本的な知識を正確に身に着けるとともに、個々の文学作品についての理解を深める。				
学習内容	文学史とは、特定の価値と基準のもとに語られる主観的な歴史叙述である。百人がいれば、百通りの文学史が可能であるとも言えるだろう。この講義では、真名（漢字）と仮名（ひらがな）の対立から融合に至るプロセスとして古代文学史全体を構図的に把握することを試みる。作品としては、『日本書紀』・『万葉集』から『源氏物語』・『栄花物語』までの諸作品を取り上げることになるが、律令体制や婚姻制度などの当時の貴族社会の歴史的背景も視野に入れながら、講義を進めていく。				
授業計画	各回、一作品を取り上げる形で講義を行う。作品の概要を説明した上で、具体的に作品の一部を読み、形式と内容の両面から作品の意義を考えていく。受講生は、それぞれの作品の特徴を理解すると同時に、文学史的な大きな流れの中でその作品がどのような意味を持つのか、通史的な視点を併せ持つことが求められる。また、授業では、真名と仮名の表記の問題もあるので、できるだけ活字本ではなく、影印本の原文を読む形で授業を進める。なお、理解度を確かめるために簡単な小テストを行うので、授業内容をよく復習して授業に臨むよう心掛けてほしい。				
	回	内容			
	1	文学史の意味			
	2	日本書紀—律令国家と史書編纂			
	3	万葉集—漢字と和語			
	4	懐風藻—公の文学			
	5	文華秀麗集—国風暗黒時代			
	6	新撰万葉集—和歌と漢詩			
	7	古今和歌集—詩経の内面化			
	8	土佐日記—文字とジェンダー			
	9	伊勢集—物語への萌芽			
	10	大和物語—歌物語と歴史叙述			
	11	竹取物語—物語の元祖			
	12	蜻蛉日記—古物語の克服			
	13	紫式部日記—二つの価値観			
	14	源氏物語—物語論			
	15	栄花物語—仮名と歴史叙述(まとめ)			
受講要件	特になし				
テキスト	テキスト・資料は、授業の際にプリントして配布する(配布したプリントは各自よく整理して、毎回、授業に持ってくること)				
参考書	文学史に関する文献は多数に上るので、適宜、授業内で紹介する。				
予習・復習について	毎回、前回の作品についての小テストを行うので、授業内容をよく復習して授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト 40%、試験 40%、授業への取り組み 20%				

オフィスアワー	金曜日 12:00～13:00(ただし、質問・相談は随時対応するので事前にメール等で連絡のこと)
担当教員からのメッセージ	漢詩文や変体仮名を含め、原文で読むことが多いので、少しきついかもしれません。ただ、確実に実力がつくと思います。
教職科目区分	

授業科目名	中国語史				
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人 A324	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	漢語、漢字音、方言、歴史				
授業の目標	漢字の形、音、義について勉強し、漢字の発展を知る。現代方言や漢字文化圏の漢字音との比較対照から漢字の歴史を学ぶ。さらに文法や表現の歴史的発展から漢語の歴史を学ぶ。				
学習内容	漢字の形、発音、意味。 諸方言における漢字の発音、漢字文化圏における漢字音 文法の変遷				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス			
	2	中国語と漢字			
	3	漢字の変遷			
	4	辞書編纂の流れ			
	5	音韻学の夜明け			
	6	古代音を蘇らせる資料			
	7	中古音から現代音へー声母			
	8	中古音から現代音へー韻母			
	9	中古音から現代音へー声調			
	10	義書の編集			
	11	方言調査			
	12	基本的な文構造			
	13	文法研究の夜明け			
	14	文法研究の創成			
	15	表現法の移り変わり			
受講要件	初級中国語習得済み、中国言語文化に興味のある人				
テキスト	大島正二 2011 『中国語の歴史』 大修館書店 ISBN 978-4-469-23314-8				
参考書	語文出版社 『漢語方言字彙』、『漢語方言語彙』 上海辞書出版社 『広韻』				
予習・復習について	予習をしっかりと行ってから授業に臨むこと、授業の後の復習が大事				
成績評価の方法・基準	授業への参加(授業中の質疑応答、課題の提出)と最終試験／レポートを併せて評価する				
オフィスアワー	火曜の昼休み				
担当教員からのメッセージ	中国語の歴史、特に漢字の歴史は日本や朝鮮などの漢字の歴史でもある。日本や朝鮮の漢字音と合わせて見ると本当に面白いことに出会います。				
教職科目区分	必修				

授業科目名	翻訳論Ⅲ				
担当教員名	今野 喜和人 (KONNO Kiwahito)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟425	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	翻訳可能性、翻訳不可能性、翻訳の倫理				
授業の目標	翻訳にはどのような困難があるか知ること、異文化理解の根本に関わる問題を考察する。				
学習内容	翻訳にまつわる様々な困難について、実例を通して学ぶ。				
授業計画	<p>翻訳を研究するには様々なアプローチが考えられるが、本授業では厳密に方法論を限定せず、翻訳にはどのような困難があり、翻訳家はそれをどう克服しているかを見て行きたい。毎回テーマを決めて、外国語→日本語の例と、日本語→外国語の例を少なくとも一つずつは考察する。扱うべきテーマを例示すれば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) レアリア (言語外現実) 2) 言葉遊び、しゃれ 3) 詩の韻律 4) 方言、文体 5) コノテーション、間テキスト性 6) 文法構造 <p>これらの問題を通じて、翻訳は言語学はもちろんのこと、比較文学、比較文化、その他哲学を含む人文系のすべての学問領域に関わる問題であることを明らかにして行きたい。</p>				
受講要件	英語プラス第2外国語の知識が必要とされる。				
テキスト	毎回コピーの形で配付する。				
参考書	そのつど指示する。				
予習・復習について	前もってプリントを配布した場合は、プリントに記された外国語の内容を把握しておくこと。				
成績評価の方法・基準	学期末にレポートを課すほか、授業中に提出した小課題も評価の対象とする。				
オフィスアワー	火曜3・4限。できれば事前にアポイントメントをメールで取る方が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	難易度B。				
教職科目区分					

授業科目名	比較言語文化基礎演習Ⅱ				
担当教員名	花方 寿行 (HANAGATA Kazuyuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟515	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水9・10
キーワード	昔話、神話、構造主義、比較文化、ロシア				
授業の目標	構造主義と昔話研究についての、基礎的な知識を身につける。				
学習内容	<p>昔話研究において重要な、構造に注目した分類研究の方法について、先駆的な研究であるウラジミール・プロップの『昔話の形態学』を読みながら学んでいく。プロップは伝播した先の各地域においてその土地の風物や文化に合わせた変化をしていく昔話について、具体的な要素よりも物語構造に注目することで、ともすれば要素の列挙になりがちだった昔話研究に、新たな次元を切り開いた。現在でもこうした構造主義研究は、小説や映画、コミックのようにメディアが異なっても、物語構造を維持している作品を論ずる上では、大きく役立っており、特に1960年代以降構造主義者によって再評価されるに至っている。この授業ではプロップを通じて、物語論の基礎を身につけることになる。</p>				
授業計画	最初に教員が構造主義研究や昔話研究について概説を行う。その後受講生がテキストを分担し、レジュメを作成、内容を紹介する発表を行い、これに対する質疑応答を行う。				
受講要件	特になし。				
テキスト	ウラジミール・プロップ『昔話の形態学』水声社、5,500円プラス税				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	その回の担当者はもちろん、それ以外の受講者も各回に進む部分は確実に読んできて、内容について疑問があれば積極的に質問できるようにすること。				
成績評価の方法・基準	出席・受講態度40%、発表40%、レポート20%。				
オフィスアワー	月曜 14:30-16:00 人文A棟515 花方研究室				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	日本語文化各論VI (Advanced Studies in Japanese Language and LiteratureVI)				
担当教員名	酒井 英行 (SAKAI Hideyuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟321	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火9・10
キーワード	異性愛、シスターフッド、脱性愛化				
授業の目標	現代社会において異性愛神話が揺らいでいる状況を考え、人間関係がどこへ行き着こうとしているのかを考える。				
学習内容	江國香織の「ホリー・ガーデン」、「落下する夕方」を読解することを通して、男／女の恋愛関係、女性同士のシスターフッドを考える。				
授業計画	以下の点について考える。 「ホリー・ガーデン」 1 果歩における異性愛の位相 2 静枝における異性愛の位相 3 「タブーが多くて厄介」な関係 4 〈ホリー・ガーデン〉とは？ 「落下する夕方」 1 〈異性愛神話〉の揺らぎ 2 華子という装置 3 三人家族／姉妹関係 4 死／引越し				
受講要件					
テキスト	江國香織「ホリー・ガーデン」(新潮文庫) 江國香織「落下する夕方」(角川文庫)				
参考書					
予習・復習について	2冊のテキストを熟読すること				
成績評価の方法・基準	授業時の4回の小テストの平均点で評価する				
オフィスアワー	火曜日3・4(10時20分～11時50分)				
担当教員からのメッセージ	1 県立大学単位互換(認めない) 2 科目等履修生(認めない) 3 難易度(B)				
教職科目区分					

授業科目名	言語学原書講読Ⅱ (Readings in LinguisticsⅡ)				
担当教員名	熊谷 滋子 (KUMAGAI Shigeko)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟430	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	セクシュアリティ、ジェンダー、社会言語学、ディスコース（言説）、メディア、脳				
授業の目標	ジェンダーをめぐる言説を、ことばを手掛かりにみていきます。特に、男女差とことばの関係について、これまでの議論を紹介しつつ、なぜ、現代社会で、これほど注目されているのかを議論します。				
学習内容	男女差とことばをめぐるよくある表現に、「男は人の話をきけない」「女はおしゃべり」などと、まことしやかに語られてきましたが、このような発想が、言語研究者にもしっかりあることを、英語文献を読みつつ、受講生と共に考えていきます。男女差をめぐる言説は常にせいさんされていますので、受講生にも、具体例を集め、その奥にひそむ発想を読み解いてもらいます。				
授業計画	以下の視点を中心に、受講生とともに、英語文献を読みつつ、また、随時関連する日本語文献を参考にして、議論をしていきます。 1. Myths and Why they matter 2. A Time and a Place: Putting Myths in Context 3. Partial Truth: Why Difference is not the Whole story 4. Worlds Apart? Mars and Venus in Childhood and Adolescence 5. Cross-purposes: The Myth of Male-Female Misunderstanding 6. Back to Nature: Brains, Genes, and Evolution 7. Public Speaking: Mars and Venus in Politics and the Workplace 8. Doing What Comes Culturally: Gender, Identity and Style				
受講要件	英語が読めることです。				
テキスト	最初のクラスで紹介します。				
参考書	随時、紹介します。				
予習・復習について	英語テキストの理解や分権の収集などがあります。				
成績評価の方法・基準	関連文献の要約30%、英語文献の読み解き 30%、期末レポート 40%				
オフィスアワー	火曜日の5・6時限目				
担当教員からのメッセージ	一緒に考えてみたいテーマです。				
教職科目区分					

授業科目名	日本語学概論 I (Introduction to Japanese Linguistics I)				
担当教員名	勝山 幸人 (KATSUYAMA Yukito)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	日本語、国語学、音声学、アクセント、文法論、形態論、統語論、日本語教育、音声言語				
授業の目標	日本語における音声と文法の特徴について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論 II」と合わせて、4 単位が必要になるので、注意してください。				
授業計画	<p>日本語学概論 I で学ぶことは、おもに日本語の音声(前半)と日本語の文法(後半)の分野になります。</p> <p>言語研究の究極の目的は、音声言語の解明にあります。音声が一次的な言語コミュニケーションと呼ばれる所以です。前半(概ね、1 講から 9 講)では、まず、音 と音声、音韻の違いについてそれぞれしっかり認識したうえで、現代日本語の母音、子音、半母音、モーラの各音素の特色について学びます。実際の音声を聞いて、国際音声字母 IPA で表記したり、子音の調音点、調音方法、声帯振動の有無について観察したりします。拍と音節の違い、アクセントの式と型、イントネーションやプロミネンスにも及びます。</p> <p>後半(概ね、10 講から 15 講)では、現代日本語の文法のうち、おもに「単語」とは何かということ扱う形態論と、述語のカテゴリーを中心に、「文」とは何かということの問題にする統語論について学びます。時間があれば、橋本進吉や時枝誠記など、代表的な文法論の特色についても、学習したいと思います。</p>				
受講要件	毎回きちんと出席できる自信のない人は、はじめから受講しないでください。				
テキスト	『日本語要説』(ひつじ書房)1,900 円+税				
参考書	適宜、紹介します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)・平常点と定期試験				
オフィスアワー	水曜日 16:00 から 17:00				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ人にもよくわかるように説明します。ただ、語学ですから、一回でも遅刻や欠席をすると、あとが何もわからず、つまらなくなります。教員を目指す 人の必須科目でもありますから、厳しい授業になりますが、絶対にためになるので、がんばって勉強してください。				
教職科目区分					

授業科目名	ドイツ事情IV				
担当教員名	エゲンベルグトーマス (EGGENBERG THOMAS)	所属等	大学教育センター		
		研究室	人文学部A棟 225		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	Beschäftigung mit aktuellen Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz.				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> - Lektüre und Diskussion von deutschsprachigen Zeitungsartikeln, Reportagen, Essays etc. - Das Handwerkszeug lernen, um eine solide Hausarbeit zu schreiben - Präsentationstechniken 				
授業計画	<p>Viele Japanerinnen und Japaner denken bei Deutschland immer nur an dieselben Dinge: Würste, Bier, Hitler. Bei der Schweiz, unvermeidlich, an Heidi oder die sogenannte Neutralität, und zu Österreich fällt manchen gar nichts mehr ein außer vielleicht Sachertorte ... Schade, denn es gibt so viel mehr zu entdecken!</p> <p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit verschiedenen Themen der Gegenwart wie auch der Vergangenheit, vor allem aus den Bereichen Gesellschaft und Kultur. Quellen sind das Internet, Zeitungen und Zeitschriften - und natürlich Bücher (was nicht mehr so selbstverständlich ist, wie es scheint).</p> <p>Vorgehen:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Projektgruppen erarbeiten ihr frei gewähltes Thema (Textlektüre, Recherche, Thesenpapier) 2. Präsentation und Diskussion 3. Hausarbeit 				
受講要件	Deutsch-Level mindestens A2 sowie Neugier!				
テキスト					
参考書					
予習・復習について	Der Kurs findet in Form von Projektarbeit, Einzel- oder Gruppenpräsentationen sowie Diskussionen statt. Weitere Details werden in der ersten Stunde bekanntgegeben.				
成績評価の方法・基準	Engagierte Teilnahme, Präsentation, Hausarbeit (zu gleichen Teilen)				
オフィスアワー	授業に関する質問は電子メールでも結構です： jtegen@ipc.shizuoka.ac.jp オフィスアワー： 金曜日 12.00～12.45				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	英語学各論Ⅱ				
担当教員名	小町 将之 (KOMACHI Masayuki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文社会科学部 A 棟 4 階 424	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生成文法、比較統語論、意味論				
授業の目標	様々な言語現象を理論的に分析できるための手法を学習する。				
学習内容	<p>生成文法理論の基本理念と分析手法を学びます。</p> <p>いくつかの文法現象を概観し、それらがどのように分析されるかを考えていきます。担当教員から解説するだけでなく、受講生自身でも分析し、その方法に習熟してもらいます。</p> <p>分析の対象とする主な言語は英語ですが、他言語との比較を通じて、人間の文法知識を立体的に理解してもらえるように努めます。</p>				
授業計画	<p>教科書とハンドアウトに基づいて、分析手法の解説、議論、受講生による発表を行います。主に取り上げる構文としては、以下のようなものを予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非対格構文 2. 結果構文 3. 数量詞遊離 4. 小節（構文） 5. WH 疑問文 				
受講要件	英文法の基礎知識を有していること。生成文法理論への関心があること。				
テキスト	三原健一『生成文法と比較統語論』くろしお出版				
参考書	渡辺明『生成文法』東京大学出版会				
予習・復習について	必要に応じて指示します。				
成績評価の方法・基準	授業中に出される課題、宿題、学期末のレポートの提出状況と内容に応じて評価します。				
オフィスアワー	未定（授業時に案内します。急ぎの場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス： omkomac@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	生成文法の基本的な考え方と分析手法に親んでもらえればうれしいです。				
教職科目区分					

授業科目名	日本語文化基礎講読IV				
担当教員名	小二田 誠二 (KONITA Seiji)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	日本、江戸時代、事実、虚構、実録、報道、出版、貸本、写本、メディア、情報技術、歴史、文学				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史/文学、事実/虚構、と言った問題について、江戸時代の資料を検討しつつ、現代の情報流通についても考える。 ・認識と表現、資料操作などについて、基本的な方法や技術を学ぶとともに、それらを扱う思考を深める。 				
学習内容	江戸のウソ・ホント 実録を考え直す				
授業計画	<p>おおよその流れを示しますが、この通りに進めると言う意味ではありません。</p> <p>はじめに 「事実」をめぐって</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 “実録”のなりたち 2 情報規制と裏情報 3 ジャーナリズムということ 4 テキストとは何か 写本、板本、ロコミ……ネット 5 尾ひれの伸び方 6 怪談は事実か 7 言語論的転回とニューヒストリー 8 プロパガンダ <p>まとめ 選び取る主体</p>				
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> ・古文が抵抗なく読めること。 ・崩し字がある程度読める方が好ましいが必須では無い。 				
テキスト	・印刷物を配布。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に適宜紹介。 ・キーワードに沿って検索し、色々読んでおくべし。 				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料は必ず読んでおくこと。 ・授業中疑問に思ったことなどは、次回までに調べ、簡単なレポートを提出する習慣を付けること。 				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・最終レポートのみ。 ・ただし、適宜小レポートなどを提出すれば加算します。 <p>*詳細は第一回で。</p>				
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・空き時間随時。 <p>私の時間割は、ネットで公開します。ブログ（コニタス）参照。</p>				
担当教員からのメッセージ	<p>私の30年間続けてきたテーマについて、改めてまとめて話してみようと言う授業です。実は殆ど話したことがありません。</p> <p>“講読”ですが、一冊の本を読むと言うより、言語文化そのものを読み解くと思ってください。</p>				
教職科目区分					

授業科目名	イギリス文学文化各論Ⅱ				
担当教員名	鈴木 実佳 (SUZUKI Mika)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟517	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	イギリス、庭、Vauxall、Gardens				
授業の目標	非常に有名だった pleasure gardens の一例、Vauxhall Gardens の歴史から、人々の人気を集めた娯楽施設について学ぶ。				
学習内容	画像を参考にしながら、手紙、新聞や雑誌記事などに残されている Vauxhall Gardens にかんする記述を読む。				
授業計画	回	内容			
	1	導入 English garden, pleasure gardens, tea gardens			
	2	Vauxall Gardens 画像資料を見る			
	3	Vauxall Gardens 画像資料から観察			
	4	Vauxall Gardens: 17世紀から18世紀初期			
	5	Vauxall Gardens: 成功の秘訣			
	6	Vauxall Gardens: Jonathan Tyers			
	7	Vauxall Gardens: 芸術			
	8	Vauxall Gardens: 音楽			
	9	Vauxall Gardens: ビジネス			
	10	Vauxall Gardens: 発展			
	11	Vauxall Gardens: 変化			
	12	Vauxall Gardens: 終焉			
	13	Vauxall Gardens: 何を残したのか			
	14	Vauxall Gardens: その後			
	15	まとめ			
受講要件					
テキスト	David Coke & Alan Borg, Vauxall Gardens, 2011; Penelope J. Corfield, Vauxall and the Invention of the Urban Pleasure Gardens, 2008 前者は大型本、後者は短くて読みやすいけれども絶版なので、プリントを配布				
参考書					
予習・復習について	プリントの指定部分の予習を前提として授業を行う				
成績評価の方法・基準	各論は基本的に講義形式だが、テキストを読む際には、演習形式もとり入れるので、授業中に示される予習の状況などと、試験の結果を参考にして総合的に評価する。				
オフィスアワー	金 10:20~11:50				
担当教員からのメッセージ	質問は、他の人たちの参考にもなるように、なるべく授業中に発言してほしいですが、それ以外の質問や相談などがあるときは、メールでアポイントメントをとって研究室を訪ねてください。 県立大学単位互換 認める 科目等履修生 認める 難易度 (C)				
教職科目区分					

授業科目名	法制史Ⅱ (Legal HistoryⅡ)				
担当教員名	橋本 誠一 (HASHIMOTO Seiichi)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟609	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	日本近代法、法の継受、立憲主義、総力戦、戦後改革				
授業の目標	この授業では、以下の能力を身に付けることを目標とします。 【知識】日本の近現代法史に関する基礎的知識を習得している。 【思考】歴史的資料に基づいて実証的に思考することができる。 【技術】実証的思考の結果を論理的に文章表現することができる。				
学習内容	【予習】授業用資料をダウンロードし、読んでおく。 【授業】講義は以下の2段階に分かれます。①前半は、日本の近現代法史について(10～20年ごとに)概説的に講義する。②後半は、特定のテーマ(歴史資料など)を取り上げ、より具体的に当該時期の特徴について考察する。 【復習】一つのテーマごとにレポートを作成・提出する。				
授業計画	回	内容			
	1	はじめにー授業概要の説明			
	2	近世日本の法(1)			
	3	近世日本の法(2)			
	4	立憲国家への始動(1)			
	5	立憲国家への始動(2)			
	6	立憲国家体制の確立(1)			
	7	立憲国家体制の確立(2)			
	8	大正デモクラシーと法(1)			
	9	大正デモクラシーと法(2)			
	10	総力戦体制下の法(1)			
	11	総力戦体制下の法(2)			
	12	戦後改革(1)			
	13	戦後改革(2)			
	14	五五年体制下の法(1)			
	15	五五年体制下の法(2)			
受講要件	授業内容を理解するためには、高校日本史、憲法、民法、刑法を履修していることが望ましい(必須条件ではありません)。				
テキスト	学務情報システムから「授業用資料」をダウンロードして下さい。				
参考書	授業用資料の末尾に参考文献一覧を付していますので、参考にして下さい。				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習内容」欄に記載した通りです。 ・なお、日本史や法学の基礎知識について説明する時間がなかなかありませんので、もし不明な点があれば、自学自習するよう心がけて下さい。 				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート(50%)と筆記試験(50%)の結果をもとに成績を評価します。 ・レポートは2週間ごとに作成・提出します。 ・筆記試験(穴埋め問題)はノート・資料類の持ち込み「可」です。 				
オフィスアワー	月曜日 10:20～11:50				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学との単位互換の可否(○)、科目等履修生の可否(○)、難易度(やや難) 				

授業科目名	政治思想 I (Political Thought I)				
担当教員名	井柳 美紀 (IYANAGI Miki)		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 605	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム、自由、政治参加				
授業の目標	今日、私たちが用いている基本的な政治学上の理念や価値の歴史と意義を学ぶ。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討して、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を学ぶことで、現代政治の諸価値を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	回	内容			
	1	プラトンの政治思想			
	2	アリストテレスの政治思想			
	3	キリスト教とアウグスティヌス			
	4	マキアヴェリと近代政治学			
	5	ボダンと主権論			
	6	グロチウスと近代自然法論			
	7	ホッブズ			
	8	ロック			
	9	モンテスキュー			
	10	文明社会とルソー			
	11	アメリカ革命の政治思想			
	12	保守主義－バーク、ヘーゲル			
	13	社会主義－マルクス			
	14	自由主義－ミル、トクヴィル			
	15	20 世紀の自由民主主義			
受講要件	特になし。				
テキスト	・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣アルマ、2013 年）				
参考書	・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008 年） ・佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』（北樹出版、1995 年） ・福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985 年）				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に、小レポートを加味して評価する。				
オフィスアワー	授業終了後のお昼休み。もしくは、事前にご連絡の上お越し下さい。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（A） 西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				
教職科目区分					

授業科目名	国際法 (International Law)				
担当教員名	板倉 美奈子 (ITAKURA Minako)		所属等	法務研究科	
			研究室	人文学部 A 棟 5 3 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	4	曜日・時限	水 5・6, 金 7・8
キーワード	現代国際法、国際化・グローバル化、国際社会と日本				
授業の目標	国際法の基本概念や基本原則に対する基本的知識の修得を通じて、国際法の特性について理解し、現代国際法の諸問題を法的視点から把握し、自分なりの知見を確立すること。				
学習内容	1648 年のウェストファリア条約以降、長い時間をかけて形成されてきた近代国際法は、第二次世界大戦後の戦争の違法化や自決権の確立による構造転換を経て、国際化、さらにはグローバル化と評される時代状況の中で、新展開を見せている。この講義では、安全保障、領域法・海洋法など現代国際法の主要な諸問題を取り上げつつ、国際法の基本概念や基本原則について概説し、国際法の特性を理解することを目的とする				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法の基礎 2. 武力行使禁止と自衛権／集団安全保障 3. 主権・自決権と不干渉／国家・政府の誕生と内戦 4. 国家管轄権／執行管轄権の制限 5. 国家領域／領域使用 6. 海洋法の構造／海洋開発／海上管轄権 7. 空・宇宙および南極 8. 国際環境法 9. 国際連合法 10. 国際法主体 11. 条約の締結と効果／条約の無効と終了 12. 国際法の法源／国際法と国内法 13. 国家責任 14. 紛争の平和的解決 15. 国際法の法的性質 <p>*取り上げるテーマは、受講生からのリクエストや時事問題に対応して適宜変更することがあります。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	山形英郎編『国際法入門（仮）』（法律文化社、近刊予定） このほか、授業時間中にレジュメを配布する。				
参考書	小寺・森川・西村『国際法判例百選〔第2版〕』（有斐閣）など。詳細は初回講義で指示する。				
予習・復習について	予習は不要。まず授業時間中にしっかりとノートを取り、テキストを読んで復習をすること。				
成績評価の方法・基準	学期末の試験期間中に期末試験（論述式）を実施する。 このほか授業期間中に小テストやレポートの提出を求めるときもありうる。 成績評価は期末試験の結果に基づいて行う。上述の小テスト・レポート提出を課した場合には、これを加点要素として評価に組み込む。				
オフィスアワー	初回講義時に指示する。事前のメール連絡が望ましい (jmitaku@ipc.shizuoka.ac.jp)。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） この授業を通して、国際社会のさまざまな問題に対する知的好奇心を高め、国際社会や日本のありようについて、自分なりの視点を持てるようになることを期待しています。				
教職科目区分					

授業科目名	不法行為法				
担当教員名	米谷 壽代 (Hisayo M. Maitani)		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	債権法、不法行為、事務管理、不当利得				
授業の目標	本講義では、契約関係にない当事者間で発生した債権・債務について規律している不法行為法（709条）以下の領域を扱う（事務管理・不当利得も含む）。具体的な事例を通じて、学説の理解を深め、できるだけ多くの判例に、触れていきたい。				
学習内容	不法行為法を中心に、現在の理論状況について学修する。				
授業計画	回	内容			
	1	概要－不法行為法の意義と構造			
	2	不法行為の成立要件（1）：権利侵害			
	3	不法行為の成立要件（2）：故意・過失			
	4	不法行為の成立要件（3）：因果関係			
	5	不法行為の成立要件（4）：損害			
	6	損害賠償請求権の主体			
	7	損害賠償請求に対する抗弁（1）			
	8	損害賠償請求に対する抗弁（2）			
	9	特殊な不法行為（1）使用者責任・注文者の責任			
	10	特殊な不法行為（2）土地工作物責任・動物占有者責任など			
	11	共同不法行為			
	12	不法行為の効果：差止め請求と損害賠償			
	13	名誉毀損・プライバシー侵害（人格権侵害）			
	14	事務管理・不当利得			
	15	総括			
受講要件	債権各論を受講していることが望ましい。				
テキスト	潮見佳男『基本講義 債権各論2 不法行為法』（新世社）、潮見佳男『基本講義 債権各論I』（新世社）、『判例百選2 債権』（別冊ジュリ）				
参考書	永田ほか『エッセンシャル民法 債権法』（有斐閣ブックス）、中川淳『語るコンメンタール不法行為法』（有信堂高文社）、吉村良一『不法行為法』（有斐閣）、窪田充見『不法行為法－民法を学ぶ』（有斐閣）、大村敦志『不法行為判例に学ぶ』（有斐閣）など。詳しくは、授業時に、適宜、指示する。				
予習・復習について	本講義は、身近な生活にも密接に関係する法領域を対象としているが、具体例ばかりでなく、抽象的な解釈論も非常に重要になってくる。そのため、毎回の授業に際して、テキスト等を通じ、予習・復習をしっかり行ってほしい。また、扱う判例の量も多いため、事前によく読んでくるように課題を課すこともある。				
成績評価の方法・基準	主として、期末テストによるが、授業の中盤で、小テストやレポート課題を課すこともある。配点については、授業時にアナウンスする。				
オフィスアワー	初回、授業時に指定する。				
担当教員からのメッセージ	教科書と判例集を必ず購入すること。毎回の授業時に、（最新の）六法を持参すること。				
教職科目区分					

授業科目名	応用数学基礎 (Elements of Applied Mathematics)				
担当教員名	畑 宏明 (HATA Hiroaki)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 408	
分担教員名					
クラス	総合	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月9・10
キーワード	確率、統計				
授業の目標	確率統計の基礎の完成				
学習内容	組合せ計算、確率とその計算、期待値、分散、標本データ、推定、検定の基礎を学ぶ。				
授業計画	回	内容			
	1	個数の処理、順列と組合せ、二項定理			
	2	確率とその計算、事象の独立			
	3	条件付き確率、ベイズの定理			
	4	確率変数、期待値、分散			
	5	2項分布(1)			
	6	2項分布(2)			
	7	標本と母集団			
	8	確率分布の性質			
	9	正規分布、2項分布の正規近似			
	10	推定とは・・・			
	11	区間推定			
	12	仮説と2種の誤り			
	13	平均値の検定			
	14	相関と回帰(1)			
	15	相関と回帰(2)			
受講要件	微分積分学基礎、集合と論理基礎を履修していること。				
テキスト	篠田正人著『教育系学生のための数学シリーズ 確率論・統計学入門』共立出版				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	中間試験、学期末試験で総合的に評価する。				
オフィスアワー	初回の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	確率、統計の基礎を高校の復習から学んでいきます。講義だけではなく、演習レポートを通じて確率統計を実践的に理解してもらえればと思います。				
教職科目区分					

授業科目名	ポルトガル語・ブラジル文化 (Portuguese Brazilian Culture)				
担当教員名	ヤマモト・ルシア (YAMAMOTO Lucia Emiko)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 301	
分担教員名					
クラス	国際	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10
キーワード	ポルトガル語、ブラジル社会・教育				
授業の目標	この数年間に日本入国するブラジル人が増え、現在は外国人人口の14%を占めています。学校現場では異なる文化を持つブラジル人児童生徒と接触することが日常茶飯事になっている。本講義は、このように多様化する教育現場をよりよく理解するために、当事者でもあるブラジル人児童生徒の言語、ポルトガル語の入門から解説し、ブラジル文化を紹介する。				
学習内容	初めてポルトガル語を学ぶ学習者のための基礎文法・会話の授業であり、テキストやプリントに沿って文法の各項目を丁寧に解説し、応用する。随時にブラジルの文化を紹介し、ポルトガル語に親しんでもらう。				
授業計画	回	内容			
	1	イントロダクション (簡単なポルトガル語を学ぼう！自己紹介、挨拶表現など)			
	2	文字と発音			
	3	名詞：男性名詞・女性名詞			
	4	名詞：単数・複数			
	5	形容詞の性・数			
	6	指示詞・会話 (応用練習)			
	7	ブラジル紹介 (映画)			
	8	代名詞・数詞			
	9	動詞の活用			
	10	会話 (応用練習) ・小テスト			
	11	ブラジル紹介 (映画)			
	12	動詞 (直接法現在) ・疑問詞			
	13	動詞 (直接法現在)			
	14	不定形容詞・不定代名詞			
	15	復習・会話 (応用練習)			
受講要件					
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	毎回の課題を提出すること。				
成績評価の方法・基準	授業参加、課題提出の状況、小テスト、学期末試験などを総合的に評価する。				
オフィスアワー	昼休みを中心に。特別に時間が必要なときにアポを取る。				
担当教員からのメッセージ	現在、ポルトガル語を利用する機会が増えている。学習者に授業で学んだポルトガル語を他の場面でも活用してもらいたい。				
教職科目区分					

授業科目名	集合と論理 (Sets and Logic)				
担当教員名	山田 耕三 (YAMADA Kohzo)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 401	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	実数、有理数、無理数、無限、有限				
授業の目標	写像（関数）について学んだ後、実数の性質と無限集合について考える。				
学習内容	実数の性質と無限の概念について、演習を交えながら講義をする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写像と関数 2. 写像と関数 3. 写像と集合の演算 4. 写像と集合の演算 5. 有理数と無理数 6. 有理数と無理数 7. 実数の性質 8. 実数の性質 9. 実数の性質 10. 有限と無限 11. 有限と無限 12. 集合の濃度 13. 集合の濃度 14. 可算集合と非可算集合 1 15. 可算集合と非可算集合 2 				
受講要件	前期の「集合と論理基礎」を受講していること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理しておくこと。課題をレポートとして提出する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	講義のはじめに知らせます。				
担当教員からのメッセージ					
教職科目区分					

授業科目名	代数学Ⅱ (Algebra Ⅱ)				
担当教員名	谷本 龍二 (TANIMOTO Ryuji)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	固有値、固有ベクトル、固有空間、固有多項式、対角化、内積、ノルム、正規直交基、直交変換、直交行列				
授業の目標	本講義の主題は、行列の対角化にある。対角化を理解するために、以下3つの目標を立てている。第1の目標は、線形代数学の基礎的概念の定義を記憶し再生できることである。第2の目標は、具体的な正方行列が対角化可能であるか判定できることである。第3の目標は、具体的な対角化可能正方行列の対角化の計算ができることである。				
学習内容	あたえられた正方行列が対角化可能であるとき、固有値や固有ベクトルを用いて、その正方行列の対角化を計算することができる。正方行列が対角化可能であるかないかについての判定法は、固有空間を用いてあたえられている。どのような実対称行列も、ある直交行列により対角化可能である。				
授業計画	回	内容			
	1	対角化について			
	2	固有値と固有ベクトル			
	3	固有空間			
	4	固有多項式			
	5	まとめ			
	6	行列の対角化			
	7	対角化可能についての判定法			
	8	まとめ			
	9	内積とノルム			
	10	正規直交基			
	11	直交変換			
	12	直交行列			
	13	実対称行列の対角化			
	14	2次形式			
	15	総まとめ			
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること。また、代数学Ⅰを履修していることが望ましい。				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる。				
参考書	必要があれば適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	テスト60点、小テスト20点、レポート20点を用いて成績評価をする。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	テキストの行間を埋めながら、繰り返し読むことが上達の鍵です。				
教職科目区分					

授業科目名	微分積分学 (Calculus)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 9・10
キーワード	テイラー展開、不定積分、定積分、広義の積分				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。 前期の「微分積分学基礎」の続き。				
授業計画	回	内容			
	1	テイラーの定理			
	2	テイラー展開			
	3	関数の値の変化			
	4	曲線の概形			
	5	定積分の定義			
	6	定積分の性質			
	7	小テスト			
	8	不定積分			
	9	微分積分法の基本定理			
	10	簡単な関数の不定積分			
	11	置換積分法			
	12	部分積分法			
	13	有理関数の積分			
	14	無理関数の積分			
	15	小テスト			
受講要件	前期「微分積分学基礎」を受講していること。				
テキスト	石原繁・浅野重初著『理工系・微分積分・増補版』裳華房 ISBN978-4-7853-1508-5				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。				
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				
教職科目区分					

授業科目名	解析学Ⅱ (Analysis II)				
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	2変数関数、偏微分、重積分				
授業の目標	2変数（多変数）で定義された関数の微分積分について学習します。理論的な背景を正しく理解して、具体的な関数で実際に計算が出来ることが目的です。				
学習内容	解析学Ⅰの続きの授業です。2変数関数の微分法(偏微分)や積分法(重積分)について学習します。				
授業計画	回	内容			
	1	2変数の関数			
	2	偏導関数			
	3	高次偏導関数・全微分			
	4	合成関数			
	5	陰関数			
	6	関数の展開			
	7	極大・極小			
	8	陰関数の極値			
	9	条件付き極値			
	10	累次積分			
	11	積分順序の変更			
	12	2重積分			
	13	極座標による2重積分			
	14	3重積分			
	15	体積			
受講要件	解析学Ⅰの授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	復習は必ず行うこと。教科書の問題を常に解くようにすること。				
成績評価の方法・基準	2回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義で指示します。				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりとり、学習した内容を暗記するのではなく、どのように理論が展開されて行くのかを理解すること。				
教職科目区分					

授業科目名	言語学入門 (Introduction to Linguistics)				
担当教員名	宇都宮 裕章 (UTSUNOMIYA Hiroaki)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 302	
分担教員名					
クラス	国際	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	主体、素材、場面、変化、意味創り、対話				
授業の目標	ことばとは一体何なのでしょう。ことばと関わりのある事柄には何があるのでしょうか。ことばは何のために存在し、私たちとどのような関係を結んでいるのでしょうか。こうした尽きぬ疑問に安易に解答を出すことは難しいと思います。各自が問題点を意識化し、ことばに対する洞察力を涵養することが本講義の焦点です。				
学習内容	各回異なった観点から言語を捉えていきます。そうした複眼的な捉え方への議論が中心となるために、履修者から意見を求めながら授業を展開します。言語学の背景にある様々な事象を取り上げ、学問体系にどう寄与していくのかの「過程」を考察していきます。				
授業計画	回	内容			
	1	できること・できないこと——ことばの限界と可能性			
	2	《こえ》を出そう——ことばの旋律 Video1			
	3	《かたまり》の見え方——ことばの単位			
	4	《かたり》の流れ——ことばの並べ方			
	5	意味を素材に託して——気持ちと方言 Video2			
	6	ミクロの変化——経験発生を中心に			
	7	メゾの変化——個体発生を中心に			
	8	マクロの変化——系統発生を中心に			
	9	時間よ止まれ——言語体系・言語種の発生			
	10	辞書を作ろう——ことばは時代と共に			
	11	対話のはじまり——ことばの場面 Video3			
	12	よりそう——意味を込める			
	13	つながる——対話を続ける原動力			
	14	ひびきあう——異なりを活かす共鳴へ Video4			
	15	まとめ			
受講要件	教科書の持参。				
テキスト	宇都宮裕章編著、『対話でみかくことばの力—互いの異なりを活かすグループワーク 26』、ナカニシヤ出版、2010年、978-4-7795-0420-4、1900円（生協で販売）				
参考書	宇都宮裕章訳、『生態学が教育を変える—多言語社会の処方箋』、ふくろう出版、2009年、978-4-86186-398-1、3500円				
予習・復習について	毎回、授業の内容に関してコメントを提出してもらいます。				
成績評価の方法・基準	コメントの内容および提出状況（すなわち授業内活動への参加度）を75%、期末試験の成績を25%として評価します。				
オフィスアワー	平日の昼休みを中心に直接研究室まで来室してください。時間が必要なときは事前にメールで連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	授業中は他者と積極的にコミュニケーションを行うようにしてください。				
教職科目区分					

授業科目名	日本語教育概論 (Introduction to Teaching Japanese as Second Language)				
担当教員名	宇都宮 裕章 (UTSUNOMIYA Hiroaki)		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 302	
分担教員名					
クラス	国際	学期	後期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木 5・6
キーワード	日本語教育、主体、素材、場面、デザイン、評価				
授業の目標	日本語学習者に対して、何を教えるか、どう教えるかについて、教室活動の理論的背景を理解し、日本語教育の全体像を把握することを目標とする。				
学習内容	学習者・支援者とは何かの議論から、シラバスやカリキュラムのデザイン、および評価の詳細等を考察し、日本語教育の理論と実践について理解を深める。				
授業計画	回	内容			
	1	主体① 教育観と現状			
	2	主体② 主体の形成			
	3	主体③ 支援者・学習者を捉える			
	4	特別講義			
	5	素材（シラバス）① 現れと教材			
	6	素材（シラバス）② シラバス分類			
	7	素材（シラバス）③ 技能・課題・水準			
	8	素材（シラバス）④ 素材の発生と状況			
	9	特別講義			
	10	場面（カリキュラム）① 活動法			
	11	場面（カリキュラム）② 素材の変異			
	12	場面（カリキュラム）③ 場面の構成			
	13	特別講義			
	14	評価とその問題点			
15	コースデザインと全体的な視座（まとめ）				
受講要件	日本語教育（言語教育）に関心のある方ならどなたでも。概論ですので学部・学科・専攻等は問いません。				
テキスト	宇都宮裕章著、『新ことば教育論—いのち・きもち・だいちの考察』、風間書房、2011年、978-4-7599-1876-2、2500円（生協で販売）				
参考書	宇都宮裕章訳、『生態学が教育を変える—多言語社会の処方箋』、ふくろう出版、2009年、978-4-86186-398-1				
予習・復習について	テキストの購読、および課題の作成等をお願いします。日本語教育に関する各種入門書も適宜参照するように。				
成績評価の方法・基準	毎回提出してもらったコメントの内容および提出状況（すなわち授業内活動への参加度）を75%、レポートを15%（各回5%）、期末試験の成績を10%として評価します。全レポートの提出と期末試験の受験が単位認定の最低条件です。				
オフィスアワー	特に設けていません。授業後・昼休みを中心に研究室へ直接来室してください。ある程度の時間が必要なときは予めメール・口頭等でアポイントを取ってください。				
担当教員からのメッセージ	授業内容は毎回の積み上げですので、欠席をしないようにしてください。またグループワークを中心とした活動を行いますので、他の受講生に多大な影響を与える遅刻もしないでください（大きく評価が下がります）。				
教職科目区分					

授業科目名	計算機構論 (Introduction to Computability Theory)				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2
キーワード	計算理論、原始帰納的関数、帰納的関数、決定問題、算術的階層				
授業の目標	計算可能性理論について、数学科の学生にふさわしいレベルの基礎知識を講義する。				
学習内容	計算機科学の基礎と応用において重要な計算可能性の理論を概説する。				
授業計画	<p>下記の6までを目標に講義し、余裕があれば7や8まで言及したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮想計算機構 Register machine 2. 原始帰納的関数 3. 一般帰納的関数 4. 仮想計算機構 Turing machine 5. Church's Thesis 6. 決定問題 7. 帰納的集合、帰納的可算集合 8. 算術的階層 				
受講要件	特になし。プログラミングの経験あれば、理解の助けになるだろう。				
テキスト	使用しない。講義中にプリントを配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	他の講義と比べて、扱うものが少しことなるので、手を動かして実際にやってみる、という作業が大切である。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってくれると確実です。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ない。しっかり勉強してほしい。				

授業科目名	幾何学 I (Geometry I)				
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	ガウス写像、第一基本形式、第二基本形式、ガウス曲率、測地線、ガウス・ボンネの定理				
授業の目標	曲面論におけるガウス・ボンネの定理を目標にする。				
学習内容	微分積分学や線形代数学を使って曲面の様子を調べることから、曲面論におけるガウス・ボンネの定理の意味を理解することを目標に内容を組み立てていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 曲面の概念と例 2. 法ベクトルとガウス写像 3. 曲面の第一基本量 4. 曲面の第二基本量、形作用素 5. ガウス曲率と平均曲率 6. ガウス・ワインガルテンの公式 (曲面の構造方程式) 7. 曲面上の曲線、測地線 8. ガウス・ボンネの定理 				
受講要件	微分積分学・線形代数学を学んでいること。				
テキスト	梅原雅顕・山田 光太郎(著)「曲線と曲面—微分幾何的アプローチ」裳華房				
参考書	小林昭七著「曲線と曲面の微分幾何(改訂版)」裳華房				
予習・復習について	予習・復習をテキストで行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席・試験等を総合的に判断して成績評価を行う。				
オフィスアワー	最初の授業の時に言います。				
担当教員からのメッセージ	ガウスの時代に戻って、そこから曲面論を学びましょう。				

授業科目名	位相数学 I (Topology I)				
担当教員名	保坂 哲也		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 606 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	ホモロジー、単体、複体、多面体、鎖群、単体写像、鎖準同型写像、単体近似、オイラー標数				
授業の目標	位相幾何の中で最も基本的な研究手法の 1 つであるホモロジー論の基礎を学ぶ。				
学習内容	多面体のホモロジー論は、位相幾何学のように連続性を基本とする幾何学を単体的複体の組合せ的性質によって規定していくものである。幾何学を如何に代数化するか、現代数学の端緒となったホモロジー論を学ぶ。				
授業計画	<p>教科書に沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 位相空間と連続写像 (2 年生の時にやっているはずだが簡単に復習する) 2. 同値関係と商空間、(教科書の 3 節と 4 節は省く) 3. 単体と複体と多面体 4. 重心細分 5. 鎖群とホモロジー群 6. 単体写像と鎖準同型写像 7. 単体近似 8. 多面体のホモロジー群 9. オイラー標数 10. ホモロジー群と準同型写像 <p>時間があれば、次のこともやりたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. Mayer-Vietoris 完全系列 12. いろいろな応用 				
受講要件	集合・位相、線形代数、群論の基礎知識を持っていることが望ましい				
テキスト	小宮克弘著「位相幾何入門」(裳華房)(ISBN: 978-4785315283)				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験による				
オフィスアワー	授業中に指示する				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代数学 I (Algebra I)				
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	体、体の拡大、ガロア理論				
授業の目標	1 変数多項式 $f(x)$ によって $f(x)=0$ で表される方程式のすべての根が、その多項式の係数から四則演算とベキ根を取る操作で表されるとき、その方程式は代数的に解かれるという。そのための必要充分条件を $f(x)$ のガロア群が可解であるという形で与える。				
学習内容	このために、まず四則演算で閉じている集合である体とその拡大体を研究する。次に、体の拡大 L/K に対して L の K -自己同型の全体のなす群を考える。この拡大がガロア拡大であるとき、この群の部分群と、 L/K の中間体の間に包含関係を逆にする 1:1 の対応が存在することを見る (ガロア理論の基本定理)。方程式 $f(x)=0$ が代数的に解けることは、 $f(x)$ の係数の体 K にその方程式の根を添加してできる体 L (f の K 上の分解体) が、 K にベキ根を添加してできる拡大体に含まれることと言換えられる。このことを基本定理を用いて、拡大 L/K のガロア群 (= $f(x)$ のガロア群) を調べることによって判定できるようにする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体の拡大 2. 代数拡大 3. 正規拡大 4. ガロア理論の基本定理 5. 分離性 6. 超越拡大 7. 有限体 8. 単純拡大 9. 代数的閉体 10. 多項式のガロア群 11. 方程式の可解性 				
受講要件	代数学入門および代数学を履修していること。				
テキスト	代数学入門 (東郷重明, サイエンス社)。あるいは下記の参考書。				
参考書	代数学 2 (雪江明彦, 日本評論社) 現代代数学 (服部昭著, 朝倉書店) 代数系入門 (松坂和夫著, 岩波書店) ガロア理論 (E. アルティン著, 寺田文行訳, 東京図書) 代数学 (彌永昌吉, 彌永健一共著, 岩波全書) ガロアの時代ガロアの数学, 第二部 (彌永昌吉著, シュプリンガー・フェアラーク東京)				
予習・復習について	教科書や参考書で予習, 授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは, できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席, レポートによる平常点 20%と試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業のとき連絡する。				
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら, できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	マルチメディア表現法 (Representation Method for Multimedia)				
担当教員名	横山 美佐子 (YOKOYAMA Misako)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C614	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	メディア				
授業の目標	各種メディアについて考察する。				
学習内容	各種メディアについて、調べてみる。				
授業計画	<p>次のような内容、及び、関連する話題について。</p> <p>ファイルとメモリ。 各種メディア。 メディアの活用と表現。</p>				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。				
参考書	授業において、必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	授業において指示する。				
成績評価の方法・基準	課題への取り組み。試験を実施する予定。場合により、レポートを適宜出題する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	代数学入門 (Introduction to Algebra)				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8
キーワード	群、部分群、巡回群、置換群、準同型、剰余類、正規部分群、剰余群、準同型定理				
授業の目標	群論の基本を学ぶこと。				
学習内容	大学で学ぶ抽象代数学の典型的な例として群・環・体があるが、この講義ではそのうち最も公理の少ない群について習得する。また群を学習することを通して、抽象代数学の基本的な考え方について慣れ親しむ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 群の定義と例 2. 群の性質と部分群 3. 巡回群 4. 置換群 5. 準同型 6. 剰余類と正規部分群 7. 剰余群と準同型定理 				
受講要件					
テキスト	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 ISBN4-7649-1029-2				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問なので、前回の授業内容を確実に理解した上で授業に参加すること。復習しても理解できなかった点は、できるだけ早く質問に来るなどして解明すること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート・期末試験等で評価する。				
オフィスアワー	授業開始後決定する。				
担当教員からのメッセージ	初めて本格的な抽象代数学を学習するので、苦戦するかもしれないが、具体例を多く取り上げる予定なので、がんばってほしい。				

授業科目名	数理情報学 (Introduction to mathematics for computer science)				
担当教員名	依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8
キーワード					
授業の目標	計算機科学の基礎と応用において重要な数学的理論について学びます。				
学習内容	順序数は、コーディング・デコーディングなど、情報科学への応用の着想となる数学理論のひとつです。順序数の基礎的な内容を中心テーマに、無限集合の組合せ論を学びます。				
授業計画	初めに順序数と基数の理論を学びます。そのあと、次のどちらかを学びます。 1. 基数演算 2. 木の性質				
受講要件	数学科3年生以上であれば良いです。				
テキスト	指定しません。				
参考書	新井敏康, 『数学基礎論』, 岩波書店, 2011, 978-4000055369. K. Kunen 著 藤田博司訳, 『集合論—独立性証明への案内』, 日本評論社, 2008, 978-4535783829. A. Kanamori 著 渕野昌訳, 『巨大基数の集合論』, シュプリンガー・フェアラーク東京, 1998, 978-4431707691. 『ゲーデルと20世紀の論理学 4 集合論とプラトニズム』, 東京大学出版会, 2007, 978-4130640985.				
予習・復習について	復習をする必要があります。				
成績評価の方法・基準	レポートの成績で判定します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	受講生の理解度に応じてゆっくり進めることを考えますので、分からない点はその都度質問してください。				

授業科目名	位相数学入門 (Introduction to Topology)				
担当教員名	依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	連続写像、開集合、閉集合、位相、位相空間、コンパクト、連結、完備				
授業の目標	前期に学んだ「距離空間」を抽象化・一般化した「位相空間」について学びます。				
学習内容	2年次前期に学んだ「集合・位相」および「集合・位相演習」の続きです。				
授業計画	<p>位相空間という構造について学びます。これは、「集合・位相」で学んだ距離空間を一般化したものです。トピックを挙げると、次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 位相空間（開集合・位相・開基） 2. 位相空間上の連続関数 3. 分離公理 4. 位相空間のコンパクト性 5. 位相空間の連結性 6. 位相空間の完備性 				
受講要件	2年次前期「集合・位相」および「集合・位相演習」の知識を前提に授業を行います。				
テキスト	大田春外著、『はじめよう位相空間』, 日本評論社, 2000, 978-4-535-78277-8				
参考書	<p>内田伏一著、『集合と位相』, 裳華房, 1986, 978-4-7853-1401-9 矢野公一著、『距離空間と位相構造（共立講座 21 世紀の数学）』, 共立出版, 1997, 978-4320015562</p>				
予習・復習について	授業中に課題を出すので、問題を解くことを通じて理解を深めてください。				
成績評価の方法・基準	レポート 30%, 期末試験 70% で評価します。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです（それが普通です）。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通じて理解を深めてください。				

授業科目名	微分積分学Ⅱ (Infinitesimal Calculus Ⅱ)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	Taylor の定理、不定積分、定積分、広義積分、級数、一様収束				
授業の目標	解析学の基礎となる微分積分学の定理の証明を述べます。応用上有用な Taylor の定理、1変数関数の積分、関数列の収束について、基本的な諸定理の厳密な証明を理解することを目標とします。				
学習内容	微分積分学 I で学習した数学用語・定理を用いて、Taylor の定理、定積分の定義および基本定理、広義積分の収束・発散、関数列の収束について論じます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次導関数 2. Taylor の展開 3. 級数 4. 定積分 5. 定積分の基本的性質 6. 不定積分の計算法 7. 広義積分 8. 定積分の計算と曲線の長さ 9. 関数項級数 10. 関数列の一様収束 11. 項別微分と項別積分 12. ベキ級数 				
受講要件	微分積分学 I の内容を理解していることが望ましいです。				
テキスト	「解析学入門」、白岩謙一著、(学術図書出版社) ISBN 4-87361-114-8; ISBN 978-4-87361-114-3				
参考書	青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」(培風館) ISBN 4563-00197-X; ISBN 978-4563001971				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	成績評価は受講態度、レポート(20%)および試験(80%)により行われます。試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	初回の講義のときにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学IV (Infinitesimal Calculus IV)				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟605	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	重積分、積分可能、累次積分、ヤコビアン				
授業の目標	「微分積分学 III」に引き続き、多変数の積分について講義する。				
学習内容	多変数関数の積分（重積分と呼ばれる）を学ぶ。重積分の定義からはじめて、多変数関数の積分の基本性質を学ぶ。多変数関数の積分は1変数関数の定積分とある程度平行して進められる一方で、積分の順序交換やヤコビアンなど多変数関数の積分に特有な概念が重要である。定理や公式の証明とともにその性質の利用方法を修得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長方形上の二重積分 重積分の定義、重積分の性質 2. 面積確定集合上の重積分 有界集合の上の二重積分、多重積分 3. 累次積分と積分の計算 累次積分、積分の順序交換 4. 重積分の変数変換公式 変数変換公式、ヤコビアン、極座標変換 5. 広義積分 広義積分の絶対収束、ガンマ関数とベータ関数 6. 線積分と面積分 線積分、曲面積、面積分 				
受講要件	微分積分学 I、II、III を受講していることが望ましい。				
テキスト	白岩謙一「解析学入門」（学術図書） ISBN 4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ12）				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習を行い、理解度を高めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に評価する。				
オフィスアワー	火曜9・10時限				
担当教員からのメッセージ	1年次にあった演習の時間がなくなるため、テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。				

授業科目名	線型代数学 II (Linear Algebra II)				
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)	所属等	理学研究科		
		研究室	理学部C棟511		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	ベクトル、ベクトル空間、基底、次元、部分空間、表現行列、固有値、固有ベクトル、対角化、上三角化				
授業の目標	ベクトル空間の基礎を学び、行列の対角化と上三角化を学ぶ。				
学習内容	線型代数学 I では行列の基本的性質と、それを用いて具体的に連立1次方程式を解くことを学習してきたが、線型代数学 II ではそれらを抽象化したベクトル空間の概念を理解するとともに、応用上有益な固有値・固有ベクトルまた行列の対角化について学習する。				
授業計画	第3章 ベクトル空間 3. 1 ベクトル空間の定義と線形写像 3. 2 基底と次元 3. 3 部分空間 3. 4 和空間と直和 3. 5 表現行列と基底の取り替え 第4章 固有値・固有ベクトルおよび行列の対角化 4. 1 固有値と固有ベクトル 4. 2 行列の対角化 4. 3 行列の上三角化 4. 4 行列の同時対角化				
受講要件	線型代数学 I を受講していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人 著, 培風館, ISBN-13: 978-4563002756)				
参考書	線形代数入門 (斉藤正彦 著, 東京代数学出版会, ISBN-13: 978-4130620017) 基礎課程 線形代数 (浅芝秀人著, 培風館, ISBN978-4-563-00473-6)				
予習・復習について	ほぼテキストに沿って講義する予定ですので、予習・復習をしっかりとすること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート等の平常点と試験により評価する。				
オフィスアワー	授業時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	線型代数学 I と違って線型代数学 II は内容がかなり抽象的になります。授業の内容で分からないことがあったら、できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	解析学 I (Analysis I)				
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	関数空間、Banach 空間、Hilbert 空間、線形作用素、共役空間				
授業の目標	関数解析とは、関数にその導関数を対応させる微分に代表される作用素、関数にその定積分値を対応させることに代表される汎関数に対して成り立つ性質を抽象的にまとめ上げた理論である。本講義では、偏微分方程式論や確率論への応用としても重要な手法である関数解析の基礎理論を修得することを目標とする。				
学習内容	完備な空間である、Banach 空間、Hilbert 空間を定義し、応用上重要な、不動点定理、Riesz の表現定理について述べる。位相的・代数的に不変な方法によって証明される、関数解析における three basic principle と呼ばれる 一様有界性の原理、開写像定理、Hahn-Banach の定理について述べる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線形空間、ノルム空間 2. Hilbert 空間 (閉凸集合への射影, Riesz の表現定理, 基底) 3. Banach 空間 (完備性, L^p 空間, 不動点定理) 4. Banach-Steinhaus の定理 (一様有界性の原理) 5. 開写像定理と閉グラフ定理 6. Hahn-Banach の諸定理 (線形汎関数の拡張, 凸集合の分離) 7. 共役作用素 8. 弱位相, 回帰的空間 9. コンパクト作用素 				
受講要件	「解析学」(3 年前期開講)を受講していることが望ましい。				
テキスト					
参考書	伊藤清三・黒田成俊・藤田宏著「関数解析(岩波基礎数学選書)」岩波書店(4-00-007810-0) 黒田成俊著「関数解析(共立数学講座 15)」共立出版(4-320-01106-6) ハイム・ブレジス著, 藤田宏監訳, 小西芳雄訳「関数解析—その理論と応用に向けて—」産業図書(4-7828-0507-1)				
予習・復習について	抽象的内容が多く一般的に真の理解には時間がかかるので, 予習・復習により補うことが必要である。				
成績評価の方法・基準	受講態度, レポート, 小テスト, 最終試験の結果を総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業の時に曜日と時限を決める。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	複素解析学 I (Complex Analysis I)				
担当教員名	奥村 善英 (OKUMURA Yoshihide)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 613	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	解析接続、リーマン面、等角写像、一次変換、円円対応、鏡像の原理、非調和比、正規族、写像定理、楕円積分				
授業の目標	<p>正則関数の幾何学的な特徴付けを中心に解説を行います。</p> <p>はじめに、正則関数の解析接続を説明します。この議論の続きとして、直感的な Riemann 面を構成します。次に、等角写像を定義し、正則関数との関係を説明します。今後の複素解析の議論で重要となる一次変換とその性質を導きます。さらに、Riemann の写像定理を解説します。また、具体的な Riemann 写像の例として、Schwarz-Christoffel 変換を説明します。</p>				
学習内容	<p>正則関数の逆関数や解析接続を行うことで、多価な関数が自然に現れます。Riemann は、一価な関数にするため定義域を拡張して、Riemann 面を導入しました。Riemann のアイデアによる直感的な Riemann 面を具体的に構成します。</p> <p>等角写像の議論は、解析関数論の幾何学的な部分において重要な役割を果たしています。例えば、複素平面 C 内の領域で定義された等角写像は単葉な正則関数と同じになります。また、「C 内の単連結領域 R は C と一致しなければ、いつでも単位円板 D と等角同値になります (つまり、R から D への全単射な正則関数が必ず存在する)！」という驚くべき Riemann の写像定理があります。</p> <p>また時間があれば、等角写像論、D 上の等角写像を等長変換に持つ双曲平面の導入、このような等長変換からなる不連続群とその軌道空間、Riemann 面そして複素力学系の初歩について解説します。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解析接続 2. 直感的な Riemann 面. 3. 等角写像と正則関数. 4. 等角写像の例. 5. 一次変換とその性質. 6. Riemann の写像定理. 7. 正規族と正則関数列. 8. Schwarz-Christoffel 変換. <p>時間があれば、以下の話題についても解説する：</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. Riemann 面. 10. 双曲計量と双曲平面. 11. 等長変換からなる不連続群. 12. 不連続群と Riemann 面. 				
受講要件	「関数論入門」及び「複素解析学」を受講していることが望ましい。				
テキスト	テキストは指定しない。				
参考書	藤本淳夫著、複素解析学概説 (培風館)。 神保道夫著、複素関数入門 (岩波書店)。 谷口健二・時弘哲治、複素解析 (裳華房)。 林一道著、初等関数論 (裳華房)。 野口潤次郎著、複素解析概論 (裳華房)。 L.V.アールフォルス著、複素解析 (現代数学社)。 佐藤宏樹著、複素解析学 (近代科学社)。 谷口雅彦・奥村善英共著、双曲幾何学への招待 (培風館)。 難波誠著、複素関数三幕劇 (朝倉書店)。 洲之内治男著、演習 関数論 (サイエンス社)。 辻正次・小松勇作共編、大学演習関数論 (裳華房)。 				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				

オフィスアワー	講義中に連絡します.
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第三部の勉強がはじまります. 複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい. そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい.

授業科目名	確率モデル論 (Model Theory of Probability)				
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 6 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	期待値、ランダム・ウォーク、マルコフ連鎖				
授業の目標	自然現象の問題を扱う方法に、理論的なモデルを立てる方法がある。古典的なランダム・ウォークは現在でも研究の対象となっている。 問題の設定、または方程式を導くことによりモデルを考察して行く。次にその問題について解を求めたり、一般化について数学的に推論する。基本的なモデルと自然現象に対応したモデルを述べる。				
学習内容	基本的であるランダムウォークを扱う。次に一般のマルコフ連鎖について自然現象に関係するモデルを挙げて性質を説明する。次にマルコフ過程についての極限の性質や定常状態について考察する。 モデルについての数学的な推論が主として用いられます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率空間と確率変数 2. 期待値と分散 3. 事象の独立 4. 1次元ランダム・ウォーク 5. マルコフ連鎖の推移確率 6. マルコフ連鎖の再帰性 7. マルコフ連鎖の定常分布 8. 多次元ランダム・ウォーク 9. セル・オートマトン 				
受講要件					
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	「シナイ確率論入門コース」, Ya.G. シナイ 著, 森 真 翻訳, (丸善出版), ISBN-10: 4621062980, ISBN-13: 978-4-621-06298-2				
予習・復習について	各自のノートおよび配布するレジюмеで予習および復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポートおよび演習問題を加えて評価します。				
オフィスアワー	火曜 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	力学 I (Mechanics I)				
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A406	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6, 金 3・4
キーワード	力学				
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。				
学習内容	力学（ニュートン力学）は、これから学ぶ物理学の中で最も基本となる学問である。この、ニュートン力学について詳しく学ぶ。				
授業計画	後期前半・週 2 回 教科書の第 4 章以降を、教科書に沿って授業を進める。 1. いろいろな運動 2. 運動座標系				
受講要件	基礎物理学 I、基礎物理学 I I を習得していることが望ましい。				
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 （基礎物理学 I、基礎物理学 I I で使用している教科書と同じ）				
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要なため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているので、ノートをしっかりとってください。				
教職科目区分					

授業科目名	力学Ⅱ (Mechanics II)				
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A406	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6, 金 3・4
キーワード	力学				
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。				
学習内容	力学（ニュートン力学）は、これから学ぶ物理学の中で最も基本となる学問である。この、ニュートン力学について詳しく学ぶ				
授業計画	後期後半・週2回 教科書の第6章以降を、教科書に沿って授業を進める。 1. 質点系 2. 剛体 3. 波動				
受講要件	基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰを習得していることが望ましい。				
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 （基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰで使用している教科書と同じ）				
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181 振動・波銅 小形正男 著 裳華房 ISBN 978478532088				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているので、ノートをしっかりとってください。				
教職科目区分					

授業科目名	解析力学 (Analytical Mechanics)				
担当教員名	青山 昭五 (AOYAMA Shogo)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	力学 I, II の内容を一般化して、ニュートン力学を様々な問題に適用できるようにする。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般化座と標ラグランジュの方程式 2. ラグランジュ方程式と束縛 3. 変分原理 4. 正準方程式と正準変換 5. 力学系の微小振動 				
受講要件	力学 I、II を理解していること。				
テキスト	小出正一郎 物理入門コース 2 「解析力学」 岩波書店				
参考書					
予習・復習について	復習を行うこと。合わせて力学 I, II も復習すること。				
成績評価の方法・基準	中間試験、期末試験、そして出席。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	解析力学は量子力学を学ぶために必須である。この授業は量子力学への橋渡しを意識して進めていく。				

授業科目名	統計物理学 (Statistical Physics)				
担当教員名	溜瀧 継博 (TAMARIBUCHI Tsuguhiro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	火3・4
キーワード	平衡系統計力学、非理想気体、ゆらぎ、相転移、ランダウ理論、分子場理論、デバイ理論				
授業の目標	統計力学Ⅰおよび統計力学Ⅱでは時間的制約によりあまり詳しく扱うことのできない内容を取りあげて、現代物理学の学習の基礎とする。				
学習内容	主に、平衡系の統計力学の相転移現象と物性論への応用について学ぶ。なお本授業は、3年次生にとっては統計力学Ⅱと並行して開講されるので、統計力学Ⅱ相当の予備知識がなくても受講できる内容にする予定である。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種アンサンブルについてのまとめ 2. 古典統計力学と量子統計力学 3. 非理想気体 4. ゆらぎと相転移 5. ランダウ理論 6. 分子場理論 7. 固体の比熱（デバイ理論） 				
受講要件	力学Ⅰ，力学ⅠⅠ，熱力学，量子力学Ⅰ，統計力学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	特定の教科書は指定しない。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・統計力学Ⅰおよび統計力学Ⅱで使ったテキスト・参考書 ・キッテル 固体物理学入門 第8版〈上〉（丸善、ISBN: 4621076531） ・ランダウ・リフシッツ 統計物理学 上・下 第3版（岩波、ISBN: 4000057200, 4000057219） 				
予習・復習について	授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	出席状況と定期試験の結果を総合的に評価する。				
オフィスアワー	随時（不在の時は何度でも訪ねてきてほしい）				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	原子核物理学 (Nuclear Physics)				
担当教員名	松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	火3・4
キーワード	原子核物理学				
授業の目標	原子核物理学の基礎を理解すること。				
学習内容	原子核物理学				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子核の基本的性質 2. 核力 3. 原子核の構造 4. 原子核の安定性 5. ベータ崩壊と弱い相互作用 				
受講要件					
テキスト	随時プリントを配布します。				
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	出席とレポート				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	計算物理学入門 (Introduction to Computational Physics)				
担当教員名	嘉規 香織 (KAKI Kaori)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 4 0 5 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6, 火 7・8
キーワード	Fortran、プログラミング				
授業の目標	基礎的な数値計算のプログラムが自分で作れるようになることを目標とする。				
学習内容	Fortran 言語を使用して、基本的なプログラムを作成する。最初に例題の解説を通じてプログラムの基礎を学ぶ。その後、出された課題に対してプログラムを自作することによって、その理解を深める。例題、課題としては、物理で必要となるものを予定している。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基本的な操作法, Fortran 言語について, 簡単なプログラム, コンパイル 2. Read 文, Write 文, 四則演算, 整数と実数 3. Do 文, 和の計算, 配列 4. 台形法・シンプソン法による積分 5. サブルーチンの考え方 6. 二分法・ニュートン法による方程式の数値解 7. レポート課題 I 8. レポート課題 II <p>この授業は5-8時限にわたって開講し、後期前半8回で終了する。後半には選択科目の「計算機物理学」が開講される。</p>				
受講要件	情報処理の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「ザ・FORTRAN90/95」サイエンス社 戸川隼人 著				
参考書					
予習・復習について	時間内に完成できなかったプログラムは、時間外の自習によって次回の授業までに完成しておくこと。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	プログラミングは「習うより慣れろ」です。必ず自分の頭と手を使ってプログラムを作成してください。				

授業科目名	計算物理学 (Computational Physics)				
担当教員名	溜渕 継博 (TAMARIBUCHI Tsuguhiro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6, 火 7・8
キーワード					
授業の目標	パソコン上で物理系の簡単なシミュレーションを行いながら、計算物理学の考え方と方法の初歩について学ぶ				
学習内容	<p>「計算物理学」とは、理論計算での紙と鉛筆、実験における実験装置に代って、コンピュータを主な道具とする物理学の総称であり、「理論物理学」、「実験物理学」と並んだ第三の物理学とも呼ばれている。</p> <p>物理学におけるコンピュータの応用は多岐にわたるので、この授業で扱う項目は必ずしもいわゆる「計算物理学」のものには限定しない。その代り、さまざまな場面で役に立つと思われるいくつかの問題を取り上げて Fortran による実習を交えながら講義を進め、最終的には「計算物理学」の大きな柱の一つとしてのコンピュータ・シミュレーションの簡単な例題のいくつかを扱う予定である。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 端末の操作と Fortran の基本構文の復習 2. アルゴリズムとプログラミング 3. 計算結果の可視化 4. 単振動からカオスへ（常微分方程式の数値解法） 5. 高速フーリエ変換（FFT） 6. 擬似乱数とモンテ・カルロ法 7. ランダム・ウォークと拡散問題 8. importance sampling の考え方 				
受講要件	計算物理学入門の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	指定しない				
参考書	H. ゴールド他著 「計算物理学入門」 （ピアソン・エデュケーション、ISBN-13: 978-4894713185）				
予習・復習について	学習のすべてについて言えることではあるが、プログラミングの学習の場合には自分の手を動かすことが何より大事である。情報処理センターの機器などを大いに活用して自らプログラミングにチャレンジしてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験は行わずに全授業の終了時にレポート課題を課す。成績は課題やレポート等で評価する。				
オフィスアワー	随時 （不在の時は何度でも訪ねてきてほしい）				
担当教員からのメッセージ	この授業は「計算物理学入門」が終了した、後期8週目から始めます。「入門」で学んだことをよく復習しておいてください。				

授業科目名	量子力学Ⅱ (Quantum Mechanics II)				
担当教員名	土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	水素原子、ブラ・ケット記号、シュレディンガー描像、ハイゼンベルグ描像、正準交換関係、正準量子化、角運動量、スピン				
授業の目標	量子力学Ⅰに引き続き、量子力学の考え方に習熟することを目指す。				
学習内容	量子力学Ⅰで学んだ基本的な事柄に基づいて、水素原子に束縛されている電子やその状態を特徴づける角運動量やスピンについて学ぶ。量子力学の体系を理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中心力場のシュレディンガー方程式 2. 量子力学の体系 3. 角運動量と対称性 				
受講要件	基礎物理学Ⅰ,Ⅱ、力学Ⅰ,Ⅱ、解析力学、電磁気学Ⅰ,Ⅱ、物理数学Ⅰ,Ⅱ及び量子力学Ⅰが履修済みであることが望ましい。				
テキスト	「量子力学Ⅰ」 猪木・川合／著 (講談社サイエンティフィック)				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習をすること。				
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	量子力学Ⅰに続き、量子力学Ⅱを学べば、量子力学の深さがだんだんとわかってくるでしょう。自ら手を動かすことが大事です。				

授業科目名	熱力学 (Thermodynamics)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	温度、熱、エントロピー、熱平衡、準静的、カルノーサイクル、自由エネルギー				
授業の目標	高校までに修得した熱力学第一法則をこえ、熱力学第二、第三法則の理解をめざす。				
学習内容	熱力学は温度や体積、圧力といった少数の巨視的変数（熱力学量）の間に成り立つ一般的な関係を導く理論体系であり、さまざまな実験状況に応じた熱力学的諸量の中の正確な変換を与える。この極めて優れた現象論である熱力学を使いこなせるための準備を行なう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 温度と熱 2. 理想気体 3. 準静的過程 4. 熱力学第1法則 5. 可逆過程と不可逆過程 6. 熱力学第2法則 7. カルノー・サイクル 8. エントロピー 9. 自由エネルギー 10. 熱平衡条件 11. 熱力学第3法則 				
受講要件	一年生で学んだ事をよく復習しておくこと				
テキスト	授業初回に知らせる				
参考書	久保 他 著 「大学演習 熱力学・統計力学」 (裳華房)				
予習・復習について	前回の内容を十分復習してから授業に臨む事。				
成績評価の方法・基準	中間および期末試験、レポート、等で評価する。中間試験を受験しない者は、授業放棄とみなす。				
オフィスアワー	授業初回に相談して決定する。				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	統計力学Ⅱ (Statistical Mechanics II)				
担当教員名	青山 昭五 (AOYAMA Shogo)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード					
授業の目標	「統計力学Ⅰ」の授業に引き続き、統計力学の応用について学ぶことを目標とする。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 低温と量子効果 2. 開いた系と化学ポテンシャル 3. フェルミ統計とボーズ統計 4. プランクの輻射式 5. 格子振動による固体の比熱 6. 理想ボーズ気体 7. ボーズ・アインシュタイン凝縮 8. 理想フェルミ気体 9. 金属の電子比熱 10. 超流動と超伝導 				
受講要件	熱力学を理解していること				
テキスト	「統計力学」 岩波書店 長岡洋介 著				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 共立出版 久保亮五 著				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	電磁気学Ⅱ (Electromagnetism II)				
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A棟 A501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	電磁気学の電流や磁場に関することからを主に学ぶ。				
学習内容	電磁気学Ⅰに引き続き、磁場にかかわる事柄から Maxwell 方程式までを学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定常電流 2. 静磁場 3. 電磁誘導 4. マクスウェルの方程式と電磁波 5. 物質中の電場と磁場 6. 変動する電磁場と物質 				
受講要件	原則として、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱ、電磁気学Ⅰ、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。				
テキスト	岩波物理入門シリーズ「電磁気学Ⅰ・ⅠⅠ」長岡洋介著				
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。				
予習・復習について	授業の予習と復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	提出物および試験				
オフィスアワー	特に設定しない。必要に応じて、時間を設定する場合もある。				
担当教員からのメッセージ	電気と磁気を統一的に記述する Maxwell 方程式を、ぜひ理解して欲しい。				

授業科目名	固体物理学 (Solid State Physics)				
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 A501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	電子、原子、分子、金属、絶縁体、半導体				
授業の目標	物質中の電子について量子力学を適用し、金属・絶縁体・半導体を理解するために必要となる、バンド理論の理解を目標とする。				
学習内容	固体物理学は、現代のエレクトロニクスの発展に大きく寄与して来た学問である。その中心となるバンド理論について、物質中の電子に量子力学を適用して詳しく説明する。また、X線回折は物質を構成している原子を調べる有力な実験方法であり、3年生の学生実験のテーマの一つになっている。このX線回折についても詳しく解説する。				
授業計画	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結晶 2. X線回折 3. 原子・分子 4. バンド理論 5. 格子振動 				
受講要件	量子力学 I と統計力学 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	指定しない。				
参考書	キッテル 固体物理学入門 第8版〈上〉キッテル 著 丸善 ISBN 4621076531 物性物理学 永田一清 著 裳華房 ISBN 4785322330				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	黒板に詳しく板書し、それを説明しながら授業を進めます。授業のノートを後で見直したとき、授業内容が理解できるようにしているのので、ノートをしっかりとってください。				

授業科目名	有機化学Ⅱ (Organic Chemistry II)				
担当教員名	山中 正道 (YAMANAKA Masamichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ハロアルカン、2 分子求核置換反応、1 分子求核置換反応、1 分子脱離反応、2 分子脱離反応、アルコールの合成、アルコールの反応、カルボカチオンの転移反応、エーテルの合成				
授業の目標	有機化学反応の基礎概念を学び、反応有機化学と合成有機化学の基本を理解する。				
学習内容	有機化学反応の基本反応である求核置換反応、脱離反応、カルボカチオンの転移反応について学ぶ。また、ハロアルカン、アルコール、エーテルの合成法と反応性について学ぶ。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>6 章 ハロアルカンの性質と反応 (2 分子求核置換反応) 7 章 ハロアルカンの反応 (1 分子求核置換反応と脱離反応) 8 章 ヒドロキシ官能基：アルコールの性質と合成戦略 9 章 アルコールの反応とエーテルの化学</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第 6 版)」 (古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。				
オフィスアワー	平日午後				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	有機化学IV (Organic Chemistry IV)				
担当教員名	塚田 直史 (TSUKADA Naofumi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 B312	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する				
学習内容	有機化学Ⅲの講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>15章 ベンゼンと芳香族性:芳香族求電子置換反応 16章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃:置換基による位置選択性の制御 17章 アルデヒドとケトン:カルボニル基の化学 18章 エノール、エノラートとアルドール縮合:α, β-不飽和アルデヒドおよびケトン</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎熱化学 (Fundamental Thermochemistry)				
担当教員名	河合 信之輔 (KAWAI Shinnosuke)		所属等	理学研究科	
			研究室	理B302	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	熱力学第1法則、熱力学第2法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、相平衡、化学平衡、電気化学、電池、反応速度論				
授業の目標	化学分野の幅広い現象を理解する基礎となる熱化学について、その基礎を学ぶ。				
学習内容	物理化学のひとつの柱である熱化学について、数学・物理学的背景を含めてその基礎を学ぶ。前半では熱力学の理論体系と諸概念を理解・習得し、後半では電池や生体反応への応用を概観する。				
授業計画	<p>最初の2～3回を、数学と物理の予備知識の復習にあてた後、テキストの次の章を、以下の順序で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第6章 熱力学(1) 2. 第6章 熱力学(2) 3. 第6章 熱力学(3) 4. 第7章 熱化学 5. 第8章 相平衡(1) 6. 第8章 相平衡(2) 7. 第9章 化学平衡 8. 第10章 電解質溶液(1) 9. 第10章 電解質溶液(2) 10. 第11章 電池(1) 11. 第11章 電池(2) 12. 第12章 反応速度(1) 13. 第12章 反応速度(2) 				
受講要件	基本的な微積分および物理の力学・熱力学・電磁気学の知識を前提とするので、高校の数学と物理の復習をしておくとともに、関連した授業をよく聞いておくこと				
テキスト	柴田茂雄著 「物理化学の基礎」 (共立出版) 定価 3400 円				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)第1～7章。その他、授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦勞する分野であるので、週1～2時間(以上)を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。 成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある(sskawai@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	無機機器分析 (Inorganic Instrumental Analysis)				
担当教員名	加藤 知香 (KATO Chika)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A棟 307	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	分光学、吸光光度分析、赤外吸収分析法、原子吸光分析、X線分析法、磁気共鳴分析、質量分析、クロマトグラフィー、熱分析				
授業の目標	最近の測定機器の発達によって、分析化学における機器分析の占める比重は大きなものになっている。この講義では、無機イオン・無機化合物を分析対象とした機器分析化学の基礎を方法別に学習する。				
学習内容	物質と電磁波（X線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波など）との相互作用や、物質の電気化学的性質に基づいた分析法の基礎を学習する。				
授業計画	回	内容			
	1	第1章 序論			
	2	第2章 吸光光度分析と蛍光光度分析			
	3	第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法			
	4	第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法（続き）			
	5	第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析			
	6	第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析（続き）			
	7	第5章 X線分析法			
	8	第5章 X線分析法（続き）			
	9	第6章 磁気共鳴分析			
	10	第6章 磁気共鳴分析（続き）			
	11	第7章 質量分析			
	12	第7章 質量分析（続き）			
	13	第8章 クロマトグラフィー			
	14	第8章 クロマトグラフィー（続き）			
	15	第10章 熱分析			
受講要件					
テキスト	庄野利之・脇田久伸編著 「入門機器分析化学」 （三共出版）				
参考書					
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読めば十分である。				
成績評価の方法・基準	基本的にレポートにて評価するが、小テストや受講態度も加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	関数電卓を持ってきてください。				

授業科目名	応用生化学 (Advanced Biochemistry)				
担当教員名	瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	ガン、細胞周期、シグナル伝達、アポトーシス、染色体の構造、代謝の調節機構、タンパク質の細胞内局在の機構、免疫と抗体、核酸研究法、タンパク質研究法				
授業の目標	<p>遺伝子組換え作物、DNA 型鑑定、遺伝子診断、臓器移植と免疫抑制剤、iPS 細胞を使った再生医療、生活習慣病の診断と予防、抗癌剤による癌治療。現代の社会は、生命科学の技術の進歩と深く関わっています。生命科学の根本原理や生命の仕組みを理解することは、より良く生きていくために、ますます重要になっていくでしょう。そのための知識や技術、そして考え方を身につけるとともに、生命科学と社会の関わりについての理解を深めていきます。</p>				
学習内容	<p>1. 体細胞変異とガン、真核生物の染色体、細胞周期、シグナル伝達、アポトーシス、肥満と糖尿病、血糖値の調節など高次の生命現象について学びます。</p> <p>2. タンパク質の「誕生から死」、タンパク質の分泌と細胞内輸送、代謝の調節機構、免疫と抗体などの基礎的な生命現象を分子レベルで理解します。</p> <p>3. 生命科学を支える実験技術の原理を理解し、どのように使われているかを学びます。</p>				
授業計画	教科書や配付資料に沿って、次の計画で講義を行う。				
	回	内容			
	1	ガン発生の仕組み			
	2	細胞の増殖と細胞周期			
	3	増殖因子とそのシグナル伝達の機構			
	4	アポトーシスとその機構			
	5	染色体の構造とその機能			
	6	代謝制御の機構			
	7	代謝制御による血糖値調節の機構			
	8	代謝制御とガン・糖尿病・肥満・寿命			
	9	タンパク質の一生（合成から分解まで）			
	10	タンパク質の分泌機構			
	11	タンパク質の核・ミトコンドリアへの輸送			
	12	免疫と抗体			
	13	タンパク質研究法			
	14	核酸研究法			
15	バイオ先端技術				
受講要件	関心のある方であれば誰でも受講を歓迎します。				
テキスト	テキストは指定しませんが、講義内容の多くは「ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）」によります。				
参考書	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）、細胞の分子生物学 第5版（ニュートンプレス）、ルーイン細胞生物学（東京化学同人）				
予習・復習について	参考書やノートなどをよく読んで理解を深めることと、深く考えること、考えや疑問などをお互いに話し合うこと。				

成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、レポート（50%）および期末試験（50%）の総点で判断します。
オフィスアワー	月曜日の午前中を空けておきますが、これ以外でも可能な限り対応します。
担当教員からのメッセージ	21世紀には生命科学がより深く社会に関わりを持つことになるでしょう。生命科学の理解を通して、皆さんの将来の役に立てば幸いです。多くの方に受講してもらえることを願っています。

授業科目名	代謝生化学 (Biochemistry of Metabolism)				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	エネルギー代謝、異化作用、同化作用、栄養、グルコース、アミノ酸、脂質、ATP				
授業の目標	生化学の主要な代謝経路について学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉がありますが、パン（食物）なくして生きることができないのも事実です。人は食物を摂り、消化し、栄養を吸収します。生きていくのに必要なエネルギーと、体を作るのに必要な物質を、ともに栄養から得ているからです。栄養からどのようにしてエネルギーを取り出すのか？どのようにして体に必要な物質を合成するのか？こういった、エネルギーや物質の変化と流れを「代謝」と言います。ここでは、生化学の主要な代謝経路について解説をします。				
授業計画	教科書にそって、次の順序で代表的な代謝経路を解説します。 1. 代謝 2. グルコースの異化代謝 3. グリコーゲン代謝と糖新生 4. クエン酸サイクル 5. 電子伝達と酸化的リン酸化 6. 光合成 7. 脂質代謝 8. アミノ酸代謝				
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学、基礎有機化学 I・II、基礎生化学、生物学 I・II の履修を前提とする。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）				
参考書	必要があれば、授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	テキスト・ノートを読むなどの予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	天然物有機化学 (Natural Products Chemistry)				
担当教員名	小林 健二 (KOBAYASHI Kenji)		所属等	理学研究科	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する				
学習内容	天然物有機化学とは、生命活動において必須の糖類(炭水化物)・ペプチド(蛋白質)・核酸(DNA)、および、生物が生産する二次代謝産物を研究する分野である。この分野の理解は、生命の原理や医薬品・農薬の化学の基礎を理解するうえで大切である。本講義では、以下の項目についてテキストをもとに講述すると共に、天然高分子の高次構造を司る分子間相互作用についても概観する。				
授業計画	2 1 章 アミンおよびその誘導体：窒素を含む官能基 2 2 章 ベンゼンの置換基の反応性：アルキルベンゼン、フェノールおよびベンゼンアミン 2 3 章 エステルエノラートとクライゼン縮合： β -ジカルボニル化合物の合成、アシルアニオン等価体 2 4 章 炭水化物：自然界に存在する多官能性化合物 2 5 章 ヘテロ環化合物：ヘテロ原子を含む環状有機化合物 2 6 章 アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸：自然界に存在する含窒素ポリマー				
受講要件	特になし				
テキスト	ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下巻 (第6版) (古賀憲司・野依良治・村橋俊一監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習・復習は必須である。有機化学的思考方をもとに、出会った反応を紙に書いて機構について考察してみよう。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する				
オフィスアワー	平日午後				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	量子化学 I (Quantum Chemistry I)				
担当教員名	松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru)		所属等	理学研究科	
			研究室	総 512	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	量子論、シュレーディンガー方程式、波動関数、不確定性原理、箱の中の粒子、調和振動子、回転の量子化、スピン、				
授業の目標	原子中の電子のエネルギーが量子化されていることや原子軌道の成り立ちをシュレーディンガーの波動方程式を解くことを通じて理解し、量子力学的な考え方の基礎を習得することを目指す。また、より高度な量子力学的問題（例えば、分子の化学結合や分子軌道法など）を学習していくための基礎を養う。				
学習内容	原子や分子に代表されるミクロな物質の性質や挙動は量子論によって記述される。本講義では、光子や電子の粒子性と波動性、エネルギーの量子化などの前期量子論に関する解説から始め、ミクロな粒子が従うシュレーディンガー方程式を解くことを通じてエネルギー量子化や原子軌道の成り立ちなどについて学んでいく。				
授業計画	<p>量子力学の起源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典物理学の破綻 ・波と粒子の二重性 <p>微視的な系の力学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュレーディンガー方程式 ・波動関数のボルンの解釈 <p>量子力学的原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波動関数に含まれる情報 ・不確定性原理 ・量子力学の基本原則 <p>並進運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱の中の粒子 ・二次元および多次元における運動 ・トンネル現象 <p>振動運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー準位 ・波動関数 <p>回転運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次元の回転： 環上の粒子 ・三次元の回転： 球面上の粒子 ・スピン <p>近似の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間に依存しない摂動論 ・時間に依存する摂動論 				
受講要件	古典力学、簡単な微積分・三角関数に関する知識				
テキスト	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)第8章、第9章				
参考書	授業開始時に指定する				
予習・復習について	授業開始時に指定する				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験で評価する。				
オフィスアワー	授業開始時に指定する				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造化学 (Structural Chemistry)				
担当教員名	岡林 利明 (OKABAYASHI Toshiaki)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 504	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	物理化学のひとつの分野である構造化学について、その基礎を学ぶ				
学習内容	化学の種々分野で応用されている分光法は量子化学的知識に基づいて理解することにより、その特徴および限界などをよく把握できる。そのために必要な基礎的事項を学ぶ。また、分子の電気的、磁氣的性質についても講義する。				
授業計画	<p>テキストの次の章を、以下の順序で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第12章 分光学 電磁波の吸収 2. 第12章 分光学 直線分子の回転スペクトル 3. 第12章 分光学 振動のエネルギーとスペクトル：二原子分子 4. 第12章 分光学 振動-回転スペクトル 5. 第12章 分光学 多原子分子の振動スペクトル 6. 第12章 分光学 可視から紫外にかけての吸収：電子スペクトル 7. 第12章 分光学 光電子分光 8. 第12章 核と電子の磁気スペクトル 核スピン状態 9. 第12章 核と電子の磁気スペクトル 核磁気共鳴分光法 10. 第12章 核と電子の磁気スペクトル 核磁気共鳴スペクトル 11. 第12章 核と電子の磁気スペクトル 電子スピン共鳴分光法 12. 第14章 分子の電気的および磁氣的性質(1) 13. 第14章 分子の電気的および磁氣的性質(2) 14. 第14章 分子の電気的および磁氣的性質(3) 15. 第14章 分子の電気的および磁氣的性質(4) 				
受講要件	量子化学 I, II の知識が必要になるので、よく復習をしておくこと。				
テキスト	G.M. Barrow 著 大門・堂免 訳 「パーロー物理化学(下)」(東京化学同人) 定価 4620円				
参考書					
予習・復習について	前もって教科書の目を通しておくこと。復習として教科書の問題を解いてください。				
成績評価の方法・基準	出席と最終試験に基づいて評価する。試験問題は主として章末問題および例題に基づいて出題する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	解らないことは恥ずかしいことはありません。積極的に質問してください。				

授業科目名	無機化学 I (Inorganic Chemistry I)				
担当教員名	菅野 秀明 (KANNO Hideaki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	原子の電子構造、局在化結合理論、分子軌道法、電子不足分子、多原子陰イオン				
授業の目標	無機化学を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	無機化学は周期表にあるすべての元素を対象としており、それらから構成される単体、イオン性化合物、共有結合性化合物など多様な物質を扱う。この講義では、無機化学の基礎として、無機化合物の性質や構造を体系的に理解するための基本的な法則や原理を学習する。				
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 1章の内容は必要に応じて解説する。				
	回	内容			
	1	2章 原子の電子構造： 原子軌道			
	2	2章 原子の電子構造： 電子配置			
	3	2章 原子の電子構造： 有効核電荷			
	4	2章 原子の電子構造： 元素の性質における周期的な傾向、原子およびイオンの磁気的性質			
	5	3章 分子の構造と結合生成： 混成理論			
	6	3章 分子の構造と結合生成： 原子価殻電子対反発理論			
	7	3章 分子の構造と結合生成： 結合距離、分子のパッキング、分子軌道法			
	8	3章 分子の構造と結合生成： 電子不足分子中の多中心結合			
	9	4章 イオン性固体： 代表的なイオン性固体の構造			
	10	4章 イオン性固体： 格子エネルギー、ボルン-ハーバーのサイクル			
	11	4章 イオン性固体： 結晶格子の立体配置、最密パッキング			
	12	4章 イオン性固体： 混合金属酸化物			
	13	5章 多原子陰イオンの化学： 酸化物イオン、水酸化物イオン			
	14	5章 多原子陰イオンの化学： オキソ酸陰イオン、多核オキソ酸イオン			
	15	5章 多原子陰イオンの化学： ハロゲンを含む陰イオン、硫化物イオンおよび硫化水素化物イオン			
受講要件	特になし				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gausss 著／中原勝儼 訳 「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	出席と期末試験の得点で評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				
教職科目区分					

授業科目名	反応錯体化学 (Reactions of Metal Complexes)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	金属錯体の反応、 π 酸性配位子、有機金属化合物、触媒反応、生体関連錯体				
授業の目標	金属錯体、有機金属化合物、生体関連錯体について反応の基礎を習得する。				
学習内容	金属錯体（配位化合物）はさまざまな反応性を示し、組成や立体構造、中心金属の電子状態の変化など多種多様である。この講義では、それら反応の機構や速度を支配する因子について解説する。さらに、有機金属錯体の基礎と反応性および触媒作用、生体内反応における金属錯体の役割についても解説する。				
授業計画	<p>テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>6章：配位化学（5節、6節） 金属錯体が示す様々な化学反応について解説する。 項目）配位化合物の反応性、置換反応、アネーション反応、アクア化反応、酸加水分解反応、 塩基加水分解反応、トランス効果、電子移動反応、異性化反応、ラセミ化反応など</p> <p>28章：金属カルボニルおよびπ受容性（π酸性）配位子との遷移金属錯体 金属から配位子への逆供与など、金属-配位子の結合について解説する 項目）単核・多核金属カルボニル、18電子則、ニトロシル錯体、シアノ錯体など</p> <p>30章：有機金属化合物の化学量論的反応および触媒反応 金属-炭素結合をもつ化合物（有機金属化合物）による多様な触媒反応について解説する 項目）配位的不飽和、酸化的付加反応、挿入反応、水素化反応、接触付加、触媒反応など</p> <p>31章：生物無機化学 金属酵素の構造と機能について解説する 項目）ポルフィリン錯体、鉄-硫黄タンパク質、ビタミンB12、など</p>				
受講要件	構造錯体化学を履修していることが望ましい。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton, 他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学反応論 (Rates and Mechanisms)				
担当教員名	関根 理香 (SEKINE Rika)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 3 階 302 号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード	反応速度、反応次数、遷移状態理論、衝突理論、触媒反応				
授業の目標	化学の、基本的な概念である化学反応の理論を学ぶ。素過程、反応機構、遷移状態、発光過程など、反応にかかわる概念と、その取り扱いを学び、反応の解析法について学習する。				
学習内容	化学反応の速度と機構、および素反応過程と反応速度の理論を学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 反応速度式と速度定数、一次反応の速度式、二次反応の速度式 2. 反応速度と平衡、緩和法 3. 反応速度と反応機構、複雑な反応速度式、気相単分子反応 4. 酵素触媒反応、酵素触媒反応の反応機構 5. 表面過程、吸着 6. 表面における分解反応 7. 素反応、分子間の衝突 8. 反応性衝突および反応速度の衝突理論 9. 反応速度の遷移状態理論 10. 衝突理論と遷移状態理論との比較 11. 溶液反応の衝突理論、溶液反応の遷移状態理論 12. 発光過程、電磁波の吸収および放出 13. 光化学反応、光化学反応の速度論 14. せん光分解 15. レーザー (LASER) 				
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学の履修。物理学 I, III の履修。また、量子化学 I, II、熱化学 I, II を履修していることが望ましい。				
テキスト	パーロー物理化学 (下) 15 章、16 章				
参考書	パーロー 物理化学問題の解き方 第6版、ISBN4-8079-0504、3800 円				
予習・復習について	予習 力学 (物理学 I)、量子化学、熱化学を充分学習しておくこと。 復習 宿題を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験 (70%)、宿題 (レポート) の提出 (20%)、毎回の小テスト (10%)				
オフィスアワー	特に指定しません。				
担当教員からのメッセージ	化学反応論は物理化学分野の総まとめです。しっかり復習しましょう。				

授業科目名	有機機器分析 (Organic Spectrometric Analysis)				
担当教員名	坂本 健吉 (SAKAMOTO Kenkichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部B棟 301号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	核磁気共鳴(NMR)分光法、赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法、紫外-可視分光法				
授業の目標	核磁気共鳴分光法、赤外分光法、紫外可視分光法および質量分析法で得られるスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定する方法を修得する				
学習内容	ここに一つの有機化合物(分子)がある。どのような元素からできているだろうか。分子量はどのくらいか。どのような官能基を含んでいるか。いったいどのような構造なのか。このような疑問に答えるのが、有機機器分析である。有機化合物を合成・単離精製し、種々のスペクトルを測定して読み解くことによって、有機化合物の構造式を決定できる。それ故に、有機化合物を扱う人には有機機器分析は必須となっている。本講義では、様々なスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定するための入門コースである。				
授業計画	<p>テキストの有機機器分析に関する章を解説する</p> <p>10章 核磁気共鳴(NMR)分光法 11章 赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法 14章 紫外-可視(UV-vis)分光法</p> <p>および次の章の分光法に関する項目 11章、13章、15章、17章、19章、21章</p>				
受講要件					
テキスト	第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上」、第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	授業前にテキストに目を通しておくこと。章末問題を解く等復習をすることが望ましい。				
成績評価の方法・基準	主に試験により評価するが、演習の状況も考慮する				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	植物生化学 (Plant biochemistry)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	総 721	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	タンパク質、葉緑体、光合成、分子シャペロン、膜透過、老化、過敏反応				
授業の目標	植物のタンパク質合成および分解の分子機構を、発生および分化、老化と合わせて総合的に理解する。				
学習内容	光化学系の構造と機能、その構築機構、膜透過装置の作用機構などについて、タンパク質の立体構造とその機能変化の視点から解説を行う。これらのタンパク質複合体が形成する上で重要な分子シャペロンの作用機構および膜透過に関与するトランスロケーターについて解説する。また植物の老化および病原菌への作用機構など、生理学的に興味深い現象についても解説を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物の熱ショック応答の分子機構 2. 分子シャペロンの構造と機能 3. 葉緑体へのタンパク質の輸送 4. タンパク質の輸送とブラウン運動 5. 葉緑体におけるタンパク質分解 6. 光化学系の構造と変動 7. 光リン酸化の分子機構 8. プロテアーゼによる基質認識メカニズム 9. 植物の老化過程の分子機構 10. 植物病原体に対する応答 				
受講要件	植物の生化学およびタンパク質科学について興味があること				
テキスト	主としてプリントを配布する。				
参考書	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、細胞の分子生物学（Newton Press）、ヴォート生化学（東京化学同人）、など。				
予習・復習について	しっかり行って下さい。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。前もってメール(sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp)に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	積極的に取り組んで下さい。				

授業科目名	分子生物学 (Molecular Biology)				
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	遺伝学、遺伝物質、DNA、RNA、タンパク質、染色体、ヌクレオソーム、DNA変異、DNA複製、遺伝子研究技術				
授業の目標	生物学の一分野として、生命現象を分子レベルで理解するための基礎的な概念や専門用語などを修得し、分子生物学への興味を深める。				
学習内容	生命を理解する上で、マクロな視点を据えたミクロな視点（細胞・分子レベル）から学習し、現在得られつつある研究の趨勢を理解するための基礎を提供する。				
授業計画	回	内容			
	1	はじめに			
	2	遺伝学の歴史			
	3	遺伝物質の同定			
	4	遺伝子の機能と構造			
	5	DNAの機能と構造			
	6	RNAの機能と構造			
	7	タンパク質の機能と構造			
	8	染色体構造とヌクレオソーム			
	9	DNA変異			
	10	DNA複製			
	11	DNAからRNAへ（転写）			
	12	RNAからタンパク質へ（翻訳）			
	13	遺伝子研究の技術開発（1）			
	14	遺伝子研究の技術開発（2）			
	15	まとめ			
受講要件	「基礎生物学 I」（1年・前期）を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学（第5版）」（ニュートンプレス）				
参考書	指定しない。				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し（33%）、2回の試験において到達度を評価する（66%）。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				
教職科目区分					

授業科目名	生物科学の最前線 (Forefront of Biological Science)				
担当教員名	塩尻 信義 (SHIOJIRI Nobuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	最新の話題、環境応答学、生体調節学、細胞・発生プログラム学、研究室紹介、進路指導				
授業の目標	生物科学の最新の成果を理解し、卒業研究の配属研究室を決める。また卒業後の進路について具体的に考察・決定し、その達成に向け行動できるように指導する。				
学習内容	生物科学の最新の話題、特に各講座・研究室の研究成果を中心に解説し、4年次の研究室選択の際の参考にする。また3年次、4年次開講の専門科目受講にあたっての考え方の指導ならびに進路指導（進学・就職・教職など）を行う。学生がそれぞれの進路を具体的に決め、その達成に向け行動できるように指導する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 植物生態学分野の話題 3. 植物生理学分野の話題 4. 植物発生学・植物分子生物学分野の話題 5. 生体調節学分野の話題 6. 分子遺伝学分野の話題 7. 神経行動学・環境生化学分野の話題 8. 細胞生物学・分子発生学分野の話題 9. 発生生物学分野の話題 10. 進学指導 11. 企業への就職指導（就職説明会） 12. 企業への就職指導（就職活動の実際） 13. 企業への就職指導（OB・OGからの話） 14. 教職に関する指導 15. まとめ 				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	積極的に予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	毎回のレポート等に基づいて総合的に評価する。期末試験はなし。				
オフィスアワー	特に設けませんが、質問等のある方は各研究室をのぞいて下さい。				
担当教員からのメッセージ	みなさんがそれぞれ10年後にどのような仕事をしたいのか、あるいはしているのか想像し、それに向け実力をつけましょう。また卒業研究は4年間の総仕上げです。積極的に情報を集めてください。				

授業科目名	生化学 (Biochemistry)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	理学研究科	
			研究室	総 721	
分担教員名					
クラス	理B 1	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようになる。				
学習内容	生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. pHと緩衝液 2. 生体物質 3. アミノ酸 4. タンパク質の二次構造 5. タンパク質の三次構造 6. タンパク質の四次構造 7. タンパク質間相互作用 8. 酵素反応 9. 酵素反応速度論 10. タンパク質の沈殿 11. クロマトグラフィー 12. 電気泳動 				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学(Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学(第5版)の第2章と第3章に目を通して、分子の世界に慣れておくと良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	しっかりやりましょう。				

授業科目名	植物発生学 (Plant Developmental Biology)				
担当教員名	木寄 暁子 (KOZAKI Akiko)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 701	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	植物、発生、形態形成、遺伝子、遺伝子組換え植物				
授業の目標	植物の形態形成にかかわる遺伝子の働き、およびその研究方法を理解する。 また、植物の分子生物学の基礎（特に遺伝子組換え植物等）を理解する。				
学習内容	近年、植物の形態形成を支配する遺伝子の同定・制御機構の研究がめざましい成果をあげている。本講義では、これら植物の形態形成を制御する遺伝子について解説するとともに、どのようにこのように研究が進められているか（方法論）について解説する。				
授業計画	1. 植物の分子生物学の基礎と応用 2. (遺伝子組み換え植物等) 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. 形態形成にかかわる遺伝子の同定（方法） 9. " 10. " 11. " 12. 形態形成にかかわる遺伝子の働き 13. " 14. " 15. "				
受講要件					
テキスト	ベーシックマスター 植物生理学				
参考書	植物の生化学・分子生物学, 細胞の分子生物学				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学Ⅱ (Developmental Biology II)				
担当教員名	塩尻 信義 (SHIOJIRI Nobuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 611	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	器官形成、誘導、形態形成、細胞分化、細胞間相互作用、遺伝子発現、実験発生学				
授業の目標	発生過程で多様な器官が形成される仕組みを、細胞レベルならびに分子レベルで理解する。				
学習内容	多細胞動物の体は、特有の機能と形態・構造をそれぞれ有する多様な器官から構成されており、それらの統合により個体自身ならびに個体の属する種が維持される。本講義では、マウスやニワトリなどの高等脊椎動物をモデルとして、発生過程で多様な器官が形成される仕組みについて、どのような実験によりその仕組みが証明されたかなど、実験発生学の成果にもとづきながら解説する。特に、各器官形成系でおこる細胞分化、増殖、細胞移動、誘導、形態形成、細胞間相互作用など“細胞社会”として制御されている側面とその分子メカニズムについて講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 卵割から胚葉形成まで 3. 神経胚形成 4. 発生運命地図と誘導・体軸形成 5. 表皮の発生・分化 6. 神経堤細胞の移動と分化 7. 体節の形成 8. 心臓形成と血管系の発生 9. 造血細胞の起源 10. 排出器官の発生 11. 生殖巣の形成 12. 生殖輸管などの発生 13. 消化器官の発生 14. 肝臓形成 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	武田洋幸・相賀裕美子著『発生遺伝学』（東京大学出版会）、東中川徹他編著「ベーシックマスター発生生物学」（オーム社）、八杉貞雄著「動物の形態 ー進化と発生ー」（裳華房）など。随時紹介する。				
予習・復習について	予習・復習を必ず行って下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などに基づいて総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定しませんが、質問があれば研究室まで。				
担当教員からのメッセージ	発生現象は見ていて大変美しいものです。またその仕組みも巧妙です。				

授業科目名	生物学Ⅱ (Fundamental Biology II)				
担当教員名	藤原 健智 (FUJIWARA Taketomo)		所属等	理学研究科	
			研究室	総 614	
分担教員名	徳元 俊伸				
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	細胞膜、代謝、ゲノム、遺伝子発現、発生、がん、進化				
授業の目標	生物学は分子生物学的理解により急速に進歩し、複雑化してきている。その一方で、ゲノム情報を基盤とした分子レベルでの研究成果は生物の統合的な理解をもたらした。本講義では生物現象を進化論的に説明することを基本コンセプトに編集された下記の教科書を題材に現代生物学の概略を理解する。				
学習内容	現代生物学の概略について理解する。				
授業計画	回	内容			
	1	細胞膜			
	2	細胞間の相互作用			
	3	細胞間の相互作用 2			
	4	エネルギーと代謝			
	5	細胞はどのようにエネルギーを獲得するか			
	6	光合成			
	7	光合成 2			
	8	遺伝子発現の制御			
	9	発生の細胞機構			
	10	がんの生物学と細胞操作技術			
	11	集団における遺伝子			
	12	進化の証拠			
	13	種の起源			
	14	ゲノムと発生機構の進化			
	15	ゲノムと発生機構の進化 2			
受講要件					
テキスト	レーヴン/ジョンソン 生物学、培風館、 P. レーヴン/G. ジョンソン/J. ロッス/S. シンガー著 6,400円 (生協で販売)				
参考書	必要があればそのつど紹介する。				
予習・復習について	出欠の代わりとして、前回の復習を兼ねた小テストをするので、予習・復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	前半と後半に分けて試験を実施する。内容はそれぞれの担当教員からアナウンスする。				
オフィスアワー	月曜日 7-8時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	授業計画通りに行う予定であるが、内容や進度によりシラバスと前後することがある。				

授業科目名	神経科学 (Neuroscience)				
担当教員名	竹内 浩昭 (TAKEUCHI Hiro-aki)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟6階612室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	神経、脳、情報処理、運動制御、記憶、学習、情動、ニューロイメージング、ニューロエソロジー、神経疾患				
授業の目標	脳科学・神経科学・神経行動学における基本的知識の修得				
学習内容	<p>21世紀は脳科学・神経科学の時代と言われ、脳科学・神経科学の進歩は脳の老化防止、アルツハイマー病など脳・神経系難病の克服、脳の原理を生かしたコンピュータやロボットの開発に繋がることから、基礎研究のみならず応用研究の進展が多分野から注目されている。</p> <p>本講義の前半では脳神経系の構造と発生、膜電位の生成機構、細胞の興奮、刺激受容と感覚情報処理などこの分野の基本事項を解説し、後半では古典的な神経解剖学・電気生理学的解析法から近年発達著しいニューロイメージングまで代表的な研究手法を紹介する。また、本能行動発現や記憶・学習の脳内メカニズムなどについても、重要な研究例をピックアップして解説する。</p>				
授業計画	<p>01～03. 脳神経系の構造と発生、進化 04～06. 細胞膜の構造と膜電位の生成機構 07～09. 細胞の興奮と興奮の伝導・伝達 10～11. 刺激受容と感覚情報処理 12～13. 神経科学の研究手法 14～15. 本能行動発現・記憶・学習の脳内メカニズム</p>				
受講要件	授業に遅刻せず出席し、集中して聴講し、最低限の予習・復習ができること。				
テキスト	テキストは特に指定せず、適宜、資料・プリントを配布するが、下記参考書に目を通すことが望ましい。				
参考書	<p>神経科学 - 脳の探究 -, M.F.ベアー・B.W.コノーズ・M.A.パラディーソ (著) 加藤・後藤・藤井・山崎 (訳), 西村書店, 2007. 4890133569 脳・神経科学入門講座 前編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107297 脳・神経科学入門講座 後編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107303 脳・神経と行動, 佐藤真彦 (著), 岩波書店, 1996, 9784000078764 生き物をめぐる4つの「なぜ」, 長谷川眞理子 (著), 集英社, 2002, 9784087201680</p>				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習それぞれ15分以上。				
成績評価の方法・基準	授業の出席状況、授業時の小テスト(資料持込可)と期末試験(資料持込不可)の答案あるいはレポートの内容に基づいて成績を評価する。なお、答案は模範解答の6割程度を合否基準として成績を判定する。				
オフィスアワー	金曜日9・10時限(16:05-17:35)を予定。				
担当教員からのメッセージ	新聞やインターネット上の科学関連情報を積極的に利用して、予習・復習に努めてください。 質問は、できるだけ授業中あるいは授業直後にしてください。ただし、メールでの質問も歓迎します。				

授業科目名	微生物学 (Microbiology)				
担当教員名	藤原 健智 (FUJIWARA Taketomo)	所属等	理学研究科		
		研究室	総 614		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	地球上のあらゆる環境に、肉眼では見ることのできない微小な生物たちが住んでいる。微生物の高い環境適応能力はどのようにもたらされるのであろうか。原核微生物（バクテリア・アーキア）の多様な生化学的機能に主眼をおいて微生物学を講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の歴史 2. 原生動物・細菌・ウイルス 3. 細胞・遺伝子の構造 4. 系統分類 5. 発酵・呼吸・光合成 6. 極限環境微生物 7. 共生・進化 8. 地球環境と微生物 9. 病原性微生物 10. 工業的利用 				
受講要件					
テキスト	プリントを随時配布し資料とする。				
参考書	「Brock 微生物学」（オーム社）。各自手持ちの一般的な生化学の教科書も参考文献とする。				
予習・復習について	要復習				
成績評価の方法・基準	学期末に試験を行います。また出席回数が10回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。				
オフィスアワー	月-金曜日午後（12:00-16:00）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物環境科学概論 I (Introduction to Biogeosphere Sciences I)				
担当教員名	塚越 哲 (TSUKAGOSHI Akira)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>進化古生物学の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化古生物学の概要（化石とは何か、進化の定義、進化古生物学の方法、関連諸分野） 2. 進化学関連学史（自然神学、自然哲学、進化論の登場、集団遺伝学の確立、総合説） 3. 化石の保存と記録の不完全性（保存の条件、化石化作用、自生・他生、化石の発見確率） <p>個体レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 成長と個体発生（成長型、絶対成長と相対成長、アロメトリー） 5. 生活様式と個古生態（生活型、摂食様式、古生態と地質学的情報、機能形態） <p>化石記録と進化</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 化石に見られる進化速度（系統的速度と分類学的速度、生きた化石、断続平衡論争） 7. 多様性変遷史の解釈（大量絶滅と適応放散、完全性と多様性の補正、分類群生存曲線） <p>8. 中間試験</p> <p>初期生命の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ストロマトライト、真核生物の出現 10. 多細胞生物の出現 <p>進化のパターンと化石生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. エディアカラ化石群 12. カンブリア紀の化石群と進化の大爆発 <p>地球環境と大量絶滅</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大量絶滅の認識、主な大量絶滅 14. 大量絶滅の要因 15. 先カンブリア時代の地球環境 <p>16. 期末試験</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。試験で合格点に達しなかった場合、出席優良者に限って、再試験代わりのレポートを課すなどの救済措置を取る。				
オフィスアワー	なし。				
担当教員からのメッセージ	なし。				

授業科目名	構造岩石学 (Structural Petrology)				
担当教員名	増田 俊明 (MASUDA Toshiaki)		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 313	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	火1・2
キーワード	応力、歪、岩石の変形				
授業の目標	応力と力の違いを数式を使って理解すること。歪解析の初歩について理解すること。				
学習内容	岩石の変形に関する基本的な知識を、数式を積極的に取り入れて紹介する。特に応力と歪みについて詳しく扱う。数学力としては高校での数学レベルを基本とし、それを逸脱する場合は解説する。				
授業計画	回	内容			
	1	力、単位ベクトル			
	2	力の釣り合い			
	3	ベクトルの内積、連立方程式と行列表示			
	4	固有値			
	5	固有ベクトル			
	6	座標変換			
	7	応力場の例			
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	増田俊明 「はじめての応力」 (朝倉出版)				
予習・復習について	数式の展開が必要なレポート課題を数回出題する予定。レポートの出来は成績に反映させる。				
成績評価の方法・基準	試験				
オフィスアワー	9:00 から 17:00 まで				
担当教員からのメッセージ	数学は一見ややこしいが、解ってしまえば一番解りやすい。高校時代の数学の教科書は大学でも使う。				

授業科目名	マイクロテクトニクス (Microtectonics)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	火1・2
キーワード	微細構造、組織、ファブリック、差応力、レオロジー				
授業の目標	岩石の構造を理解し、そこに記録されているレオロジーの情報を読み取る力を培う				
学習内容	主に偏光顕微鏡下で観察される岩石の微細構造を学ぶ。				
授業計画	マイクロテクトニクス 微細構造と組織、そしてファブリック 鉱物の細粒化（石英、かんらん石など）と差応力計 変形メカニズムマップ				
受講要件					
テキスト	なし				
参考書	講義中に適宜紹介する				
予習・復習について	配付資料や参考書を元にして予習・復習をして理解を深めてほしい				
成績評価の方法・基準	出席状況，レポート，試験等によって，総合的に評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	岩石の構造に秘めた情報を引き出すおもしろさを学んでほしい				

授業科目名	地球化学 (Geochemistry)				
担当教員名	森下 祐一 (MORISHITA Yuichi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	火3・4
キーワード	地球化学、元素、同位体				
授業の目標	多様な学問分野の発展とともに明らかになりつつある地球を、化学的な側面から理解することを目指す。				
学習内容	地球を含む太陽系はおよそ 46 億年の歴史を持つが、その間絶えず変動し続けて来た。地球の起源、地球の構造、地球の進化など、マクロな課題に対する答えを導いて地球を理解するためには、元素や同位体の挙動など、ミクロな研究が欠かせない。1、2年での授業を発展させたトピックスについて学習する。				
授業計画	授業のねらい：地球化学の見かた 1) 地球システムにおける元素 地球の化学構造、地球の化学組成、元素分配 2) 元素の挙動 熱力学と相平衡、平衡現象と非平衡現象 3) 岩石と鉱物 鉱物の性質と結晶化学 4) 同位体の性質と分析法 安定同位体、放射性同位体、同位体分別、放射壊変、放射年代測定 5) 鉱物資源 鉱物資源の形成：熱水性鉱床の特徴と鉱床の成因 資源・環境問題、地球表層変動				
受講要件	大学において地球科学の基礎講義を受講したことがあること				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて授業の中で地球科学分野の書籍を紹介する。				
予習・復習について	授業中にプロジェクターで写す内容の要点をノートに書きとめ、随時配布するプリントと合わせ、授業後の復習として授業でのストーリーを追うこと。				
成績評価の方法・基準	2/3 以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。				
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問は事前にメールで時間を予約すること。				
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。地球を良く知るためには様々な手法を駆使する必要があることを学んで欲しい。				

授業科目名	地球科学入門Ⅲ (Introduction to Geosciences III)				
担当教員名	生田 領野 (Ryoya IKUTA)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 306	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード	地球のダイナミクス、プレートテクトニクス、地震、造山運動、宇宙の中の地球、太陽系の形成、宇宙の進化、恒星の一生、銀河				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。地球を様々な時間空間スケールで認識し、複合的なシステムとして捉える視点を養う。				
学習内容	地球科学の入門。英語のテキストを用いて学習する。 岩石圏のダイナミクスを地球科学の発達史を踏まえて概観する。 天文学の発達史を踏まえて地球外の惑星、宇宙を概観し、相対的な視点で地球を捉える。 主眼は地球科学に対する入門であるが、英語の教科書を用いることで科学の共通語としての英語での読み書きに慣れる。				
授業計画	Unit III: Forces Within 7: Plate Tectonics: A Scientific Revolution Unfolds 8: Earthquakes and Earth's Interior 10: Crustal Deformation and Mountain Building Unit VII: Earth's Place in the Universe 21: Origins of Modern Astronomy 22: Planetary Geology 23: Light, Astronomical Observations, and The Sun 24: Beyond Our Solar System				
	回	内容			
	1	大陸移動説と大論争			
	2	プレートテクトニクスの勃興：プレート境界の力学とそれに伴う様々な事象			
	3	地球内部のダイナミクス			
	4	地震発生の物理			
	5	地震学；地震の波を見る			
	6	災害としての地震			
	7	地震と地殻変動			
	8	造山運動と地質構造			
	9	天文学；古代ギリシャから近代天文学へ			
	10	惑星運行と古典力学			
	11	太陽系の発達史と比較惑星学			
	12	現代天文学			
	13	恒星			
	14	宇宙			
	15	二年生からの地球科学の学び方			
受講要件					
テキスト	Tarbuck, E. J., Lutgens, F. K. and Tasa, D., Earth Science, International ed. of 13th revised ed. Pearson Education, 810 pp				
参考書					
予習・復習について	英語辞書を十分に使い予習・復習することをすすめる。				

成績評価の方法・基準	授業中の発言，複数回の小課題に加え，学期末テストで授業の理解度を評価する。
オフィスアワー	毎週火曜日の午後
担当教員からのメッセージ	科学的な英語の文章には論理的な流れがあり，小説より断然簡単です。 更に図版が大変美しい教科書なので眺めてみるだけでも楽しいこと請け合いです。 地球科学全体の入門を1年間かけて進める中で，自分が好きな分野を見つけてください。

授業科目名	地球ダイナミクス概論Ⅱ (Introduction to Geodynamics II)				
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	岩石変形、地質構造、大陸移動説、海洋底拡大説、テクトニクス、造山運動、地殻変動、日本列島、東海地域				
授業の目標	地球のダイナミクスを理解する上で重要な構造地質学、プレートテクトニクスを学び、それらをふまえて日本列島で起こる様々な地殻変動の意味を理解する				
学習内容	概論Ⅰに引き続き、地球のダイナミクスを解説するうえで重要な地球内部の構造を理解するための構造地質学の基礎を概説する。引き続き、地殻およびマントル上部の運動を支配するプレートテクトニクスの理論について、その成り立ちと概要を解説する。これらをふまえて、日本列島周辺の過去から現在にかけてのプレートシステムの変遷、変動帯日本列島、とりわけ地殻変動の活発な東海地域周辺の位置づけ、成り立ちを明確にする。				
授業計画	1 項目1時間とは限らない 1 地球ダイナミクスと構造地質学 2 地質構造とは？ 3 応力と歪 4 断層と褶曲 5 弾性、脆性、塑性、粘性 6 プレートテクトニクスとは 7 日本列島周辺のプレートシステム 8 東海地域の地殻変動と東海大地震				
受講要件					
テキスト					
参考書	適宜紹介する				
予習・復習について	レポート等と併せて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める。授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと。				
成績評価の方法・基準	レポート、授業時間内の理解度小テスト、期末試験、出席状況などを総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球生命史 (Evolution of Life on Earth)				
担当教員名	加藤 憲二 (KATO Kenji)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水3・4
キーワード	地球と生命の共進化、原核生物、真核生物、エネルギー生産、地球型生命				
授業の目標	地球は、誕生からしばらくの後に水の惑星となり、衝突などの急激な物理インパクトも経ながら、生命進化が繰り返されてきた。その中で酸素の惑星としての地球を作り上げたのは地球の無機的環境と微生物との相互作用である。ダーウィンも触れることができなかった時代、生痕化石による進化学が扱うことのできない、生命がドラスティックに地球とともに進化した地球誕生後の25億年に焦点を合わせ、惑星地球の環境と生命の進化を考える。				
学習内容	惑星地球が誕生してからそこに生命が登場するまでの時間を遥かに超える間、地球上に存在したと考えられる生命は原核生物のみである。真核生物が登場するまでの10億年を超える時間の中で、生命は様々な環境の中で自らエネルギーを作り出す代謝系を獲得し、生息域を広げ、そして進化してきた。ダーウィンも触れることができなかった生命が最もドラスティックに地球とともに進化した地球誕生後の25億年に焦点を合わせた、新しい地球と生命の見方をお話ししたい。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分子系統樹に年代が入った！： <ul style="list-style-type: none"> ・DNAによる系統樹 ほか 2. 生命が一度だけ誕生したと考える理由 3. 最古の化石は本物か？；科学は”Evidence”を求める旅デアル。 <ul style="list-style-type: none"> ・岩塩に封じ込められた2億年前の生きた細菌；それは2億年生きたといえるだろうか？ ほか 4. 地球が水の惑星になったのは物理過程だが酸素の惑星になったのは生物作用 5. 生態系の形成；高温極限環境の温泉バイオマット <ul style="list-style-type: none"> ・地上の温泉、深海底の温泉 6. 中立進化と分子系統樹 <ul style="list-style-type: none"> ・生命の共通祖先 ほか 7.アーキア everywhere 8. 真核生物の登場 <ul style="list-style-type: none"> ・Ring of Life 9. 生命進化の大きな出来事、生命って何だ？ <ul style="list-style-type: none"> ・Kirschvink と Hofmann と 全球凍結 ・目の誕生 				
受講要件	理解を進める上で自分に欠けている基礎知識がみつければそれを補う努力をすること。自らの頭で生命と地球について考えるスタイルを作ろう！				
テキスト	講義ノートと配付資料が柱となる。				
参考書	適宜紹介する。たとえば、現代進化学入門 (C. パターソン、岩波)、全地球史解説 (熊澤他、東大出版)、生命と地球の共進化 (丸山、磯崎、岩波新書)、スノーボールアース (G. ウォーカー、早川書房) など。				
予習・復習について	提供された資料と講義内容を講義後に確認し、理解すること。疑問点があれば次回に質問すること。				
成績評価の方法・基準	授業への参加 (出席することだけではない) と課題 (もしくは試験) によって行う。				
オフィスアワー	毎講義終了後の30分と月曜日の昼休み時間				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学入門Ⅳ (Introduction to Geosciences IV)				
担当教員名	木村 浩之 (KIMURA HIROYUKI)		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 313	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金7・8
キーワード	海洋、海流、海底、海洋生物、大気循環、気象、気候変動				
授業の目標	英語で書かれた教科書を使用しながら地球科学の基礎知識を習得する。地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、海洋、海流、海底、海洋生物、大気循環、気象、気候変動に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	UNIT FIVE The Global Ocean 13. The Ocean Floor 14. Ocean Water and Ocean Life 15. The Dynamic Ocean UNIT SIX Earth's Dynamic Atmosphere 16. The Atmosphere: Composition, Structure, and Temperature 17. Moisture, Clouds, and Precipitation 18. Air Pressure and Wind 19. Wether Patterns and Severe Storms 20. World Climates and Global Climate Change				
受講要件	なし				
テキスト	Edward J. Tarbuck, Frederick K. Lutgens, Dennis Tasa. Earth Science, 13th Edition, Pearson Education, Inc., ISBN-10: 0321688503, ISBN-13: 978-0321688507				
参考書	なし				
予習・復習について	英語辞書を使って教科書を和訳し、十分に予習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末テストにより成績評価を行う。				
オフィスアワー	授業後に質問を受け付けます。				
担当教員からのメッセージ	本講義で使用する教科書は、地球科学の基礎知識を身につける上で最適のテキストです。事前に和訳し、しっかりと予習をしておいて下さい。				

授業科目名	放射化学 I (Radiochemistry I)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	放射化学、原子核、放射線、放射性核種、放射線測定、原子力発電、核融合発電				
授業の目標	放射性核種及び放射線の基礎知識を取得する				
学習内容	<p>一般の化学が原子核のまわりの核外電子、特に価電子についてのみ取扱うのに対し、放射化学および核化学では原子核そのものやその挙動を対象としている。</p> <p>授業前半（担当：近田）の講義では、原子核の様々な現象を物質の基本的概念として捕えることが出来るようなシラバスの項目、(1)、(2)について主に解説する。また、原子力エネルギー（核分裂、核融合）の原理等についても解説する。</p> <p>授業後半（担当：大矢）では、シラバスの項目、(3)、(4)に基づき放射線の物質中での振る舞いや放射線による化学反応について解説する。また、研究並びに放射線管理の手段として、欠かすことのできない放射線測定器に関する基礎的原理についても言及する。</p> <p>放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。</p>				
授業計画	<p>(1)原子核のなりたちと壊変現象 ・核化学や放射化学における核現象の一つとして、放射能が主題となる。まずは原子核の組成やその安定性について解説し、放射能とは何かを理解する。</p> <p>(2)原子核現象と化学状態 ・原子核と核外電子との相互作用、放射性核種の壊変定数等の化学状態による変化、核γ線共鳴(メスバウアー効果)および原子核の壊変に伴う化学的效果</p> <p>(3)放射線と物質との相互作用 ・放射線の定義、種類、分類、それぞれの放射線についての特性および物質との相互作用 ・放射線による化学反応：スプールの生成、素反応、水分子の放射線分により生成する活性酸素及びフリーラジカル ・放射線の生体に及ぼす影響：高線量放射線によるDNA損傷、放射線感受性、放射線障害放射線防御、低線量放射線による放射線ホルミシス現象</p> <p>(4)放射線の検出と測定 ・主な放射線測定器の種類、基本構造、原理、測定技術</p> <p>講義期間中に浜岡原子力発電所見学会を予定しています。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会）				
参考書					
予習・復習について	ホームページに公開している教材を活用して、予習・復習をすること				
成績評価の方法・基準	期末試験、演習、レポート、出席状況（重視）にもとづき総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。				

授業科目名	放射線生物学概論 (Fundamentals of Radiation Biology)				
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火9・10
キーワード	放射線、生体影響、被曝				
授業の目標	放射線の人体に対する影響に関する基礎的知識を習得する。				
学習内容	一般に、人体が放射線を受ける（被ばくする）と何らかの悪影響を受けると考えられているが、放射線の種類や線量によってもその影響は様々である。この放射線の人体への影響について、分子レベルから個体レベルまでに分類して系統的に解説する。				
授業計画	回	内容			
	1	放射線影響の分類			
	2	放射線の分子レベルの影響（1）			
	3	放射線の分子レベルの影響（2）			
	4	細胞に対する放射線影響（1）			
	5	細胞に対する放射線影響（2）			
	6	組織に対する放射線影響			
	7	放射線の個体レベルの影響			
	8	晩発障害			
	9	胎児に対する影響（胎内被ばく）			
	10	内部被ばく			
	11	遺伝的影響			
	12	放射線感受性の修飾要因			
	13	生物領域における放射線利用（1）			
	14	生物領域における放射線利用（2）			
	15	まとめ			
受講要件	放射化学概論を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				
テキスト	放射線概論（飯田博美編、通商産業研究社）				
参考書	資料を配布する。				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習としてテキスト等を読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	期末試験およびレポート等により総合的に評価する。				
オフィスアワー	適宜応じる。				
担当教員からのメッセージ	目的意識を持って学習に取り組んでください。				

授業科目名	放射化学概論 (Fundamentals of Radiochemistry)				
担当教員名	矢永 誠人 (YANAGA Makoto)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期	必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射性核種利用				
授業の目標	非密封放射性核種に関する化学分野の基礎を総合的に習得する				
学習内容	本科目では、全学科の学生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる“化学のうち放射線に関するもの”を構成する基礎的な知識と放射性核種の製造、分離、分析、核反応を利用した分析、および標識化合物に関わること等を講義するとともに、試験におけるポイントを演習により解説する。(なお、放射線物理学概論を履修していない受講者のために、講義をする上で必要に応じて放射線物理学概論の内容も解説する。)				
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射性壊変と放射能 2. 放射平衡 3. 天然放射性核種 4. 核反応と R I の製造 核反応の種類, 励起関数, 原子断面積と同位体断面積, 無担体 R I の調製法 5. 核分裂 6. R I の分離法 共沈法, 溶媒抽出法, イオン交換法, ラジオコロイド, その他 7. 放射化分析 8. ホットアトムの化学 9. R I の化学分析への応用 放射化学分析, 放射分析, 同位体希釈分析 10. トレーサとしての化学的利用 11. 放射線化学 				
受講要件	興味を持って受講して頂ければ、特段の予備知識は必要としない。				
テキスト	放射線概論 第 8 版 (飯田博美 編, 通商産業研究社)				
参考書	放射化学概論 (第 3 版) (富永 健、佐野博敏共著、東京大学出版会)、放射線取扱の基礎 (第 4 版) (日本アイソトープ協会) など				
予習・復習について	各時間の内容に合わせた簡単な演習を復習として行っていただくが、特に、放射線取扱主任者の国家試験を受験する者は、確実に合格できるように普段から演習を行っていただきたい。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	質問等は、平日午前 9 時頃から午後 6 時頃まで、随時、受けつける。				
担当教員からのメッセージ	成績評価の方法に記した平常時の演習として、原則として、毎回の授業時に問題演習を行い、その時間の講義の理解を深める。				

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)				
担当教員名	原 正和 (HARA Masakazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学部 A 棟 103 (移転後：農学総合棟 678)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン				
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。				
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。				
授業計画	第1回 植物生理学について 第2回～第4回 光合成 第5回～第6回 呼吸 第7回～第15回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第16回 定期試験				
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。				
参考書	「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）				
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかり行い、疑問点は遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	小テスト、定期試験により評価する。				
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	持続可能型農業科学 (Sustainable Agriculture)				
担当教員名	南雲 俊之 (NAGUMO Toshiyuki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 435 (移転後：農学総合棟 376)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、持続的農業生産、農業生態系				
授業の目標	農業の持続性に対する土壌の重要性、農業生態系の物質循環の特徴と今日的な環境問題とのかかわりについて理解を深める。				
学習内容	農業生態系あるいは食料システムの物質循環の特徴について、まず解説する。この物質循環の視点に立って、現在の農業が抱える構造的問題や今日的な環境問題とのかかわり、持続的に農業生産を行なううえでの肥料の役割や土壌機能の重要性について解説していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 農業生態系における物質循環の特徴 Key words) 開放系, 窒素, リン, 反応性窒素 3. 農業と環境 Key words) 有機性廃棄物, 水域の富栄養化, 地球温暖化, 酸性化, LCA 4. 伝統的農業生態系の物質循環 Key words) 焼畑, 水田稲作, 水田土壌 5. 農業の持続性とその実践形態－代替農業 Key words) LISA, 有機農業 6. 化学肥料の特徴と作物生産性への貢献 Key words) 肥料資源, 追肥と肥効調節型肥料, 黒ボク土, 水田土壌 7. 有機性廃棄物の現状と農業利用における課題 Key words) 食料自給率, 食料・飼料の輸入と輸出, 土壌腐植, 堆肥, 緑肥, 農地の受入れ可能量 				
受講要件	土壌学（土壌圏科学）を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	とくになし。毎回、資料（プリント）を配布する。				
参考書	授業資料に引用した図表の出典となった書籍全般。				
予習・復習について	復習を重視します。講義後、記憶の新しいうちに、講義内容を整理しておくこと。図書館等で授業内容に関連する参考書等を調べて、読んで、考えてみてください。授業で紹介できる内容は限られたものです。より広い知識を得て、より深い理解ができると思います。				
成績評価の方法・基準	おもに前半の授業内容に関する中間テスト（50％）と、後半の授業内容を題材にした期末レポート（50％）を合計して判定します。 秀（>90点）、優（>80点）、良（>70点）、可（>60点）、不可（<59点）				
オフィスアワー	授業後および随時、来訪を歓迎します。ただし、事前にメール等で問合せること。				
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。 授業中はとにかく話を良く聴くこと。資料には余白がありますし、別途ノートを用意されてもかまいませんので、がんばってメモを取ってください。この授業では、（話を聴くことなしに）資料だけ見ても、その内容を理解できないものになっています。				

授業科目名	森林利用システム学 (Forest Harvesting System)				
担当教員名	近藤 恵市 (KONDO Keiichi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 511 (移転後：農学総合棟 273)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	伐木・造材、車両系集材、架線系集材、作業システム、作業コスト、森林路網				
授業の目標	林道の配置計画、設計・施工技術、木材生産の為の作業計画及び作業技術について論じるのが森林利用システム学であるが、本講義では、森林土木工学で論じられる領域を除き、木材収穫計画・技術に関する基礎的な知識を得ることを目標にしている。				
学習内容	森林から収穫される木材は、伐出計画作業に始まって、伐木、造材、集材、運材（木材輸送）、といった作業を経て、市場に供給される。本講義における森林利用システム学では、以上のような森林諸作業の方法、問題点、コスト等について論じるものである。これらについて概説すると共に、収穫作業選択に大きく影響する環境因子についても概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木材収穫作業技術の変遷 ・ 伐木造材作業で使用される機械と道具 ・ 伐木造材作業の技術 ・ 集材作業の方法について ・ 車両系集材作業で使用される機械 ・ 車両系集材作業の技術 ・ 架線系集材作業で使用される機械 ・ 架線系集材作業の技術 ・ 作業システムと作業生産性 ・ 森林作業の作業コスト ・ 森林作業における労働安全 				
受講要件	関連科目：森林土木工学				
テキスト	使用しない。				
参考書	林業工学 上飯坂 実（地球社） 森林作業システム学 神埼康一他（文永堂） 林業工学入門 上飯坂 実編（地球社）				
予習・復習について	授業計画に合わせ参考書で予習 講義中のノート、配布されるプリント、参考書での復習				
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート（10%）、学期末試験（90%）の結果を総合して評価する。 評価点の90%以上を「秀」、80～89%を「優」、70～79%を「良」、60～69%を「可」とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	本講義は必修科目ですので再受講とならないよう、充分注意してください。				

授業科目名	園芸食品利用学 (Postharvest Technology of Fruit and Vegetables)				
担当教員名	山脇 和樹 (YAMAWAKI Kazuki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 407 (移転後：農学総合棟 431)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	青果物、貯蔵、流通、加工、呼吸生理、予冷、品質保持、缶詰、冷凍食品、色素と変色				
授業の目標	生鮮な果実や野菜の多くは軟弱で貯蔵性が乏しく、また季節性、地域性も強いいため、これらの利用は多くの制約を受ける。このような青果物の収穫から消費までの品質低下やロスを抑える技術は、生産の一部と認識すべきで、世界的に見て更なる開発や整備の余地が大きく残されている。また、缶詰や冷凍、乾燥などの加工は生産物の利用率を上げる重要な手段で、生産と切り離して考えることはできない。講義では、収穫後も生命体であり食品でもある青果物の有効な利用を目指す技術についての理解と関心を深め、さらに農業生産を広い視野で捉える感覚も養う。				
学習内容	園芸生産物を食品として取扱い、その貯蔵や流通、加工に関する基礎知識や技術について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス：講義概要、背景、意義 2. 呼吸生理：養分の供給は断たれても生きている。長所でもあり短所でもある 3. 呼吸の制御：温度、空気組成、エチレン、物理的刺激、熟度、齢など 4. 予冷の意義：収穫後、なぜ急いで冷やさないといけないのか 5. 予冷の実際：差圧通風予冷、真空予冷、ハイドロクーリングなど 6. 予措：流通、貯蔵の前に行う処理。キュアリング、脱渋、追熟処理など 7. CA貯蔵とMA貯蔵：リンゴが一年中食べられるのはCA貯蔵のおかげ 8. 生理障害と市場病害：収穫した時点で農作物は法的に食品の扱いを受ける 9. 品質評価と選別：傷つけずに成分や品質を測定、評価し、選別する技術が実用化 10. 缶・びん詰、レトルト食品：200年以上の歴史 11. 冷凍食品：単に凍らせた食品ではない 12. 色素と変色：きれいな色を保つのは至難のわざ 13. 水分活性と腐敗：水分活性とは？ 14. ゲル化剤としてのペクチン：どうして固まるのか 15. 総括および加工実習 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：収穫後生理学、果樹園芸学、野菜園芸学など				
テキスト	特に使用しない 資料を適宜プリントして配布する				
参考書	「食品保蔵・流通技術ハンドブック」(建帛社) 「園芸食品の流通貯蔵加工」(養賢堂) 「青果保蔵学汎論」(建帛社) 「野菜の鮮度保持マニュアル」(流通システム研究センター) 他				
予習・復習について	特に予習の必要はないが、身近な果物、野菜の生理現象にも関心をもち、講義に臨んで欲しい。 講義後は復習と興味を持った事柄について独自の学習を期待する。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト、レポートにより受講意欲や関心度などを評価(30%)し、期末の筆記試験で総合的な理解度を評価(70%)する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義中の質問は授業への積極的な参加として、加点評価する。				

授業科目名	食品機能化学 (Nutritional Biochemistry of Functional Food)				
担当教員名	森田 達也 (MORITA Tatsuya)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 602 (移転後：農学総合棟 576)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	食品の 3 次機能、生体調節機能、科学的根拠と現実性				
授業の目標					
学習内容	食品の持つ生体調節機能について生理、生化学的機構を中心に講義する。				
授業計画	1 序論（日本の栄養摂取量の現状と問題点） 2～ 4 食物繊維の機能（血糖値上昇抑制、コレステロール低下、大腸機能） 5～ 7 脂質の機能（不飽和脂肪酸と虚血性疾患、アレルギー） 8～10 活性酸素（その功罪、抗酸化 Vitamin 及び微量元素摂取の意味） 11～12 タンパク質の機能（アミノ酸組成と脂質代謝） 13～14 炭水化物の機能（消化抵抗性デンプンの栄養生理的意義）				
受講要件	関連科目：栄養化学、生化学				
テキスト	なし。必要な資料はコピーして配付する。				
参考書	「食品機能化学」（三共出版） 「食物繊維」（第一出版） 「フリーラジカルと生体」（学会出版センター）				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験を考慮して行う。				
オフィスアワー	月～金の昼休み、または夕方 6 時以降（農学部 A 棟 602）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生体機能学 (Endocrinology and Immunology)				
担当教員名	茶山 和敏 (SAYAMA Kazutoshi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 203 (移転後：農学総合棟 579)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	内分泌、免疫、ホルモン、環境ホルモン、サイトカイン、ケモカイン、成長因子				
授業の目標	脊椎動物の生体機能のうち、主に哺乳類における内分泌および免疫の生体機構とそれらに関連するホルモン・サイトカインなどの生体内情報伝達物質に関する基礎的学理について講述し、それらを理解することを目標とする。				
学習内容	はじめに、概論として生体内の情報伝達機構について概説する。次に、内分泌（ホルモン分泌）機構および免疫機能に関する講義を行うとともに、それらに関係するホルモンやサイトカインなどの生体内情報伝達物質についても詳しく説明する。そして最後に、内分泌、免疫および神経の相互作用についてまとめる。				
授業計画	第1回 緒論、生体機能学とは、生体内の情報の受容と統合、ホメオスタシス 第2回 ホルモンの特性と作用 第3回 視床下部の神経内分泌機能、視床下部ホルモン 第4, 5回 下垂体の内分泌機能、下垂体ホルモン 第6, 7, 8回 ステロイドホルモン、性・生殖に関する内分泌機構とホルモン 第9回 その他のホルモンおよび成長因子の特性とその内分泌機構 第10回 内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の作用と問題点 第11回 免疫機能に関連する情報伝達機構 第12, 13, 14回 免疫情報伝達物質（サイトカイン、ケモカイン、その他） 第15回 内分泌、神経および免疫系の関係と相互作用、まとめ				
受講要件	細胞生物学、動物生理学、動物繁殖生物学、動物生理化学と密接な関連があるので、それらの講義内容も含めて事前に予習しておくこと。				
テキスト	なし。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	講義時間内に予告なく小テストを行うので、講義前に必ず復習をしてくること。				
成績評価の方法・基準	小テスト（20～30％）と期末筆記試験（70～80％）の合計を基本として、自主レポートの点数をプラスして総合的に評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	オフィスアワーは特に定めません。必要な時は、連絡をしたうえで研究室まで来てください。				
担当教員からのメッセージ	遅刻や講義中の私語は慎むこと。自主レポートの点数は成績評価に関係しますので、自発的・積極的に取り組んでください。				

授業科目名	応用生態学 (Applied Ecology)				
担当教員名	澤田 均 (SAWADA Hitoshi)	所属等	農学研究科		
		研究室	農学部 A 棟 306 (移転後：農学総合棟 471)		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	農地生態学、個体群生態学、群集生態学、生物多様性、食用作物				
授業の目標	農地生態学と農業環境問題の幅広い知識を身につけること、農作物及び農地の生物多様性を深く理解することを目標とする。				
学習内容	この講義は農地生態学の入門編である。実際の研究例をとおして、農地生態学とはどのような学問か、何を研究対象とし、どのような方法を使うのかを学ぶ。特に個体群、群集、生態系レベルの研究対象を取り上げる。できるだけ主要な食用作物(イネ、トウモロコシなど)を例に取り上げる。				
授業計画	1. 授業ガイダンス、応用生態学とは何か 2～4. 個体群1－葉群光合成モデル(門司・佐伯モデル) 5～6. 個体群2－有害生物問題 7～9. 個体群3－有害生物防除戦略(外来雑草防除モデル) 10～11. 生物多様性－栽培種と野生種(トウモロコシの栽培化) 12～14. 群集－遺伝子組換え作物の生態的インパクト 15. 生態系－農地生態系の窒素循環 16. 筆記試験				
受講要件	2年生前期の「基礎生態学」を受講しておくことが望ましい。もし受講していない場合は、事前に生態学分野の大学初級程度のテキストを読んでおくことが望ましい				
テキスト	特に使用しない予定。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介したい。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は、主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験でみる。				
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室にて。その他は電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。授業には遅刻しないように。遅刻すると、他の受講生の集中力を低下させ、クラスに悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	農業簿記入門 (Introduction to Agricultural Bookkeeping)				
担当教員名	柴垣 裕司 (SHIBAGAKI Hiroshi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 326 (移転後：農学総合棟 522)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	農業簿記、財務分析				
授業の目標	講義内容（財務諸表の見方、企業の財務分析）を学生が、就職活動等で活用できるようになることを目指す。				
学習内容	農業簿記を題材として、簿記の基本原則を習得してもらう。さらに、簿記記帳により得られる財務情報を基にした財務分析手法を学んでもらう。				
授業計画	1 : 授業ガイダンス 2 : 簿記の計算方法 3 : 財務諸表 4 : 取引、取引要素の結合 5 : 仕訳、仕訳帳記入 6 : 元帳への転記 7 : 合計残高試算表 8～10 : 決算整理 11・12 : 帳簿決算 13～15 : 財務分析 16 : 期末試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	工藤賢資・新井肇「農業会計」農文協、1993				
参考書	工藤賢資・新井肇「農業会計演習帳」農文協、1996、4540951068				
予習・復習について	簡単な宿題を出しますが、講義で理解できないところは復習しておくこと。簿記の学習は積み上げ方式のため、わからないまま放置しておくこと先に進めなくなります。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価するが、小テストの成績も考慮する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。				
担当教員からのメッセージ	簿記は「習うより慣れろ」で、講義中に練習問題を解いてもらいます。また、簿記の学習は積み上げ方式のため、欠席すると先に進めなくなりますので欠席しないこと。 農業簿記について講義しますが、簿記の原理自体は共通ですので、関心のある学生はさらに学習を重ね「商業簿記」等の資格取得にチャレンジして下さい。				

授業科目名	植物ゲノム科学 (Plant Genome Science)				
担当教員名	堀池 徳祐 (HORIIKE Tokuma)		所属等	農学研究科	
			研究室	総合研究棟 302 (移転後：農学総合棟 523)	
分担教員名	本橋 令子				
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	分子生物学、遺伝子、DNA、機能推定、データベース、相同性、生物情報、進化				
授業の目標	最近のゲノム解析の進展は、分子生物学、遺伝学、進化学などの生命科学ばかりでなく、農業生産にも大きな影響を持つようになってきている。情報解析を中心にゲノム解析の目標、進め方、新しい解析技術などについて幅広く講義することで、現代植物科学とその応用を学ぶ基盤とする。				
学習内容	分子生物学の知識の上に、Web をパソコンベースで利用してゲノムの情報を引き出すための基本的な方法について、実践的に学ぶとともに、ゲノムの分化、進化とその解析法について学ぶ。				
授業計画	<p>ゲノム科学とバイオインフォマティクスの基礎について Web を利用しながら学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスーゲノム科学を学ぶにあたって 2 配列決定から DNA データバンクまで 3 DNA データバンクの利用法 4 手作業の限界、網羅的研究、大量データの処理・自動化 5 コンピュータの基礎 6 テキストエディタを用いたデータ編集 7 プログラミングの基礎演習 8 プログラミングの基礎演習 9 比較ゲノム解析 10 系統解析 11 タンパク質立体構造予測 12 突然変異の解析 13 ゲノムリソースサイトの紹介と利用 (タグライン、変異体コレクション、cDNA など) 14 マイクロアレイ解析、プロテオーム解析、メタボローム解析などのオミックス解析 15 まとめ 				
受講要件	パソコンを操作し、インターネットの利用が自在にできる必要がある。また、分子生物学関連講義を受講していること。				
テキスト	『バイオデータベースとウェブツールの手とり足とり活用法(第2版)』(中村保一・磯合敦・石川淳編) 羊土社				
参考書	『東京大学 バイオインフォマティクス集中講義』(高木利久監修) 羊土社 ほか				
予習・復習について	情報を実際に扱ってみることが重要なので、推薦するソフトウェアの利用を積極的に行うこと。				
成績評価の方法・基準	受講状態とレポートにより評価する。				
オフィスアワー	月曜日・木曜日				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生化学 (Biochemistry)				
担当教員名	鳥山 優 (TORIYAMA Masaru)		所属等	農学研究科	
			研究室	共通教育C棟509号室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	ATP、エネルギー生成、糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝				
授業の目標	生化学は生き物を分子レベルで理解しようとする学問分野である。この講義では、代謝の基本的な仕組みと原理、エネルギー代謝を中心とした個々の代謝について学ぶ。				
学習内容	指定された教科書の第Ⅲ部、代謝と生体エネルギー論の中で、光合成を除く代謝経路について理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 代謝についての序論 (化学反応の自由エネルギー変化) 標準自由エネルギーと実際の自由エネルギーとの違い、化学反応が進む方向は? 代謝についての序論 (化学反応における活性化エネルギー) 化学反応が進む際の活性化エネルギーの意味、酵素による反応速度調節の意味 解糖 ブドウ糖からピルビン酸まで、発酵によるNAD回収 解糖の調節 解糖経路中の調節点とその生理的意義 クエン酸回路 クエン酸回路の全容、その収支、アナプレロティック反応 クエン酸回路の調節 クエン酸回路の調節点とその生理的意義 グリコーゲン代謝と糖新生 グリコーゲン合成と分解のしくみ、血糖値維持との関連 糖新生とペントースリン酸経路 ピルビン酸からグルコースへ、糖新生の前駆物質、ペントースリン酸経路によるリボース、NADPHの生成 電子伝達の概略 NADHから酸素までの電子伝達、2電子移動と1電子移動、電子移動に伴うプロトン駆動力の発生 電子伝達とATP合成 ATPシンターゼによるATP合成のしくみ、ミトコンドリア内膜におけるATP、リン酸輸送系 β酸化回路 脂肪酸分解経路の解説、不飽和脂肪酸と奇数鎖脂肪酸の分解経路 脂肪酸合成 マロニルACPによる炭化水素鎖延長反応、アセチルCoAとコレステロール合成 アミノ酸合成 必須アミノ酸と非必須アミノ酸、2-オキソグルタル酸へのアミノ基の取り込み アミノ酸異化 尿素回路、アスパラギン酸シャトル、種々のアミノ酸の異化過程 ヌクレオチド代謝 プリン環とピリミジン環の合成、プリン環異化と尿酸生成 試験 <p>基本的に、1回の授業で1項目を話しきる予定だが、項目によっては前後にずれ込むことがある。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	「ホートン生化学」Hortonら著、鈴木紘一ら訳 (東京化学同人)				
参考書	なし				
予習・復習について	各授業ごとで、教科書の章末の問題番号を指定するので、解答例を見ずに解いて、それをレポートとして提出することで、復習とする。				
成績評価の方法・基準	評価は定期試験のみで決める。定期試験は教科書、ノートなど持ち込み可とする。				

オフィスアワー	月曜日 7, 8, 9, 10 時限, ただし, 事前に電子メールで確認すること
担当教員からのメッセージ	生物学概論で学習した代謝経路の概略と, 生化学概論で学習した生体構成物質の基礎知識を十分に復習してから授業に臨むこと。有機化学の基礎知識も当然必要である。

授業科目名	森林環境水文学 (Forest Hydrology)				
担当教員名	土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi)	所属等	農学研究科		
		研究室	農学部A棟 508 (移転後：農学総合棟 271)		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2
キーワード	森林の熱環境、水循環、降雨浸透、降雨流出、蒸発散				
授業の目標	太陽エネルギーによる熱収支と蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する熱環境の緩和機能等について基本的理解ができることを目標とする。				
学習内容	森林を含む水循環過程に焦点をあて、太陽エネルギーによる熱収支、蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する環境緩和機能について概説する。また、蒸発散過程、雨水流出過程について、森林と水循環過程の定量的関係を講述する。				
授業計画	1・2. 森林地をとりまく水循環とそこでの水循環過程 3. 水資源の涵養と水利用に関する環境倫理 4・5. 土壌中の水の動き：土壌水と地下水、ベルヌイ(Bernoulli)の定理、水理ポテンシャルとダルシー則 6. 不飽和流動の基礎と測定：体積含水率、水分特性曲線、テンシオメータと吸引圧 7・8. 浸透基礎理論：不飽和水分移動の解析、一次元不飽和流動式と数値解、一次元土壌カラム実験 9. 森林斜面における水移動：ホートン型地表流、降下浸透と飽和帯 10. 流出解析：流出モデル、合理式、タンクモデル 11. 地下水流出：地下水のダルシー則、降下浸透と飽和帯 12. 安倍川流域の概要と洪水流出の実態 13. 蒸発散：蒸発散の測定法、水収支法、熱収支法、土壌水分変化法 14. 蒸発散量の推定：蒸発計蒸発量、ゾーンズウエイト法、Penman - monteith 式 15. 水文統計：面積平均雨量の算定、ティーセン法、等雨量線法、超過確率 16. 筆記試験				
受講要件	関連科目：地学概論、地学実習				
テキスト	必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	森林水文学、文永堂				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度 (10%)、レポート (20%)、学期末試験 (70%) の結果を総合し評価基準とする。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール (afstuti@ipc.shizuoka.ac.jp) で前もって連絡のこと。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	微生物代謝工学 (Microbial Engineering and Biotechnology)				
担当教員名	徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 630(移転後：農学総合棟 525)	
分担教員名	小谷 真也				
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物バイオテクノロジー、代謝制御、遺伝子工学、タンパク質工学				
授業の目標					
学習内容	遺伝子工学、パンパ楠津工学、制御代謝工学、微生物バイオテクノロジー全般				
授業計画	回	内容			
	1	ガイダンス			
	2	微生物の多様性			
	3	微生物のバイオテクノロジー			
	4	遺伝工学の基礎 1			
	5	遺伝子工学の基礎 2			
	6	遺伝子工学の基礎 3			
	7	遺伝子工学の基礎 4			
	8	細菌における蛋白質生産			
	9	細菌における物質生産			
	10	放線菌の物質生産 (前)			
	11	放線菌の物質生産 (後)			
	12	酵母におけるタンパク質生産			
	13	アミノ酸発酵			
	14	微生物酵素			
	15	バイオマス			
受講要件	分子生物学及び応用微生物学を受講していることが望ましい				
テキスト	未定				
参考書	ガイダンスで紹介				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい				
成績評価の方法・基準	出席・試験成績を評価して総合的に判断する。				
オフィスアワー	平日：8時～21時				
担当教員からのメッセージ	遺伝子工学の基礎から、最近のバイオテクノロジーまで紹介します。				

授業科目名	食品製造化学 (Food Technology)				
担当教員名	日野 真吾 (HINO Shingo)	所属等	農学研究科		
		研究室	農学部 A 棟 605 (移転後：農学総合棟 577)		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	食品化学、食品機能成分				
授業の目標	化学的知見をもとに、食品の栄養価や経済性、保存性、安全性などを説明できるようになること。食品成分の性質を理解し、加工のしくみを理解すること。				
学習内容	食品を化学的見地から、構成成分、構造、性質、反応などについて解説する。さらに、化学的方法による食品加工についても解説する。				
授業計画	1) 炭水化物の化学とその利用 (1 - 3回) 2) 脂質の化学とその利用 (4 - 6回) 3) タンパク質の化学とその利用 (7 - 9回) 4) 園芸食品とその加工 (10 - 11回) 5) 嗜好食品, 香辛料 (12 - 13回) 6) 機能性食品 (14回) 7) 食物摂取と栄養 (15回)				
受講要件					
テキスト	「わかりやすい食品化学」三共出版				
参考書	その都度指示する。				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	分からない点や興味ある事項について、インターネット等を活用して調べることが望ましい。				
オフィスアワー	随時 (事前に電話や電子メールで問い合わせること)				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問をしてください。				

授業科目名	<p style="text-align: center;">土壌圏科学 (Soil Science)</p>				
担当教員名	<p style="text-align: center;">南雲 俊之 (NAGUMO Toshiyuki)</p>		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 435 (移転後：農学総合棟 376)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、農業生産				
授業の目標	土壌は、陸上生態系における物質循環の中心であり、様々な生き物を支えている基盤的資源である。土壌と植物生育の関わりや地域・地球環境問題との関わりを、物質循環という視点から理解するための基礎的な知識の習得を目指す。				
学習内容	土壌の特徴を化学的、物理学的、生物学、地学的、そして農学的側面から概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 1) 土壌とは何か? ガイダンス 2) 2) 土壌生成論 土壌生成因子・作用, 層位分化と ABC 層位 3) 土壌の構成成分 とくに土壌鉱物 4) 4) 土壌の物理 I 土壌の三相分布と土壌構造 5) 土壌の物理 II 土壌が水を保持する力, マトリックポテンシャル 6) 土壌の物理 III 土壌中の水移動, 保水性・排水性と植物生育 7) 5) 土壌の化学 I 土壌の電荷とイオン吸着・交換反応 8) 土壌の化学 II 土壌の反応 (pH) と交換性陽イオン, アルミニウム 9) 土壌の化学 III 土壌の酸化還元反応 10) 土壌の化学 IV 腐植物質の特徴と役割 11) 6) 土壌の生物 I 土壌生物の種類と量, 土壌環境と微生物生態 12) 土壌の生物 II 土壌微生物バイオマスと生態系の物質循環 13) 土壌の生物 III 土壌微生物と植物生育 14) 7) 日本の代表的土壌 15) 8) まとめ 				
受講要件	高校レベルの化学の内容（できれば、物理、生物も）がおおむね理解できている前提で授業を行う。				
テキスト	土壌サイエンス入門（三枝正彦・木村真人編，文永堂）（4000 円程度） なお、毎回プリントを配布する。				
参考書	土壌学は農学基礎分野の 1 つであり、高校教科書（農業高校）や一般向けに平易に解説した普及書からより高度な専門書まで幅広い土壌書が出版されています。是非、これらの土壌書を手にとって読んでみてください。				
予習・復習について	<p>復習を重視します。授業内容は忘れないうちに、教科書の該当箇所と別途指示する関連箇所をよく読み、しっかり理解すること。</p> <p>予習は、次回授業に必要となる高校理科の内容・単元の復習や、次回授業の理解に役立つ調べ学習（レポート）を指示し、これをもって代えます。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>期末テスト（100%）により評価する。</p> <p>なお、簡単な演習問題を課す小テストを行なう場合がある。</p> <p>秀（>90 点），優（>80 点），良（>70 点），可（>60 点），不可（<59 点）</p>				
オフィスアワー	授業終了後から昼休みの時間。 随時の来訪を歓迎しますが、事前にメール等で問合せること。				
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。				

授業科目名	生命環境倫理学 (Ethics of Life in Environment)				
担当教員名	竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部A棟 327 (移転後：農学部総合棟 520)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水1・2
キーワード	生命、環境、死、自然、倫理、共生、土地、農、幸福、よく生きる				
授業の目標	「生」と「死」、および「生命」と「環境」の相互関係について洞察を深める。また、それを通して「生きること」を多角的かつ徹底的に問うていく。受講者は、講義の報告や討論に積極的に参与し、自分の問いを手に入れ、これを問い抜いてほしい。講義の主眼は、その探究の題材と手がかりを提供することにおかれる。				
学習内容	生命倫理学と環境倫理学の分野における多様な諸課題について、「生命」と「環境」の相互形成作用に注目しつつ、「生命環境倫理学」という統合的な視座から検討していく。その際、前項の〈授業の目標〉に応じて、テキスト各章についての報告（概要、報告者の考え、疑問、共に話し合いたいテーマ）とそれに基づく討議（質疑応答）を中心に、講義を進める。				
授業計画	1 ガイダンス（講義のねらい、概要、進め方、グループ分け、役割分担、評価等について） 2 あなたはどのように生きてきたのですか？1 ——重度障害者・故阿部恭嗣の場合（視聴覚教材） 3 あなたはどのように生きてきたのですか？2 ——在宅緩和ケア医、故岡部健の場合（視聴覚教材） 4 序章 生命環境倫理学への招待——生命倫理学と環境倫理学の統合 5 第1章 「本当に生きる」という問いかけ——限界づけられた生との出会い 6 第2章 「間」の出来事としての死——在宅緩和ケアの現場から 7 第3章 スピリチュアル・ケア再考——人間の全体性とどう向き合うか 8 第4章 「自然な死」とはなにか——自然における人間の位置を尋ねて 9 第5章 なぜ環境を守るのか？——「環境危機」が照らしだすもの 10 第6章 共に生きるということ——新たなコミュニティのかたちをもとめて 11 第7章 土地に生きるということ——農という生き方 12 第8章 いのちの次元から食を問いなおす 13 第9章 これからの日本社会を考える——北欧社会が照らしだす課題 14 第10章 死すべきものとして共に世界に住まう——東日本大震災から学ぶべき課題 15 終章 いのちの次元への下降——「よく生きる」ことを問いなおす				
受講要件	本講義の問題群に関心があり、討議などに主体的に参加する心構えがあれば、基礎知識は問いません。				
テキスト	近刊の『生命環境倫理学——土地に根ざした生と死をもとめて』（仮題、ナカニシヤ出版）を使用する予定です。かりに公刊が開講日に間に合わない場合は、各回の講義で事前にテキストを配布します。				
参考書	『七転び八起き寝たきり——いのちの証し』（阿部恭嗣著、竹之内裕文編、新教出版社） 『どう生き、どう死ぬか——現場から考える死生学』（岡部健・竹之内裕文編、弓箭書院）など。その他の参考文献は講義内で提示する。				
予習・復習について	講義は、テキスト（上掲の教科書ないし配付資料）を事前に読んでおくことを前提に進められるので、各章の報告担当者以外も、当該の章に必ず目を通して、講義に臨んでください。そうしないと講義で発言できず、討議に加われず、本講義を受講する意味が半減します。				
成績評価の方法・基準	講義でとり挙げたテーマ（各章の内容）に基づき、受講者が自分で問題を立て回答する形式で、学期末に試験を実施する（ただしそれは採点基準が甘いことを意味しない）。なお各章の報告担当者については、その報告内容の評価をもって替えることができる。全体としての評価は、試験での記述内容／講義内での報告内容（60％）に、質問・意見表明などによる講義への貢献度（20％）と出席の度合（10％）を加味する。				
オフィスアワー	水曜日と金曜日の午後。事前に電話かメールで連絡のうえ来室することが望ましい。				

担当教員からの
メッセージ

自分なりの気づきを大切にして、自らの内に秘められた考えをなんとか言葉にしましょう。次に異なった意見に耳を傾け、それぞれの独自の視点を活かしながら、事柄そのものの理解を共に広げ、深めていきましょう。この目標のもと、本講義は、受講生による報告と討議を中心に進められます。討議できる人になって、世界に飛び立ちましょう。教師から知識、情報、見解を一方通行で受け取りたい人には、講義を勧めません。

授業科目名	有機化学概論 (Introduction to Organic Chemistry)				
担当教員名	河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学部 A 棟 711 (移転後：農学総合棟 672)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	分子軌道、構造、命名法、立体化学、反応				
授業の目標	有機化学の重要性を理解し、分子軌道、有機化合物の構造、命名法、立体化学、性質、反応性の基礎を学ぶ。				
学習内容	原子、分子の構造、軌道について理解し、その後、構造式や命名法、立体化学、反応機構の基礎を講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 有機化学の必要性について例を挙げながら解説する。 2) 原子、分子の構造、軌道について解説する。 3) 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説する。 4) 有機化合物の立体化学について解説する。 5) 有機化合物の反応機構の基礎について解説する。 最初と最後の 1～2 回を除き、毎回、小テストを行う。 1 有機化学の必要性について例を挙げながら解説 2 原子、分子の構造、軌道について解説 3 原子、分子の構造、軌道について解説 4 原子、分子の構造、軌道について解説 5 原子、分子の構造、軌道について解説 6 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 7 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 8 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 9 有機化合物の立体化学について解説 10 有機化合物の立体化学について解説 11 有機化合物の立体化学について解説 12 有機化合物の反応機構の基礎について解 13 有機化合物の反応機構の基礎について解 14 有機化合物の反応機構の基礎について解 15 有機化合物の反応機構の基礎について解 				
受講要件	本講義は「生物有機化学 1, 2」に引き継がれる。 高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書を読んで学び、一日も早く追いつけるように努力すること。				
テキスト	ビギナーズ有機化学 (第 2 版) 川端 潤著/化学同人 2013				
参考書	ジョーンズ有機化学 (上) (下) 東京化学同人				
予習・復習について	授業後と授業前に教科書とノートを読み、理解を深め、小テストに備えること。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (約 40%) と小テストの結果 (約 50%) と出席 (約 10%) を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時 (事前に電話や電子メール等で問い合わせること)				
担当教員からのメッセージ	有機化学は生物を扱う学問の大事な基礎です。				

授業科目名	植物機能科学 (Plant Physiology and Function)				
担当教員名	原 正和 (HARA Masakazu)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学部 A 棟 103 (移転後：農学総合棟 678)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	植物の生理機能、植物の素材、機能と素材の活用				
授業の目標	植物の機能と利用に関する基礎知識を理解する事を目標とする。				
学習内容	生物産業や環境分野における、植物の高度利用を支える学術情報と具体的活用方法を、植物の成長やストレス耐性などに焦点を当て、生物的、化学的側面から概説する。主としてプリントを用いた講義形式で進める。				
授業計画	<p>植物の機能（光合成、水分生理、二次代謝）をベースに、利用形態（素材、環境保全）、利用のための方法論（化学調節、育種、バイオテクノロジー）について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 植物の機能 水分生理① 3 植物の機能 水分生理② 4 植物の機能 水分生理③ 5 植物の機能 温度生理① 6 植物の機能 温度生理② 7 植物の機能 温度生理③ 8 植物の機能 重金属生理 9 植物の利用形態 素材① 10 植物の利用形態 素材② 11 植物の利用形態 環境保全① 12 植物の利用形態 環境保全② 13 利用のための方法論 化学調節 14 利用のための方法論 育種 15 利用のための方法論 バイオテクノロジー 				
受講要件	植物生理学を履修していること。化学・生化学関連の基礎知識が必要である。				
テキスト	特に用意する必要はない				
参考書	植物生理学、植物化学などに関する各種参考書				
予習・復習について	事前にプリントを配る予定であるので、それらに目を通しておくとよい。				
成績評価の方法・基準	植物の機能と利用に関する基礎知識の習得度に応じて評価する。評価は、筆記試験（70%）、小テスト（30点）とし、出席状況もまた、評価に反映する。				
オフィスアワー	定時のオフィスアワーを設けていないので、必要な時は事前にメールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	評価は厳格に行うため、選択した場合にはしっかりと勉強してください。				

授業科目名	住環境構造学 (Structure of Wooden Houses and Environment)				
担当教員名	安村 基 (YASUMURA Motoi)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学部 A 棟 426 (移転後：農学総合棟 332)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	木造住宅、建築構法、建設・施工、調達・物流、生産管理、耐震設計、耐風設計、許容応力度設計				
授業の目標	木造住宅の構法・施工と生産管理および構造設計法の概要に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。				
学習内容	木材・木質材料の生産と調達・物流および木造住宅の構法・建設・施工と生産管理に関する知識を身につけるとともに、木造建築の構造的特徴と地震・暴風・積雪・常時荷重に対する設計法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B) および (D) に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 わが国における住宅生産の推移 2 建築材料と建築構法・施工・生産管理の概要 3 木造住宅の構工法と施工 (1) - 在来軸組構法 4 木造住宅の構工法と施工 (2) - 桝組壁工法・木質パネル工法 5 その他の構法と施工 (大断面木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造) 6 住宅生産における積算と工程管理 7 住宅各部詳細の施工と管理 8 住宅生産における材料調達と物流 9 構造計算の概要 10 荷重と外力 11 木造建築における耐震・耐風設計 12 木造建築における壁量計算 13 部材の設計 14 材料の強度と許容応力度 15 構造解析手法 				
受講要件	3 年前学期の「材料力学」、後学期の「住環境工学」を履修することが望ましい。				
テキスト	授業中にプリントを配布。				
参考書	杉山英男編著「木質構造」(共立出版)、日本建築学会「構造用教材」「建築材料教材」。その他は授業中に随時紹介する。				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。 本科目は、二級・木造建築士受験資格を得るために必修となる科目です。				

授業科目名	植物細胞工学 (Plant Cell Technology)				
担当教員名	原田 久 (HARADA Hisashi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 433 (移転後：農学総合棟 427)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	植物、培養、組織、細胞				
授業の目標	組織培養の内容が理解でき、自分で実験が立案、実施できることを目標とする。				
学習内容	植物組織培養に必要な基本的な技術・機器などについて解説した後、各種の培養方法など植物細胞工学の基礎と応用について説明する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 植物細胞工学の基礎Ⅰ 設備、機器、器具 2 植物細胞工学の基礎Ⅱ 培地、培養液 3 植物細胞工学の基礎Ⅲ 培養環境 4 植物の増殖法Ⅰ 5 植物の増殖法Ⅱ 6 植物の再生Ⅰ 7 植物の再生Ⅱ 8 生殖器官（胚、胚乳、花粉）の培養Ⅰ 9 生殖器官（胚、胚乳、花粉）の培養Ⅱ 10 低温保存・凍結保存 11 プロトプラスト培養 12 変異 13 細胞育種 14 培養の生理学への応用 15 培養を用いた育種法 				
受講要件					
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験（90%）と小テスト（10%）の成績で評価する。 評価基準は、講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	授業には遅れずに出席すること。				

授業科目名	植物微生物学 (Plant Microbiology)				
担当教員名	瀧川 雄一 (TAKIKAWA Yuichi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 236 (移転後：農学総合棟 385)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	微生物と植物、寄生、共生、多様性				
授業の目標	植物に寄生・共生する微生物の諸相とその応用について理解を深める。				
学習内容	植物と微生物の関係について様々な側面から概説する。まず、植物の病原体としての微生物を概観し、次に植物と微生物の共生関係について講義する。この講義は植物病理学の基礎をなす。				
授業計画	I 植物と微生物 (第 1 回) II 微生物とは (第 2 回) III 植物の病原体としての微生物 (第 3 回―第 1 0 回) 1 菌類 2 細菌 3 ウイルス I 共生的な植物と微生物の関係 (第 1 1 回―第 1 5 回) 1 根粒菌と窒素固定 2 菌根とキノコ 3 エンドファイト				
受講要件	基礎微生物学の単位を取得していること。(3 年次編入生は除く)				
テキスト	「植物病理学」(大木 理 著、東京化学同人) を前半に用いる。後半はプリントで行う。				
参考書	「カビ図鑑」細矢剛・出川洋介・勝本謙 著 全国農村教育協会 2010 ISBN978-4-88137-153-4 「少女系きこの図鑑」玉木えみ 著 DU BOOKS 2012 ISBN978-4925064590 このほか講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の最後に行われる質疑応答について次回までに内容を自分で十分に復習すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の質疑応答と学期末試験で評価する。欠席の程度で評価は低下する。 講義内容を理解し、微生物学および植物病原学の基礎的な知識が身に付いている程度を判定する。				
オフィスアワー	毎日昼休時				
担当教員からのメッセージ	植物の病気についてはもちろん微生物が関わるわけですが、環境問題や生物農薬などでも微生物の知識は必須です。広い視野を持って問題解決にあたるための基礎となる分野です。				

授業科目名	環境社会学 (Environmental Sociology)				
担当教員名	富田 涼都 (TOMITA Ryoto)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部A棟 607 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	環境と社会、環境保全、生物多様性、生態系サービス、公害問題、資源管理、社会的公正、科学知と生活知、文化と伝統				
授業の目標	<p>「環境問題の解決」と一口に言っても、具体的に何を指しているのだろうか。少なくとも、そもそも「問題」と呼ばれているものの正体は何なのか、それに対して何が必要なのかを見極めなくてはならない。また、こうした問題の多くは、現場ごとに様々な特徴を持っているのでマニュアル式に決まった正解が導けるわけでもない。そのため、問題解決を目指すにしても現場から学ぶという姿勢が重要になる。</p> <p>したがって、この講義では、環境社会学の導入編として「環境と社会」という観点から「環境問題」と呼ばれているものを現場で把握し、それに対して何が必要なのかを考えるための『土台』を提供することを目標とする。</p>				
学習内容	<p>本講義は三部構成からなる。まず第一部では、「何を守るのか」という問いをもとにして、環境と社会の相互作用に注目する。第二部では「誰の環境を守るのか」という問いをもとにして、環境をめぐる社会的公正を考える。第三部では「どうやって守るのか」という問いをもとにして、環境の政策理念や遂行プロセスについて考える。</p> <p>なお、講義においては事例を取り上げるという性格上、視聴覚資料などを活用するほか、内容の理解を深めるために、グループディスカッションも行う。受講者からの発言を重視するので、それを踏まえて毎回の講義に臨んでほしい。</p>				
授業計画	<p>1. ガイダンス</p> <p> 第一部『何を守るのか』</p> <p> 2. エコロジカル・フットプリントから見える「環境負荷」</p> <p> 3. 自然の「恵み」を受け続けるためには？</p> <p> 4. 自然の「恵み」をめぐる環境と社会の相互作用</p> <p> 5. 「生物多様性の保全」が背負わざるを得ないもの</p> <p> 第二部『誰の環境を守るのか』</p> <p> 6. 水俣病から学ぶ（その1）</p> <p> 7. 水俣病から学ぶ（その2）</p> <p> 8. リスクの分配は公正か？</p> <p> 9. 自然再生事業は誰のもの？</p> <p> 第三部『どうやって守るのか』</p> <p> 10. 「コモンズの悲劇」を超えて</p> <p> 11. 社会林業の意義</p> <p> 12. 人は環境に「無関心」なのか？</p> <p> 13. 「文化」の落とし穴</p> <p> 14. 「専門家」は何をするべきか？</p> <p> 15. 講義のまとめ</p>				
受講要件	環境と社会の関係性に興味を持ち、講義に真摯な姿勢で臨む心構えがあること。				
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
参考書	『環境の社会学』, 関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求, 有斐閣, 2009, 978-4641123854 『環境の豊かさをもとめて』, 鬼頭秀一 編, 昭和堂, 1999, 978-4812299227 『よくわかる環境社会学』, 鳥越皓之・帯谷博明 編, 2009, ミネルヴァ書房, 978-4623053247 『環境と社会』 西城戸誠・船戸修一 編, 2012, 人文書院, 978-4409001097 『自分で調べる技術』, 宮内泰介, 岩波書店, 978-4007001178 『新版 論文の教室』, 戸田山和久, NHK 出版, 978-4140911945				
予習・復習について	講義中に示された参考書を参照したり、講義内容に基づいて各テーマについて自主的に学習を進めたりすることを推奨する。				

成績評価の方法・基準	講義に対する参加意欲（リアクションペーパーの提出と内容）と最終レポートによって総合的に評価する。評価のウェイトは、おおむね2:8である。また、最終レポートは、講義の内容を通じて学生自らが自主的に学びながら「思考」し、論じているかという点を主に評価のポイントとする。
オフィスアワー	農学部 A 棟 607 号室。出張による不在も多いので、事前に artomit@ipc.shizuoka.ac.jp まで問い合わせること。なお、メールでの問い合わせは、友人への携帯メールとは異なるので、名前等の情報をきちんと書くこと。
担当教員からのメッセージ	環境社会学は、環境と社会の関係性についてのさまざまな領域の知見が用いられます。それらは具体的に環境と社会を見ていくために有効な視点を提示してくれます。この講義では、フィールドにおける各種の課題を見ていくための基礎知識を提示し、習得してもらうことを目的にしています。

授業科目名	森林生態学 (Forest Ecology)				
担当教員名	榎本 正明 (NARAMOTO Masaaki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部A棟 540 (移転後：農学総合棟 281)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	エコシステム、相互関係、環境要因、物質循環、物質生産				
授業の目標	森林の生態系の特徴を他の耕地や草原の生態系と比較しながら、樹木およびその集団としての森林が環境とどのような関係を維持しているかについて理解を深めることを目的とする。生態系の構造と機能について、森林気象学、森林立地学、樹木生理学など様々な学問分野と関連づけて解説する。				
学習内容	森林生態系の物質循環やエネルギー循環を中心として講義する。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）、（D）に対応する。				
授業計画	1) ガイダンス 2) 英語論文の読み方 3) 森林エコシステム 4) 太陽放射、輻射 (1) 5) 太陽放射、輻射 (2) 6) 林冠構造と LAI 7) 炭素循環 — 光合成 8) 炭素循環 — 呼吸 9) 炭素蓄積、吸収源と放出源 10) 窒素循環 11) エネルギーバランス 12) 蒸発散 13) 水循環 14) 生態モデル 15) まとめ				
受講要件	関連科目：樹木・組織学、森林遺伝学、森林立地学、樹木学実習				
テキスト	英語プリントを主に使用				
参考書	Plant Eco-Physiology (Larcher, Springer)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	● 履修態度（10%）、最終レポート・中間テスト・宿題（90%）の結果を総合して評価する。 ● 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。 ● 講義中に口頭で回答させる。				
オフィスアワー	原則的に火曜日、水曜日の午前中をあてる（フィールドに出ていることが多いのでメールでアポイントメントを取ること）				
担当教員からのメッセージ	授業は、英語プリントを主に使用して講義を進める。				

授業科目名	動物生理学 (Animal Physiology)				
担当教員名	与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 206 (移転後：農学総合棟 585)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水5・6
キーワード	動物、器官、組織、細胞、感覚、神経、筋、恒常性				
授業の目標	動物の複雑な生理機能とその仕組みを理解するのが生理学という学問である。授業では、生体における外部刺激の受容と応答の仕組み、内部環境を一定に保つための各器官の働き、そして、それら機能を調節する神経やホルモンの働きなどについて紹介する。動物に備わった生命を維持・継承するための実に巧妙なシステムを理解しよう。				
学習内容	主にヒトの生理を中心に学習するが、動物は進化の過程で、それぞれの生活環境に合わせて独自の生理機能・形態を発達させてきた。このようなユニークな動物の生理機能についても、ヒトと比較しながら紹介する予定である。				
授業計画	1. 生体膜 2. 神経 3. 視覚 4. 嗅覚・フェロモン 5. 味覚 6. 聴覚 7. 体性感覚 8. 筋肉 9. 自律神経系 10. 血液 11. 循環 12. 呼吸 13. 消化・吸収 14. 腎・尿生成 15. 生殖				
受講要件	特になし				
テキスト	講義内容に即したプリントを毎回配布する。特に購入を求めないものの、下記の参考書は授業内容の理解に役立つ。				
参考書	「シンプル生理学第6版」(南江堂) 「生理学テキスト」第4版(文光堂) 「哺乳類と鳥類の生理学」第4版(学窓社) など				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験の成績で評価する。出席が2/3に満たない場合は試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	とくに指定しないが、電話やメールで事前に連絡を。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	高分子材料学 (Polymer Material Science)				
担当教員名	山田 雅章 (YAMADA Masaaki)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 535 (移転後：農学総合棟 329)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水7・8
キーワード	天然高分子、合成高分子、高分子材料、構造、物性、設計				
授業の目標	高分子の歴史、構造・分子の挙動とその物性との関係についてその基礎となる諸事項を講説するとともに、建築材料・生活材料として広く利用されている高分子材料の利用適性への理解を深めることを目的とする。				
学習内容	高分子の歴史、高分子合成、構造とその物性、高分子材料などについて学習する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の(D)に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高分子化合物の基礎 高分子とは 2 高分子化合物の基礎 構造をしているか 3 高分子化合物の基礎 ポリエチレンからダイヤモンドまで 4 高分子化合物の基礎 コポリマー 5 高分子化合物の基礎 高分子を立体的に見る 6 高分子化合物の基礎 立体構造と高分子の性質 7 高分子材料の基礎 高分子の集まった形 8 高分子材料の基礎 高分子材料の強さ 9 高分子材料の基礎 高分子材料を試験する 10 高分子材料の基礎 ゴムの不思議 11 高分子材料の基礎 高分子を熱したり冷やしたりする 12 高分子材料の基礎 流れる高分子 13 高分子材料の基礎 これからの高分子 14 高分子の製品をつくる 高分子化合物をつくる 15 高分子の製品をつくる 高分子を設計する 				
受講要件	木材のクリープや応力緩和、接着剤の物性に大きく関与しており、「木質機能科学」「木材接着学」およびそれらの「実験」の基礎となる。				
テキスト	横田健二著「高分子を学ぼうー高分子材料入門」化学同人、および配布プリント				
参考書	適宜講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回授業の予習及び復習を行って欲しい。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小テスト(30%)・筆記試験結果(70%)を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	水曜日 昼休み または夕方5時以降				
担当教員からのメッセージ	午後の授業であるので集中力を持続させること。				

授業科目名	野菜園芸学 (Vegetable Crop Science)				
担当教員名	糠谷 明 (NUKAYA Akira)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 436 (移転後：農学総合棟 484)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	周年供給、安定生産、品種・学名、発育生理、露地栽培、施設栽培、作型分化、果菜類、葉根菜類、連作障害				
授業の目標	野菜の作型分化を通して、「周年供給」「安定生産」に対する理解を深めることを目標とする。				
学習内容	第2次世界大戦後の日本の野菜栽培は、「周年供給」「安定生産」を目標として栽培技術の発展・普及がなされてきた。本講義では、これらをキーワードとして、野菜生産の現状及び問題点について述べるとともに、果菜類・葉根菜類を中心とした野菜の発育生理・栽培生理を講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 I) 野菜園芸とは II) 野菜の学名について 2 野菜の原産地, 来歴, 生産・消費・流通, 3 野菜の成長と発育 (1) 4 野菜の成長と発育 (2) 5 栽培技術の基本 6 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (1) 7 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (2) 8 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (3) 9 品種利用型野菜の作型と栽培体系 (1) 10 品種利用型野菜の作型と栽培体系 (2) 11 イチゴの作型と栽培体系 (1) 12 イチゴの作型と栽培体系 (2) 13 施設環境と施設栽培 14 環境保全, 省力化などをねらった栽培法 15 連作障害の現状と対策 				
受講要件	植物生産学演習, 園芸生産学を受講しておくことが望ましい。				
テキスト	野菜園芸の基礎(篠原温 編), 農文協				
参考書	「蔬菜園芸学」, 伊東 正他著 (川島書店) 「野菜園芸学」, 金浜耕基編 (文永堂) 「園芸学概論」, 斎藤 隆他著 (文永堂)				
予習・復習について	毎時間最後に小試験を行い、採点して次回に返却するので、それらを参考に復習すること。この章試験は、出席点の算出のベースとなる。				
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験(40%)、レポート(30%)、出席・小試験(30%)により行う。再試験は行わない。				
オフィスアワー	昼休み。できればメール abanuka@agr.shizuoka.ac.jp でアポイントメントを取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	本講義は野菜生産の現状と栽培生理を講義するもので、直接的栽培技術は扱いません。講義方法や内容について意見や質問がある場合は、授業中または授業後に直接意見を寄せてください。				

授業科目名	分子機能化学 (Molecular Functional Chemistry)				
担当教員名	平井 浩文 (HIRAI Hirofumi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 633-1 (移転後：農学総合棟 675)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	バイオリファイナリー、白色腐朽担子菌、リグニン生分解、バイオレメディエーション、二次代謝産物、生合成経路				
授業の目標	第一部では木質バイオリファイナリーに関する基礎的知見を、第二部では二次代謝産物の生合成経路について理解する。				
学習内容	現在の地球環境問題から考えて、木質系バイオマスを利用したバイオリファイナリー技術の確立は急務である。しかしながら様々な問題から未だ確立された技術として認められていない。本講義の第一部では木質バイオリファイナリー技術の必要性から、白色腐朽菌担子菌を用いた木質バイオリファイナリーに関する内容まで講義する。第二部では、様々な生物が産生する二次代謝産物（セルロース、リグニン、テルペノイド、ポリケチド、フラボノイド等）の生合成経路に着目し、その経路を詳細に講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 序章（講義内容、目的等の解説） 2 地球環境問題と木質バイオリファイナリーについて 3 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（1） 4 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（2） 5 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（1） 6 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（2） 7 研究最前線についての紹介 8 中間試験 9 セルロースの生合成経路について 10 シキミ酸経路について 11 リグニン（シキミ酸経路）の生合成経路について 12 メバロン酸経路について 13 非メバロン酸経路について 14 酢酸－マロン酸経路について 15 酢酸－マロン酸－シキミ酸複合経路について 				
受講要件	生化学・有機化学・分子生物学の基礎を理解しておくこと。				
テキスト	講義に必要なファイルを web 公開するので、必要に応じてダウンロードすること。また「意外に知らない、いまさら聞けない バイオ実験超基本 Q&A 改訂版 (ISBN978-4-7581-2015-9)」も使用する。				
参考書	講義中に随時紹介する。				
予習・復習について	予習の必要はなし。ただし毎回小テストを実施するので、復習は十分にやること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、小テスト・中間テスト・学期末試験（90%）の結果より評価する。小テスト・中間テスト・学期末試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。				
オフィスアワー	火曜日 11:00～12:00。なお、質問は随時受け付けますので、まずはメール (ahhirai@ipc.shizuoka.ac.jp) にて連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	本講義は小・中間テストの総得点 70%以上の者は最終試験を免除します。つまり、毎回の復習が重要となりますので、わからないところがある場合はそのままにせず、積極的に質問に来てください。そして、是非好成绩で本講義の単位を取得してください。				

授業科目名	分子細胞生物学 (Molecular Biology of the Cell)				
担当教員名	与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 206 (移転後：農学総合棟 585)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	DNA、タンパク質、転写、翻訳、細胞増殖、細胞分化、がん、老化、幹細胞				
授業の目標	分子生物学とは「分子の言葉で生命を語る」学問である。つまり、複雑な生命現象を、遺伝子やタンパク質といった分子の働きで成り立つシステムとしてとらえ、個々の分子の機能や細胞内局在、分子間・細胞間の相互作用を明らかにすることで、生命の本質を理解することを目的としている。本講義では、生命の最小単位である細胞を中心に、先達たちが明らかにしてきた、生命システムの分子基盤を理解することを目標とする。				
学習内容	細胞にとって基本的な機能である、遺伝情報の発現と細胞増殖を中心にその調節の分子メカニズムについて学習する				
授業計画	<p>イントロダクション</p> <p>1. 遺伝情報発現の制御 転写調節因子 クロマチン構造 選択的スプライシング マイクロ RNA 翻訳レベルでの調節 翻訳後修飾</p> <p>2. 細胞増殖と死、およびその異常 細胞周期・チェックポイント 細胞分裂・染色体分配 アポトーシス がん 老化</p> <p>3. 幹細胞とバイオテクノロジー 幹細胞・ES細胞・iPS細胞 遺伝子改変マウス</p>				
受講要件	2年次までの専門科目（必修）を理解していること。				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学（南江堂）				
参考書	細胞の分子生物学（ニュートンプレス） 遺伝情報の発現制御（メディカル・サイエンス・インターナショナル）				
予習・復習について	テストに向けた単なる暗記に終わってはあまり意味がない。細胞の中で分子一つ一つが見せているはずの動きや反応を頭の中で想像するとともに、そのマイクロレベルの働きが細胞の分化や増殖といったマクロな変化を引き起こしていくストーリーの全体像の把握に努めてほしい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点をもとに評価する。特段の理由なき欠席が3分の1を超えると試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	特に設定しないが事前に連絡を				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	森林・地域景観生態学 (Silvology and Regional Landscape Ecology)				
担当教員名	藤本 征司 (FUJIMOTO Seishi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 113 (移転後：農学総合棟 274)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	景観、風景、出会いの連続、地域、物心二元論批判				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森林に関わる基礎知識の再整理・批判的習得。 2. これまでの森林(自然)を巡るものの見方の可能性と限界の習得。 3. 次世代的な自然(森林)と人間の関係の考え方の伝達・習得。 				
学習内容	森林学の研究対象領域や方法・考え方、その今日的課題などについて、概説する。また、その最も重要な研究領域となる森林景観の考え方やその実際的取り扱い方などについて、基礎知識の提供や、私のこれまでの研究成果の紹介などを通して、論及していく。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)、(D) に対応する。				
授業計画	<p>第一部・理論編</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 森林とは？—「景観（風景）」としての森林 自然と人間、森林とは？ 森林学とは？ 森林諸科学との違い、「景観（風景）」としての森林。 II. 景観論—景観（風景）をどう理解するか？ 様々な景観概念、景観を考えるポイント(物心二元論批判)、廣松渉の知覚風景的現相、「出会いの連続」としての景観など。 III. これからの森林学と森林景観学 これまでの森林学の問題点、これからの森林学、森林景観学の課題と方法の概説など。 <p>第二部・基礎知識編</p> <p>植物(特に樹木)の形態と進化・系統分類、適応戦略理論、多様性理論、生態系の安定性、 群系と森林帯分布、生態系と景観（風景）など。</p> <p>第三部・実践編</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 北方林景観を探る—北海道での森林研究から II. 森林景観の原像を探る—本来の森とは？ 2つの樹形・2つの戦略、森林景観の基本構造など。 III. 上阿多古フィールドでの森林景観の長期モニタリングと景観整備 IV. 森林圏を超えて—オムニスケープ学のすすめ 				
受講要件					
テキスト	なし、プリント配布				
参考書	講義中に紹介する。あえて1冊挙げると、廣松渉「哲学入門一步前」(講談社現代新書)				
予習・復習について	この講義は、その学問的対象領域を地域のランドスケープの総体(オムニスケープ)へと拡大させた「造園学(4年次前期開講)」へと引き継がれていく。				
成績評価の方法・基準	履修態度(30%)とレポート(70%)。履修態度は出席率と授業への積極的参加度合いにより評価。レポートは、講義内容の理解度、授業目標の達成度によって評価する。成績評価は、これらを総合し、「秀」は90%、「優」は80%、「良」は70%、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	月、木の昼休み。				
担当教員からのメッセージ	森林(自然)とは何か？ 我々は森林(自然)と如何に付き合っていくべきか？ そんな基本的な問題に戻って、皆で根底から考え直してみよう！				

授業科目名	酵素科学 (Enzymology)				
担当教員名	村田 健臣 (MURATA Takeomi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 713 (移転後：農学総合棟 673)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	タンパク質、生体触媒、酵素阻害、反応速度論、触媒機構				
授業の目標	酵素は生命活動を支える様々な生体反応を促進する役割を担っている。従って、生命現象を理解するためには、酵素タンパク質の性質や触媒機構についての基礎的な知識が必要である。ここでは、酵素タンパク質の一般的性質や触媒機構の基礎について分子レベルで理解する。				
学習内容	酵素の構造、反応速度論、反応機構などの基礎の習得とともに、分子レベルでみた触媒機構を学ぶ。講義中には、最近の研究での応用技術などの具体例を挙げ、酵素に対する興味を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 酵素科学の概要 2 酵素の構造 3 酵素の分類 4 酵素反応速度論 I 5 酵素反応速度論 II 6 酵素反応の阻害 I 7 酵素反応の阻害 II 8 酵素活性の調節 9 酵素の反応機構の基礎 10 反応機構の触媒様式 11 リゾチームの触媒作用 12 セリンプロテアーゼの触媒作用 13 リボヌクレアーゼの触媒作用 14 補酵素 15 筆記試験 				
受講要件	関連科目：生化学概論、生化学、有機化学概論				
テキスト	ホートン生化学（東京化学同人）				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末筆記試験により評価する。				
オフィスアワー	講義後やメールで連絡いただければ、時間や場所について対応いたします。				
担当教員からのメッセージ	酵素の魅力や不思議を探してください。				

授業科目名	分子生物学 (Molecular Biology)				
担当教員名	加藤 竜也 (KATO Tatsuya)		所属等	農学研究科	
			研究室	共通教育C棟210室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	核酸、遺伝子工学、遺伝子の発現制御、シグナル伝達、変異、バイオテクノロジー				
授業の目標	生命活動を司る核酸と遺伝子の構造と機能、タンパク質の機能や構造およびDNAの複製や転写・翻訳について学ぶ。				
学習内容	授業計画の通り				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 代謝、エネルギーについて 2 酵素反応速度論について 3 アミノ酸、タンパク質の構造について 4 酵素の働き、調節について 5 タンパク質の研究について 6 DNAの構造、染色体について 7 DNAの複製について 8 DNAポリメラーゼおよびテロメアについて 9 DNAの変異および修復について 10 相同性組換え、トランスポゾン、ウイルスについて 11 転写およびRNAについて 12 RNAポリメラーゼについて 13 翻訳機構について1 14 翻訳機構について2 15 抗体について 				
受講要件					
テキスト	Essential 細胞生物学(原書第3版) 監訳：中村桂子・松原謙一				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末試験の結果(50%)とレポート(5回、50%)で評価する。				
オフィスアワー	月-金 農学部生物工学研究室(共通教育C棟211もしくは307)に来てください。(8:30-18:00)				
担当教員からのメッセージ	授業に遅れないで出席すること。				

授業科目名	環境毒性学 (Environmental Toxicology)				
担当教員名	釜谷 保志 (KAMAYA Yasushi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 502 (移転後：農学総合棟 380)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	微量化学物質、環境動態、生態毒性、リスク評価				
授業の目標	環境経由で暴露する化学物質と生物の相互作用について理解を深める。				
学習内容	環境中に放出された物質が環境中でどのような挙動を示し、生物とどのように関わるか、有害影響の可能性を考えるために必要な事項を整理し、生態系への影響評価の現状と課題について学ぶ。				
授業計画	<p>1 はじめに 環境毒性学について</p> <p>2 2. 物質の特性と環境動態 2. 1. 環境媒体と輸送・分布</p> <p>3 2. 物質の特性と環境動態 2. 2. 非生物の変換・分解 1) 酸化反応</p> <p>4 2. 物質の特性と環境動態 2. 2. 非生物の変換・分解 2) 還元・加水分解反応</p> <p>5 2. 物質の特性と環境動態 2. 2. 非生物の変換・分解 3) 光反応</p> <p>6 3. 物質の特性と生体内動態 3. 1. 生体との相互作用 1) 吸収・分布</p> <p>7 3. 物質の特性と生体内動態 3. 1. 生体との相互作用 2) 生物蓄積 小テスト1</p> <p>8 3. 物質の特性と生体内動態 3. 1. 生体との相互作用 3) 代謝・排泄</p> <p>9 3. 物質の特性と生体内動態 3. 2. 生物の変換・分解 1) 微生物</p> <p>10 3. 物質の特性と生体内動態 3. 2. 生物の変換・分解 2) 植物・水生生物</p> <p>11 4. 生態リスク 4. 1. 生態毒性と毒性評価試験</p> <p>12 4. 生態リスク 4. 2. 生態リスク評価</p> <p>13 4. 生態リスク 4. 3. バイオマーカーとバイオモニタリング</p> <p>14 4. 生態リスク 4. 4. 特定物質の毒性とリスク</p> <p>15 5. 環境毒性学の課題 小テスト2</p>				
受講要件	有機化学、生化学、生態学、微生物学などに関連するので、これらの基本事項を理解していることが望ましい。				
テキスト	久野勝治・渡辺 泉編、『環境毒性学』、朝倉書店 (2010)、ISBN978-4-254-40020-5、4410 円				
参考書	必要に応じて、授業で紹介する。				
予習・復習について	予習復習には、テキストや授業で紹介する参考書を利用されたい。				
成績評価の方法・基準	期末試験、小テスト2回の結果から評価する。				
オフィスアワー	特に指定しないので、適宜連絡予約されたい。				
担当教員からのメッセージ	不明な点は直接質問するか、自分で調べて、そのままにはしないこと。				

授業科目名	溪流環境学 (Torrent Control)				
担当教員名	土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部A棟 508 (移転後：農学総合棟 271)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	砂防工学、河川工学、溪流生態砂防学				
授業の目標	一般河川の源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるか、また洪水時に生起するダイナミックな土砂移動対策等に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。				
学習内容	一般河川の上流や溪流を対象に、水と土砂の移動運搬に関する実態と対策について溪流環境の保全といった観点を交え講義する。源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるかについて、流水環境、地形地質環境とともに広範囲に解説する。なお本授業の履修を通して、技術者教育プログラムで設定された次の学習・教育目標の達成を目指す。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）および（D）に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 侵食場の形成 2 森林による土地保全 3 流域の土砂生産 4 溪流の水理学Ⅰ 5 溪流の水理学Ⅱ 6 土砂水理と運搬 7 河床変動のシミュレーション 8 砂防調査と計画 9 砂防えん堤の機能 10 砂防えん堤の設計 11 溪流保全工 12 ダム堆砂量の予測 13 河川環境と利水に関する環境倫理 14 土砂災害（土砂移動現象）と環境倫理 15 溪流堆積土砂量の推定方法 				
受講要件	山地安定学」を履修しておくこと。「砂防学実習」の基礎科目となる。「森林水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。				
テキスト	新砂防工学（朝倉書店）。また、随時プリントを配布する。				
参考書	砂防学概論（鹿島出版会）、山地保全学（文永堂）				
予習・復習について	復習を行い、理解できないあるいは疑問を生じた箇所は、授業後やオフィスアワー時に質問してください。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート・中間テスト・学期末試験（合計90%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@agr.shizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	環境情報学 (Environmental Information Science)				
担当教員名	野上 啓一郎 (NOGAMI Keiichiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 608	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金1・2
キーワード	成長の限界、人口と食糧生産、気候変動、鉱物資源・化石燃料・水資源、環境汚染、生物多様性、廃棄物、イノベーション、個人の生き方、社会システム				
授業の目標	環境問題に関する論理的思考、作文能力、反論能力を鍛える				
学習内容	環境問題に関する論説文を読み、内容を理解する。また、それに対する意見を論理的に書く訓練を行う。				
授業計画	回	内容			
	1	環境問題の提示			
	2	最大の危機が来る時期			
	3	人口と食糧生産			
	4	気候変動			
	5	鉱物資源・化石資源・水資源			
	6	環境汚染			
	7	生物多様性の喪失			
	8	イノベーション			
	9	個人の生き方・企業			
	10	社会システムの成功例			
	11	社会システムの失敗例			
	12	環境問題事例集 (I)			
	13	環境問題事例集 (II)			
	14	環境問題事例集 (III)			
	15	わたしたちはどうすればいいのか?			
受講要件	特記事項なし				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜紹介する				
予習・復習について	予習に重点をおく				
成績評価の方法・基準	質疑応答 (25%)、レポート (35%)、試験 (40%)				
オフィスアワー	原則、事前にメール連絡すること (afknoga@icloud.com)				
担当教員からのメッセージ	努力が一番				

授業科目名	樹木成分化学 (Chemistry of Wood Components)				
担当教員名	河合 真吾 (KAWAI Shingo)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部総合棟 325	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、化学構造、化学的特性				
授業の目標	再生可能な樹木資源は、紙パルプ原料、化学工業原料、医薬原料、建築材料および燃料などに利用されている。本授業では、樹木成分の化学組成などを理解し、主体的関心を持つことを目標とする。				
学習内容	木質系資源の主成分であるセルロース、ヘミセルロース、リグニンおよび副成分である抽出成分の化学構造や特性を講述する。また、それら成分の機器分析を用いた化学構造解析法についても学習する。 なお本科目は、技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木質成分の化学組成-含有量とその分布 2. リグニンの構造と構成単位 3. リグニンの化学構造の解析 4. リグニンの結合様式とサブストラクチャー 5. リグニンの単離法と利用 6. 木質成分の化学構造解析法 7. 紫外分光法と赤外分光法 8. 核磁気共鳴分光法 1 9. 核磁気共鳴分光法 2 10. 電磁波スペクトルを用いた構造解析 11. セルロースの化学構造 12. セルロース誘導体とその利用 13. ヘミセルロースの化学とその利用 14. 抽出成分の化学構造（スチルベノイド、フラボノイド、リグナン） 15. 抽出成分の化学構造（ジアリールヘプタノイド、タンニン、イソプレノイド） 16. 筆記試験 				
受講要件	2年生前学期の「樹木生化学」、3年生前期「木質利用化学」と関連する。				
テキスト	必要な資料を印刷して配布する。				
参考書	日本木材学会編：木質の化学（文永堂） 福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待-（海青社）				
予習・復習について	配布資料にかかっている内容をよく理解すること。「樹木生化学」の配付資料も参照。				
成績評価の方法・基準	履修態度（25%）と筆記試験（75%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	質問等は、農学部A棟527室で随時受け付ける。メールでも可。				
担当教員からのメッセージ	樹木成分の化学構造を知ることは、木質系バイオマスを有効に利用する上で非常に重要です。興味を持って授業に望んでください。オフィスアワーを積極的に利用してください。				

授業科目名	生物有機化学 2 (Bioorganic Chemistry 2)				
担当教員名	轟 泰司 (TODOROKI Yasushi)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 702 (移転後：農学総合棟 682)	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	有機化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジー				
授業の目標	有機化学概論と生物有機化学 1 を引き継いで、有機化学の基礎を講義する。生物が示す様々な現象を真に分子のレベルで議論し理解するのに必要な知識と考え方を習得する。				
学習内容	有機化学の基礎知識と考え方に重点を置いて、これらを逐一確認しながら、共役系・芳香族・カルボニル化合物についての性質と反応、および生物現象との関わりについて学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、有機化学の基礎的な知識・考え方を復習① 2. 有機化学の基礎的な知識・考え方を復習② 3. 芳香族性・ベンゼンの反応 1 4. 芳香族性・ベンゼンの反応 2 5. 芳香族性・ベンゼンの反応 3 6. 芳香族性・ベンゼンの反応 4 7. 置換ベンゼンの反応 8. カルボニル化合物 I：求核アシル置換反応 1 9. カルボニル化合物 I：求核アシル置換反応 2 10. カルボニル化合物 I：求核アシル置換反応 3 11. カルボニル化合物 II：アルデヒドとケトンの反応 1 12. カルボニル化合物 II：アルデヒドとケトンの反応 2 13. カルボニル化合物 III：α 炭素上での反応 1 14. カルボニル化合物 III：α 炭素上での反応 2 15. 生体有機化合物 16. 期末試験 <p>*毎回、具体例を挙げて、生物現象を有機化学的視点から解説します。</p>				
受講要件	関連科目：1年生の化学概論 A と B, 1年生後期の有機化学概論, 2年生前期の生物有機化学 1				
テキスト	ブルース有機化学 第5版 下 (化学同人), ブルース有機化学問題の解き方 第5版 (化学同人)				
参考書	生物有機化学がわかる講義 (清田洋正著, 講談社)				
予習・復習について	予習は必要ありません。復習を重視してください。講義後にノート・教科書を参照して、もう一度じっくり考え、自分の手を動かして反応機構を書いてください。「書きながら、じっくり考える」ことが何よりも重要です。				
成績評価の方法・基準	小テスト (30%), 期末試験 (70%) の総合点で成績評価を行います。詳細については、初回講義時に説明します。				
オフィスアワー	金曜日の午後, 農学部 A 棟 702 室まで。質問に来る場合は、事前にメール等でご連絡ください。				
担当教員からのメッセージ	頭を悩ませて下さい。				

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)				
担当教員名	大野 始 (OHNO Hajime)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 342 (移転後：農学総合棟 482)	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン				
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。				
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。				
授業計画	第 1 回 植物生理学について 第 2 回～第 4 回 光合成 第 5 回～第 6 回 呼吸 第 7 回～第 15 回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第 16 回 定期試験				
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。				
参考書	「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）				
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかりと行い、疑問点は遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	小テスト（30%）、定期試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	応用測量学 (Applied Surveying)				
担当教員名	逢坂 興宏 (OHSAKA Okihiro)		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 507 (移転後：農学総合棟 272)	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	平板測量、スタジア測量、三角測量、光波測量、GPS測量、空中写真測量、地形図				
授業の目標	前期に引き続き、各種測量技術の原理を理解し、応用測量技術の知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の(D)に対応する。				
学習内容	各種の平板測量とスタジア測量、セオドライト・トータルステーションによる三角測量、電磁波を利用した光波測量、衛星を利用したGPS、航空写真測量の原理と立体視、並びに数値地形モデルについて、応用技術を中心に講義する。 「測量学」の応用編である。				
授業計画	主として下記の項目について、講義・解説し、問題演習を行う。 1. 平板測量 1) 測量機材、2) 放射法、3) 導線法、4) 交会法 2. スタジア測量 1) アリダードによるスタジア測量 3. 三角測量 1) 原理、2) 内角の測定と誤差調整、3) 面積計算 4. 電磁波を利用した測量 1) 光波測量、2) 衛星による測量(GPS) 5. 空中写真測量 1) 原理、2) 実体視、3) 標定 6. 面積測量、体積測量 1) 面積測量、2) 体積測量 7. 地図の仕組みと利用法 1) 地図の仕組み、2) 地形図の利用				
受講要件	あらかじめ「測量学」の講義を履修しておく必要がある。「応用測量学実習」と続けて受講することが望ましい。集大成としての「森林測量学実習」の基礎となる。				
テキスト	測量学, 大木正喜著, 森北出版 また, 随時プリントを配布する。定規, 電卓を持参してください。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	実習の進行とあわせ、教科書を中心に予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	全ての課題レポートを提出することを単位認定条件とする。 履修態度(20%)、課題レポート・学期末試験(80%)の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	測量は土木・建築分野だけでなく、広く環境分野に利用されている技術です。 この機会に測量技術と地形図に関心を持ちましょう。				

授業科目名	応用昆虫学 (Applied Entomology)				
担当教員名	西東 力 (SAITO Tsutomu)	所属等	農学研究科		
		研究室	農学部 A 棟 332 (移転後：農学総合棟 474)		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	農業害虫、生態、防除				
授業の目標	農業害虫を取り巻く情勢は社会情勢や国際化と密接に関連しており、刻々と変化しています。こうした実情を理解してもらうことを目標とします。				
学習内容	農業情勢と関連させながら、主要害虫の特徴を詳しく紹介します。講義を通して害虫防除のあり方を考えてもらいます。				
授業計画	回	内容			
	1	授業ガイダンス、人と昆虫の関係			
	2	昆虫の特徴			
	3	農業害虫と社会情勢（1）			
	4	農業害虫と社会情勢（2）			
	5	イネの害虫			
	6	野菜の害虫（1）			
	7	野菜の害虫（2）			
	8	花卉の害虫			
	9	果樹の害虫、茶の害虫			
	10	化学的防除法			
	11	生物的防除法（1）			
	12	生物的防除法（2）			
	13	物理的防除法、耕種的防除法			
	14	総合的害虫管理			
	15	総合的害虫管理			
受講要件	1年後期の「一般昆虫学」を受講してください。				
テキスト	「最新応用昆虫学」（朝倉書店）				
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店） 「天敵」（養賢堂）				
予習・復習について	テキスト、参考書に目を通し、授業の概要を把握しておいてください。				
成績評価の方法・基準	筆記試験により評価します。				
オフィスアワー	研究室に直接または電話				
担当教員からのメッセージ	人と害虫の戦いは農耕の開始とともに始まりました。人が新しい防除法を開発しても、害虫は対抗手段で応じてきます。害虫との戦いは続いています。				

授業科目名	基礎無機化学 (Basic Inorganic Chemistry)				
担当教員名	平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka)		所属等	工学研究科	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	C	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	電子、原子と原子軌道、結合、分子軌道、周期表、結晶構造、ボルン-ハーバーサイクル、非金属元素、典型金属、生物無機化学				
授業の目標	<p>専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガーの波動方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。 6 元素の周期的な性質について、材料科学への応用や生命科学との関連という視点大切にしながら理解を深める。 7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。 8 生物無機化学の入門的内容を学ぶ。 				
学習内容	無機物質の多くは、電子部品や建築材をはじめとした様々な材料、さらに燃料等として基本的かつ重要であるだけでなく、生命にとっても欠くことができない。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。				
授業計画	<p>授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学 I の簡単な復習）、元素の英語名 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガーの波動方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則） 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン-ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核荷電・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法その 1（分子軌道法の基礎、水素分子） 10 共有結合と分子軌道法その 2（第 2 周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子） 11 非金属元素の化学その 1（水素・水素化物・第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物） 12 非金属元素の化学その 2（第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 13 非金属元素の化学その 3（オキソ酸・ハロゲン） 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） 15 生物無機化学入門 16 期末試験 				
受講要件	高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学 I と重複するので復習をしておくこと。				
テキスト	教科書：「無機化学」(化学入門コース 3) 斎藤太郎著(岩波書店)				
参考書	参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人) / 「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人) / 「無機化学演習」合原他共著(三共出版) / 「化学の基礎」(化学入門コース 1) 竹内敬人著(岩波書店) / 「物理化学」(化学入門コース 2) 関一彦著				

	(岩波書店) / 「無機化学—その現代的アプローチ」平尾一之他著(東京化学同人) いずれも図書館に複数冊所蔵している。
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習がそれぞれ必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。
成績評価の方法・基準	専門の無機化学に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。評価の配分は、試験 80% (中間試験 40%、期末試験 40%)、演習・レポート 20% である。ただし、評価の内容は、80% が授業内容の理解、20% が理解した内容を応用する力である。学習度が 60% を満たしている場合を合格とする。
オフィスアワー	初回授業で説明する。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそのように考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学 I、同 II、特に I と内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2 年前期以降の専門科目と関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	基礎無機化学 (Basic Inorganic Chemistry)				
担当教員名	平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka)		所属等	工学研究科	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	D	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	月3・4
キーワード	電子、原子と原子軌道、結合、分子軌道、周期表、結晶構造、ボルン-ハーバーサイクル、非金属元素、典型金属、生物無機化学				
授業の目標	<p>専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガーの波動方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。 6 元素の周期的な性質について、材料科学への応用や生命科学との関連という視点大切にしながら理解を深める。 7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。 8 生物無機化学の入門的内容を学ぶ。 				
学習内容	無機物質の多くは、電子部品や建築材をはじめとした様々な材料、さらに燃料等として基本的かつ重要であるだけでなく、生命にとっても欠くことができない。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。				
授業計画	<p>授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学 I の簡単な復習）、元素の英語名 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガーの波動方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則） 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン-ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核荷電・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法その 1（分子軌道法の基礎、水素分子） 10 共有結合と分子軌道法その 2（第 2 周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子） 11 非金属元素の化学その 1（水素・水素化物・第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物） 12 非金属元素の化学その 2（第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 13 非金属元素の化学その 3（オキソ酸・ハロゲン） 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） 15 生物無機化学入門 16 期末試験 				
受講要件	高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学 I と重複するので復習しておくこと。				
テキスト	教科書：「無機化学」(化学入門コース 3) 斎藤太郎著(岩波書店)				
参考書	参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人) / 「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人) / 「無機化学演習」合原他共著(三共出版) / 「化学の基礎」(化学入門コース 1) 竹内敬人著(岩波書店) / 「物理化学」(化学入門コース 2) 関一彦著				

	(岩波書店) / 「無機化学—その現代的アプローチ」平尾一之他著(東京化学同人) いずれも図書館に複数冊所蔵している。
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習がそれぞれ必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。
成績評価の方法・基準	専門の無機化学に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。評価の配分は、試験 80% (中間試験 40%、期末試験 40%)、演習・レポート 20% である。ただし、評価の内容は、80% が授業内容の理解、20% が理解した内容を応用する力である。学習度が 60% を満たしている場合を合格とする。
オフィスアワー	初回授業で説明する。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそのように考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学 I、同 II、特に I と内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2 年前期以降の専門科目と関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)				
担当教員名	田村 敏広 (TAMURA Toshihiro)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J2715	
分担教員名					
クラス	情工3	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	ことば、コミュニケーション、ことばと社会・文化、レトリック、語り、絵本				
授業の目標	私たちの日常の「ことば」を分析し、ことばの仕組みや効果、社会・文化との関わりなどを考察することで、「ことば」を意識的に捉える力（メタ言語意識）を養うことを目標とします。				
学習内容	「ことば」は私たちの日常でどのような役割を果たしているのでしょうか？ 日常の「ことば」を様々な観点から科学的に考察します。文における表現分析・文体分析から、「語り」や「会話」などの言語コミュニケーション分析まで「ことば」を幅広く考え、私たちの「ことば」の仕組みや規則を考えます。また、「ことば」が社会・文化のなかでどのような役割を果たしているのかも考えます。				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回～第6回「レトリック」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 喩え（村上春樹作品を例に） ・ オノマトペ ・ トートロジー ・ ぼかし言葉・アイロニー・皮肉 など <p>ここではレトリック表現に焦点を当て、それが私たちの日常の言語活動の中でどのような役割を果たしているのかを考えます。</p> <p>第7回～第11回「語り（ストーリーテリング）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本の文体のスタイルシフト ・ 語りにおける聞き手の役割 など <p>昨日の出来事を友達に話したり、就職活動で面接官に自己PRをしたり、私たちは様々な場面において「語り」ます。ここでは絵本の「語り」や日常会話で生じる「語り」に注目し、その仕組みや本質を探ります。</p> <p>第12回～第15回「会話・言語コミュニケーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話のしくみ ・ あいづち など <p>日常の会話はどのように成り立っているのでしょうか？ここでは、私たちの無意識の会話に隠された秘密を探ります。</p> <p>*講義内容は予定です</p>				
受講要件	「ことば」に興味のある学生を歓迎します				
テキスト	必要に応じてプリントを配布				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	コメントカード（毎回提出）30%、期末レポート 70%				
オフィスアワー	空いている時間であればいつでも対応します				
担当教員からのメッセージ	私たち自身が普段話す「ことば」を客観的にみる良い機会になると思います。是非、一緒に色々と考えながら講義を聴いてみてください。				

授業科目名	日本国憲法 (The Japanese Constitution)				
担当教員名	岡田 安功 (OKADA Yasunori)		所属等	情報研究科	
			研究室	J-2725	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	基本的人権、権力分立、国民主権、民主主義、平和主義、言論の自由、精神的自由権、経済自由権、二重の基準論、地方自治				
授業の目標	日本国憲法の基本的な仕組みを理解すること。そして、法的な思考力を身につけること。この二つを目標にします。				
学習内容	日本国憲法を構成する基本的人権と権力分立について学びます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 憲法を読む前に—憲法の基礎知識 & 日本国憲法とは—その歴史と構成 2 国民主権と象徴天皇制 3 平和主義 4 基本的人権の尊重—基本的人権 I 5 法の下での平等—基本的人権 II 6 精神的自由—基本的人権 III 7 経済的自由—基本的人権 IV 8 人身の自由—基本的人権 V 9 社会権—基本的人権 VI 10 参政権・国務請求権—基本的人権 VII 11 国会—統治機構 I 12 内閣—統治機構 II 13 裁判所—統治機構 III 14 地方自治—統治機構 IV 15 憲法改正 				
受講要件	特にありません				
テキスト	毛利 透『グラフィック憲法入門』(新世社、2014)				
参考書	図書館にある憲法の本から気に入ったものを選んでください。				
予習・復習について	予習しなくても理解できる授業ですが、復習しないとすぐに忘れます。法的思考力は授業に出ないと身につかないので、授業を休んで教科書を1人で読んでも、試験には対応できません。				
成績評価の方法・基準	法的思考力を試します。成績は法的思考の深さに応じて評価します。知識だけでは単位が取れません。したがって、試験の範囲は授業で私が話した内容のすべてです。応用力を試すので、社会の動向や人間と社会の関係について、新聞やニュースを使って考える習慣をもってください。法的思考を理解するには教科書を読むだけでは分からないので、教師の思考パターンを盗むようにしてください。				
オフィスアワー	シラバス作成時には専門科目と大学院の時間割が未定なので、Office Hour を指定できません。メールで連絡していただければ、いつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	大学は高校までと違って「ものの考え方」を教育します。これは授業に出ないと、なかなか習得できません。考え方を独学で学ぶには授業に出た場合の10倍の努力でも足りないほどの努力が必要です。知識が正確でも、観点のずれた答案は全く点になりません。専門とは異なる分野の「ものの考え方」を身につけることで、専門分野における「ものの考え方」を強化することができます。教養の足りない人間に専門分野の応用力は期待できません。				

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	笹原 恵 (SASAHARA Megumi)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2825	
分担教員名					
クラス	情工4	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4
キーワード	家族、人権、結婚、夫婦、親子、血縁、シングル、恋愛、性、ジェンダー				
授業の目標	現在の家族にまつわるさまざまなトピックをとりあげながら、社会的な思考、社会科学な視点から家族と社会を考える				
学習内容	家族とは何か、シングル論、恋愛、夫婦、親子の問題など、現代の家族が直面する諸問題を考えることを通して、現代家族とそれをとりまく現代社会について考える				
授業計画	1 ガイダンス～「家族を考える」とは？ 2・3 「家族」って何だろう 4・5 恋愛～いろいろな恋愛 *恋愛と結婚 *多様な性概念（セックス・セクシュアリティ・ジェンダー） 6 シングル論～どうして結婚しなくちゃいけないの？ *非婚化と晩婚化、 *パラサイト・シングル 7・8 結婚 *結婚とは？ 人は結婚に何を求めるのか *事実婚と法律婚 *「夫婦別姓」を考える～姓を変えるとは？ 9 夫婦関係 *夫婦関係の変化 *結婚の自由・離婚の自由 10・11 親子関係 *親の離婚と子ども *いろいろな親子関係 *子どもの人権 *子どもの虐待 12・13 *生殖技術の変化と代理出産 14 *高齢期の親と子ども 15 まとめ～家族と人権 *家族における男女平等				
受講要件	現代社会のことを深く考えたい人。家族の問題を考えてみたい人。				
テキスト	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配付する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
予習・復習について	予習は特に求めないが、復習については、講義中の出席レポート、中間レポート（冬休みレポート）、最終レポートという形で提出を求める。				
成績評価の方法・基準	① 出席重視、講義をきいて「考える」ことを重視→講義の中で出席レポートを課す（60%） ②中間レポート（冬休みレポート）、最終レポート（それぞれ20%） *レポートの評価は、きちんとテーマをとらえて、調べ、自分自身で考え、自分の言葉で書いていること。自分で考えていること。				
オフィスアワー	授業中に連絡します				
担当教員からのメッセージ	現代の家族問題を考えることを通して、自身の価値観・考え方を相対化できるような講義になれば…と思っています。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅱ (Basic French Ⅱ)				
担当教員名	田中 終子		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火5・6
キーワード					
授業の目標	フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するとき、すぐ使えるフランス語を身に付けることを目的とします。				
学習内容	教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。フランスの文化や社会についてもお話しします。				
授業計画	1 前期の復習 2 Leçon 10 クラブ活動について話す 3 Leçon 11 習慣について話す 4 Leçon 12 週末の過ごし方について話す 5 Leçon 13 時間について話す 6 Leçon 14 休暇について話す 1 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 14 休暇中の行動について話す 2 10 Leçon 15 経験について話す 11 Leçon 16 地理について話す 12 Leçon 17 天候について話す 13 Leçon 18 過去について話す 1 14 Leçon 18 過去について話す 2 15 復習				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuisse など著、アルマ出版、2625円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト30%、期末試験40%				
オフィスアワー	後期 火曜7・8限 J2707 研究室（情報学部2号館7階）				
担当教員からのメッセージ	フランス語を学ぶことで、いままで意味のわからなかったカタカナのフランス料理が、名前を見るだけでイメージできるようになったのではないのでしょうか？フランス人とフランス語で会話できましたか？後期もフランス語をたくさん書いたり話しながら楽しく勉強しましょう。				

授業科目名	心理学 (Psychology)				
担当教員名	高橋 晃 (TAKAHASHI Akira)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2523	
分担教員名					
クラス	情工6	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	感覚・知覚、記憶、学習、心理テスト、人工知能、脳				
授業の目標	人間の“こころ”をさまざまな側面からとらえ、その多様な情報処理特性を把握すること。 一見当たり前に見える「常識」を学問で覆す。				
学習内容	“こころ”を扱う古典的な心理学のテーマに、脳や人工知能などの認知科学的トピックを絡ませて学習する				
授業計画	授業計画 導入		講義の概要、レポートの書き方		
	感覚・知覚 記憶 学習 問題解決とエラー 心をはかる 脳と言葉 人工知能と心	「見る」という行為の本当の意味 「覚える・思い出す」ことの人間の性質 人間が何かを学ぶ原理 心の中にある過ちとその意味 各種の心理テストについて 脳の構造とその機能 人間のこころと機械のこころ			
	まとめ		全体の復習と実験の説明		
	これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる				
受講要件	特になし				
テキスト	全体は特に指定しない。各トピックで参考図書を示す場合がある。				
参考書	テーマごとに参考文献を示す				
予習・復習について	各単元の内容が終了した後に、一週間の期限でその講義内容を簡単にまとめたレポートを課す。				
成績評価の方法・基準	毎回の課題付きの出席とテーマごとに課される課題レポートの成績で決定する。課題レポートは、主として講義内容のまとめであるが、それに関連した課題が加わることもある。また実際の心理学実験への参加も必須ポイントとみなす。				
オフィスアワー	金曜日 3・4限				
担当教員からのメッセージ	脳や心に興味のある学生の受講を希望します。遅刻は厳禁です。				

授業科目名	法と社会 (Law and Society)				
担当教員名	原田 伸一郎 (HARATA Shinichiro)		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4
キーワード	法、法的思考、対抗、批判、現代社会、本				
授業の目標	この講義は、主として戦後から近年に至るまでの日本の法学名著を素材にして、法的なもの考え方、法的な議論の構図を学ぶことをねらいとしています。到達目標は、(1) 法学の基礎知識を身につけること（ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること）、(2) 法学の基本的思考法を理解すること（他の学問との思考法の違いをも理解すること）、(3) 法学のおおよその分野の「土地勘」を得ることです。				
学習内容	下記の予定で、1回の授業につき1冊を選んで、それを素材にして授業を行います。それぞれの著者が何を問題としているのか、議論の争点がどこにあるのか、思考のエッセンスをつかむことを重視しています。そうした問題意識・議論を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。斬新なトピックや発想のヒントも豊富に提供します。この講義は、必ずしも体系的・網羅的に法学を講じるものではありませんが、全体を通して受講することで、法と社会の関わりにつき、自分なりの見取図を描くことができるようになるでしょう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 法社会学(1)／末弘巖太郎 『嘘の効用』 (『役人学三則』岩波書店、岩波現代文庫、2000) 3 法社会学(2)／川島武宜 『日本人の法意識』 (岩波書店、岩波新書、1967) 4 憲法(1)／長谷部恭男 『憲法とは何か』 (岩波書店、岩波新書、2006) 5 憲法(2)／樋口陽一 『人権(一語の辞典)』 (三省堂、1996) 6 憲法(3)／森田明 『未成年者保護法と現代社会』 (有斐閣、1999) 7 民法(1)／星野英一 『民法のすすめ』 (岩波書店、岩波新書、1998) 8 民法(2)／内田貴 『契約の時代』 (岩波書店、2000) 9 民法(3)／加藤雅信 『「所有権」の誕生』 (三省堂、2001) 10 刑法(1)／団藤重光 『死刑廃止論』 (有斐閣、第6版、2000) 11 刑法(2)／諸澤英道 『被害者学入門』 (成文堂、新版、1998) 12 国際法／小寺彰・道垣内正人編 『国際社会とソフトロー』 (有斐閣、2008) 13 法哲学(1)／山田卓生 『私事と自己決定』 (日本評論社、1987) 14 法哲学(2)／森村進 『自由はどこまで可能か』 (講談社、講談社現代新書、2001) 15 法史学／村上淳一 『〈法〉の歴史』 (東京大学出版会、1997) 				
受講要件	特にありません				
テキスト	特に指定はありません				
参考書	法学および関連分野のブックガイドにもなるよう、毎回の授業で取り上げる文献のほかにも、参考文献を授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	授業で取り上げる文献を毎回事前に読んでおく必要はありませんが、手に取りやすい新書も含まれていますので、特に興味を持ったものについては、自ら読むことを勧めます。				
成績評価の方法・基準	平常点 40%、レポート 60%とし、試験は行いません。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーにより評価します。レポートは、法学関連の文献を1点読んで論評・考察を行うブック・レポート形式です。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	自分の専門外であっても、「本」を読むことなら苦にならない受講者、あるいは社会科学系の本を1冊でもきちんと読んでみたいという受講者の参加を特に歓迎しています。				

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)				
担当教員名	中澤 高師 (NAKAZAWA Takashi)		所属等	情報学研究科	
			研究室	J2725	
分担教員名					
クラス	情工 5	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	迷惑施設、環境的公正、民主主義、地域社会、グローバル化、廃棄物、原子力発電所、米軍基地、社会福祉施設、風力発電				
授業の目標	迷惑施設という具体的な問題を通じて、現代社会を理解し考える力を養うこと。				
学習内容	迷惑施設とは、社会的に「必要」とされているが、その周辺環境に及ぼす影響から、地域住民に忌避される施設のことである。廃棄物処理施設、火葬場、刑務所、ダム、飛行場、基地、社会福祉施設、原子力発電所、あるいは風力発電等の自然エネルギー関連施設まで、その立地は地域社会との摩擦を生み、ときに反対運動が展開される。この問題はNIMBY (Not-In-My-Back-Yard) と呼ばれ、全体利益を損なう個別利益の噴出、あるいは「地域エゴ」と揶揄されることもある。しかし、こうした見方は妥当なのだろうか？ 講義では、「環境的公正」「民主主義」「地域社会」「グローバル化」を切り口に、迷惑施設立地問題を考えるための視角を示すとともに、それを通じて現代社会への理解を深めていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 (1) 迷惑施設問題とは何か？ (ガイダンス) 2 序論 (2) 住民の反対はエゴなのか？ 「全体利益 vs 個別利益」の構図を超えて 3 序論 (3) どうすれば解決できるのか？ 権力・補償・科学・くじ・分担・熟議・多数決・政策 4 迷惑施設と「公正」 (1) 「公正」の諸類型 5 迷惑施設と「公正」 (2) 環境的正義をめぐる 6 迷惑施設と「公正」 (3) 東京ゴミ戦争と区内処理原則 7 迷惑施設と「公正」 (4) 原発と受益圏・受苦圏 8 迷惑施設と民主主義 (1) 専門家と市民 9 迷惑施設と民主主義 (2) 地域の自己決定と住民投票 10 迷惑施設と民主主義 (3) 放射性廃棄物と熟議民主主義 11 迷惑施設と民主主義 (4) 差別・偏見と社会福祉施設コンフリクト 12 迷惑施設と地域社会 (1) 地域開発と六ヶ所村 13 迷惑施設と地域社会 (2) すれ違う「地元」と「よそ者」 14 迷惑施設とグローバル化 (1) 風力発電と地域環境 15 迷惑施設とグローバル化 (2) 国境を超える電子ゴミ 				
受講要件					
テキスト	特に使用しない				
参考書	講義中に適宜指示する。				
予習・復習について	特に必要ないが、期末レポートの作成に向けて各自調査・学習を進めることが求められる。				
成績評価の方法・基準	出席と期末レポートによる。				
オフィスアワー	特に日時は指定しません。個別に応じるので連絡をください。 t.nakazawa@inf.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	迷惑施設という具体的な問題から、現代社会の様々な側面を考えてもらいたいです。講義中に考えや意見を聞くことがあると思いますので、積極的な参加をよろしくお願ひします。				

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers II)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	工学研究科	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	M (クラス I)	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。				
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。				
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ(8回目)を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファンツホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田真吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ1「化学の基礎」、竹内敬人著、同2「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学ー基本の考え方を中心にー、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験70%、演習・宿題30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員(植田、梅本、平川、宮林)が対応する。				

担当教員からの
メッセージ

大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers II)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	工学研究科	
			研究室	6-504	
分担教員名					
クラス	D	学期	後学期	必修選択区分	必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	木3・4
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。				
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。				
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ(8回目)を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー (1) 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー (2) エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性 (1) 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性 (2) エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡 (1) 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡 (2) 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化 (1) 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化 (2) 相転移、相図 10 溶液の性質 (1) 溶媒と溶質 11 溶液の性質 (2) 理想溶液、ファンツホッフの式 12 溶液内の化学反応 (1) 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応 (2) 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度 (1) 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度 (2) 反応速度の温度依存				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田真吉 共著(培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ1「化学の基礎」、竹内敬人著、同2「物理化学」、関一彦著(岩波書店)シリーズ1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ2 ISBN4-00-007982-4; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著(化学同人) ISBN4-7598-1020-X; 化学ー基本の考え方を中心にー、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳(東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験70%、演習・宿題30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員(植田、梅本、平川、宮林)が対応する。				

担当教員からの メッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。
------------------	---

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力 (Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名	奥野 健二、矢永 誠人、熊野 善介、鈴木 誠之、原田 賢治、郡司 賀透				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。また、中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 原子力災害からの復興 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 浜岡原子力発電所と安全対策 11. 目で見える放射線とその防護（1） 12. 目で見える放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）（受講生には無償で配布します。）				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポート、発表および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	化学物質と人間 (Chemicals and Human Being)				
担当教員名	田中 康隆 (TANAKA Yasutaka)		所属等	工学研究科	
			研究室	C311	
分担教員名	立元 雄治、昆野 昭則、佐古 猛、松田 智(新)、前田 康久、奥谷 昌之				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金3・4
キーワード	人間生活、肥料、太陽電池、公害、地球環境、医療、分解、リサイクル、エネルギー、エコマテリアル				
授業の目標	人間は自然界に存在する様々な化学物質と関わり、長い歴史の中で自らの生命を守り暮らしを豊かにする化学物質を作り出す方法・技術を発展させてきた。化学物質がどのようにして有効に利用され、一方で、どのような場合に問題を引起こすのか、さらにはその問題を解決するための技術および今後の展望について考え、理解を深める。				
学習内容	化学物質と人間との関わりを軸に、化学の様々な視点からの講義を通じて基礎から環境・エネルギー等、人類の抱える諸問題に至るまでの幅広い内容を学習する。また化学しくみや功罪を学びながら「医療と化学」、「光と化学」、「地球環境と化学物質」を中心に学習する。				
授業計画	<p>1 回目, 10/3(金) 授業内容紹介とクラス分け。田中康隆担当</p> <p>2 回目, 10/10(金) エネルギー有効利用のための、エネルギー消費の評価。田中康隆担当</p> <p>3 回目, 10/17(金) エネルギー有効利用のための、エネルギーを貯めるシステムについて。田中康隆担当</p> <p>4 回目, 10/24(金) 化学物質の生産と処理技術(1)。立元雄治担当</p> <p>5 回目, 10/31(金) 化学物質の生産と処理技術(2)。立元雄治担当</p> <p>6 回目, 11/14(金) 毒と薬、人工と天然、材料とゴミといったキーワードから化学物質の二面性について考える。昆野昭則担当</p> <p>7 回目, 11/21(金) グリーンケミストリー(環境に配慮した化学合成およびプロセス)について紹介する。昆野昭則担当</p> <p>8 回目, 11/28(金) 超臨界~亜臨界水の特異な性質と、その水を用いる難分解性有害物質(PCB、ダイオキシン等)の分解技術の概要について説明する。佐古猛担当</p> <p>9 回目, 12/5(金) 化学工業の展開:ルブラン法開発以降、石炭化学から石油化学工業まで。松田智担当</p> <p>10 回目, 12/12(金) エネルギーを求めて:動力源の発展史を化学物質の側面から見直す。松田智担当</p> <p>11 回目, 12/19(金) 物質とエントロピー(1):エントロピーとは何か、熱エントロピーと物質エントロピー、環境とエントロピー。前田康久担当</p> <p>12 回目, 1/9(金) 物質とエントロピー(2):統計力学的エントロピー、第3法則と絶対エントロピー、エントロピーと量子論。前田康久担当</p> <p>13 回目, 1/16(金) エネルギー材料1:新エネルギー源としての期待の高い太陽光発電について、その開発動向について解説する。奥谷昌之担当</p> <p>14 回目, 1/23(金) エネルギー材料2:リニアモーターカーに代表される超伝導材料について、実用化と課題について解説する。奥谷昌之担当</p> <p>15 回目, 1/30(金) ディスカッション。担当教員全員担当。 担当教員の順番が入れ替わる事があります。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	「まんが化学に強くなる」(講談社:BlueBacks シリーズ),「化学のしくみ」(ナツメ社)等であるが、特に購入の必要はない。				
予習・復習について	特に予習復習は必要ないが、日頃から化学物質・環境・エネルギー問題等への関心をもって、授業に臨んでもらいたい。				
成績評価の方法・基準	出席状況およびレポートにより評価する。8割以上の出席で評価の対象とする。受講態度が悪い場合は、評価の対象としない。				
オフィスアワー	質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知下さい。				
担当教員からのメッセージ	電子物質科学科および化学バイオ工学科の教員が「化学」に関するエネルギー、環境、人間生活と化学の関わり等、ホットな話題を平易に解説する。オムニバス形式の講義で、内				

容に一部重複もあるが、同じ事柄でも話し手（教員）ごとに異なる見解があることも含めて化学物質と人間のかかわりについて考えてもらいたい。特に福島原子力事故以来、化学、環境、エネルギーの関係が注目を集めている。なお、教員によっては講義資料を置いたホームページを紹介する場合がある。必要に応じてダウンロードしてください。授業中は、それら資料は指示が無い限り必要ないので、パソコンの起動は禁止します。

授業科目名	医学と人間 (Medical Science for Humans)				
担当教員名	山本 裕之 (YAMAMOTO Hiroyuki)		所属等	保健センター	
			研究室	浜松合同棟 1 号館 2 F	
分担教員名	予防医学、栄養、運動、睡眠、遺伝、感染症				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	予防医学、栄養、運動、睡眠、遺伝、感染症				
授業の目標	<p>医学に科学的思考は必須であるが、人間的視点が見失われてはならない。急速な科学の進歩は生活環境を豊かにしたが、一方で過不足（飽食、運動不足）による人間の健康バランスを崩すという現象も生じさせた。そのような状況に伴い、医療のパラダイムも治療重視から予防重視へとシフトしてきている。</p> <p>また、医療的アプローチについても、病気の原因を探る (pathogenesis) のが一般的医学研究手法である一方、健康を軸になぜ元気なのかを研究する (salutogenesis) 手法もある。</p> <p>本講義では、このように人間回帰の視点を重視しながら現在の医学、医療についての考え方を学び、医学的基礎知識も身につけることを目的とする。</p>				
学習内容	内容は、下記授業計画に掲げた細項目テーマを組み入れる。必要に応じて（2013 年度は 3 回分）、他の講師に分担をお願いする。詳細日程は、授業開始日に知らせる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 科学技術の進歩と人間のための医学；パラダイムの転換、産業・環境保健、放射線の人体影響 3. 現代医学の様々な問題と予防医学；各国医療政策など 4. 災害医療の基礎知識（森田） 5. 生活習慣病について；人間環境の変化に伴う疾病構造の変化 6. 運動と人間；健康スポーツ医学 7. 救命救急講習；AED を用いた B L S（一次救命法）、トリアージなど 8. 休養（睡眠）と人間；ストレスへの反応とホメオスタシス 9. 免疫と人間；アレルギー反応など 10. 感染予防の基礎知識（森田） 11. 感染症と人間；新興・再興感染症、人獣共通感染症 12. 遺伝と人間；生命情報とその操作 13. 食事（栄養）と人間；食の文化と食に係わる様々な問題（川上、管理栄養士） 14. 時間と人間；ウェルビーイング、健康観と死生観 15. まとめ レポート作成 				
受講要件	とにかく出席すること、そして何かを学びとろうとする意欲を維持すること。				
テキスト	特になし。講義毎に内容に沿ったプリントを配布する。				
参考書	テキストは特にありませんが、講義の中で参考になる図書等を紹介します。				
予習・復習について	<p>予習しなくても講義内容は理解可能。全てを覚える必要はなく、ポイントを理解して概要を把握することが大切。しかし、授業計画は事前に示すので、予備知識があった方が理解は 10 倍増します。</p> <p>復習は大いにしてください。より深く知りたいときは、参考書も貸し出します。質問をたくさん受けながらの参加型授業になることを希望します。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>予習しなくても講義内容は理解可能。全てを覚える必要はなく、ポイントを理解して概要を把握することが大切。しかし、授業計画は事前に示すので、予備知識があった方が理解は 10 倍増します。</p> <p>復習は大いにしてください。より深く知りたいときは、参考書も貸し出します。質問をたくさん受けながらの参加型授業になることを希望します。</p>				
オフィスアワー	質問や相談は適宜受け付けますので、保健センター浜松支援室(053-478-1012)または研究室(保健センター浜松支援室傍、合同棟 1 号館 2 階、053-478-1021)へ連絡か来室してください。				
担当教員からのメッセージ	現在または将来役に立つ人間のための医科学、医療について学ぶ良い機会だと思います。内容は、正しい、新しい情報を吟味して、理解が深まるように現場のエピソードなども随所に盛り込みます。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅰ (Basic French I)				
担当教員名	田中 柊子		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード					
授業の目標	日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。				
学習内容	前期に引き続き、教科書を使って、フランス語文法を勉強し、練習問題をたくさん解きます。どんどん複雑になっていくので、予習と復習を自分でしっかり行うことが必要不可欠です。基本をしっかり身につけることが大切です。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	1 前期の復習 動詞 pouvoir vouloir devoir 2 Leçon 10 faire + 部分冠詞 動詞 dire écrire lire 3 Leçon 11 中性代名詞 否定疑問文 頻度 動詞 entendre attendre など 4 Leçon 12 近接未来 代名動詞 動詞 connaître savoir voir など 5 Leçon 13 時間を表す語彙 動詞 mettre recevoir offrir 6 Leçon 14 複合過去形 7 復習 8 小テスト 9 Leçon 14 複合過去形と半過去形 10 Leçon 15 il y a の使い方 11 Leçon 16 形容詞 12 Leçon 17 天気を表す語彙 quelle 13 Leçon 18 encore / ne... plus の使い方 14 復習 15 映画鑑賞				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。 フランス語をめきめき上達させたい人には教科書と同じシリーズの文法版の購入をおすすめします。 『Moi, je... 文法』 2625 円（税込） アルマ出版 ISBN 978-4-905343-02-8				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト30%、期末試験40%				
オフィスアワー	後期 火曜7・8限 J2707 研究室（情報学部2号館7階）				
担当教員からのメッセージ	少しずつフランス語に慣れてきたでしょうか。フランス語は名詞、形容詞の性・数や動詞の活用などが複雑で一見とつきにくいイメージですが、丁寧に学習を積み重ねていくことで確実に上達します。あきらめないでがんばりましょう。				

授業科目名	ヒューマン・エコロジー (Human Ecology)				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)	所属等	工学研究科		
		研究室	工学部 4 号館 406		
分担教員名	安村 基、山脇 和樹、藤本 征司、檜本 正明、野上 啓一郎、恒川 隆生、山本 雅昭、雨谷 敬史、竹之内 裕文				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ヒューマン・エコロジー、自然科学、社会科学、人文科学、循環共生社会、環境倫理、生態学、行政法と刑法、知の統合、自然と人間				
授業の目標	東日本大震災直後に乾電池や飲料水が高騰した。リーマンショック後の世界的な不況では消費、生産、物流が停滞し、絶望視されていたCO2排出の抑制がすんなり実現した。前者は、地球科学者から見ればいつかは起こる現象で、経済学者から見れば全く予想外であった。後者は、経済学者には経済社会での大事件だが、地球科学者から見ればただのイレギュラーである。このように、個々の学問は、現世の現象をとらえ分析して教訓とし、未来を展望する行為を総合的に行うには根本的な欠陥がある。ヒューマン・エコロジー（人類生態学）は、現在の克服困難な問題や、人類の将来を考えるにあたり必要不可欠であると思われる新しい考え方を提示する。そのために学問分野の垣根をとりはらい、いろいろな視点から人間の行動を科学的にとらえ理解することをねらう。				
学習内容	異なる研究分野の問題に共通する概念、手法、構造を抽出することで、それぞれの分野の間での知の互換性を確立し、それを通して、より普遍的な知の体系を教授する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：ガイダンス，受講者決定 2 竹之内裕文（静岡大学農学研究科）：問いとしてのヒューマンエコロジー 環境と倫理をめぐって（1） 3 竹之内裕文（静岡大学農学研究科）：問いとしてのヒューマンエコロジー 環境と倫理をめぐって（2） 4 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：都市と田舎---安全・快適・便利をもとめて--- 5 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：水環境の保全と修復（1）---損なわれやすい身近な環境，（2）---浜松市佐鳴湖流域を例に--- 6 安村 基（静岡大学農学研究科）：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 7 山脇和樹（静岡大学農学研究科）：食料と生活エネルギーの循環 8 藤本征司（静岡大学農学研究科）：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 9 藤本征司（静岡大学農学研究科）：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 10 檜本正明（静岡大学農学研究科）：乾燥地生態系概論 11 雨谷敬史（静岡県立大学）：室内環境に快適さや安全性を求めて 12 雨谷敬史（静岡県立大学）：環境リスク評価と管理 13 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 14 山本雅昭（静岡大学法科大学院）：ヒューマンエコロジーをめぐる刑事規制--- 15 野上啓一郎（静岡大学農学研究科）：ヒューマンエコロジーの周辺 				
受講要件	教科書を毎回持参すること				
テキスト	「ヒューマン・エコロジーをつくる --- 人と環境の未来を考える」--- 共立出版 野上啓一郎編				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	教科書を読み、下調べ、確認などをすること。新聞その他のニュース、時事問題に関心をもち情報収集すること。				
成績評価の方法・基準	総合評価の割合は、レポート 40%、その他（小テスト、コメントペーパーなど毎回の評価）60%とする。				
オフィスアワー	あらかじめ戸田まで、メール連絡すること。 tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	専門分野が異なった先生方の講義です。知的好奇心旺盛で多角的思考に興味がある学生の受講を勧めます。 なお、授業計画の順番や内容は変更することがあります。				

授業科目名	ロボットと人間 (Robot and Human being)				
担当教員名	末長 修 (SUENAGA Osamu)		所属等	工学研究科	
			研究室	A421	
分担教員名	大岩 孝彰、橋本 岳				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	金5・6
キーワード	ロボットの技術と応用、センシング、制御、機構、システム、人間の機能と特性				
授業の目標	ロボットはメカトロニクスの典型例であり、メカトロニクスは機械工学と電子工学を結合した技術、またはそれを応用した電子機械装置である。アミューズメントやエデュテイメント、あるいは手術支援や介護介助など、人間と共存する環境で動作するロボットも発表されている。本講義は、ロボットに関して初心者を対象として、その歴史と現在、ロボットを構成するさまざまな技術の基礎を学び、ロボットと人間の今後の関係を考察してゆく。				
学習内容	3名の教員が分担し、ロボットと人間の関係をさまざまな側面から捉える。末長の担当ではロボットなどといった人間が扱う機械システムにおいて考慮すべき内容を人間工学の観点から学ぶ。橋本の担当では、ロボットにおけるセンシングや制御に関する解説とそれらが実現した未来社会を考え、そして、大岩の担当においては、ロボットの形状や機構を中心とした内容を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：授業全体の説明 2 末長(1)：人間工学とロボティクス（人間工学的観点からの人とロボットとの係わり） 3 末長(2)：人間の情報処理モデル（情報処理システムとしての人間の特性理解） 4 末長(3)：ヒューマン・インタフェース 5 末長(4)：福祉・介護におけるロボット 6 橋本(1)：ロボットのセンシング 7 橋本(2)：ロボットの制御 8 橋本(3)：様々なロボット 9 橋本(4)：ロボット研究と未来社会 10 大岩(1)：パラレルロボット（1）（人やロボットの機構を並列・直列という観点から見る） 11 大岩(2)：パラレルロボット（2） 12 大岩(3)：マイクロロボット・マイクロマシン（1）（人やロボットの機構を大きさという観点から見る） 13 大岩(4)：マイクロロボット・マイクロマシン（2） 14 総括と質疑応答 15 授業アンケート 				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。プリントの配布、HPからのダウンロードなど、授業時間中に指示する。				
参考書	渡辺, 小俣: “ロボット入門”, オーム社, (2006). 増田, 小金澤, 甲斐: “新しいロボット工学”, 昭晃堂, (2006). 新井(監): “図解雑学ロボット”, ナツメ社, (2005). 城井田: “ロボットのしくみ”, 日本実業出版社, (2001). 松日楽, 大明: “ロボットシステム入門”, オーム社, (1999). など.				
予習・復習について	授業での指示に従うこと。プリント、ダウンロード資料などを読んで理解する、など。図書館での文献検索やネットワーク上での資料検索などを要することもある。				
成績評価の方法・基準	<p>担当教員ごとの成績評価を平均し、評価する。ただし、1課題でも未提出の場合は「不可」とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大岩教員：レポートにより評価する。 ・橋本教員：レポートにより評価する。 ・末長教員：レポートにより評価する。 <p>※レポート提出期限を厳守するとともに、学務情報システムによりレポートをアップロードする際は、アップロードの完了を必ず各自で確認すること。なお原則として、提出期限後のレポート提出は認められません。</p>				
オフィスアワー	担当教員ごとに異なるので、事前に確認すること。事前に連絡・予約がないと後日となる場合がある。				

担当教員からの
メッセージ

ロボットは、さまざまな技術をシステムとしてまとめたものであり、また日々発展している分野であるため、講義は限られた側面からの基礎的な情報の紹介、学習のきっかけを与える入口の案内となる。そこで、受身にとどまらず、興味を覚えたところから、自分で積極的に情報収集などして学習を深め広げてゆくことを期待する。

授業科目名	グローバル社会とナノテクノロジー (Global Society and Nanotechnology)				
担当教員名	下村 勝		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	金 5・6
キーワード	ナノテクノロジー、コンピュータ、半導体、光、通信、エネルギー、宇宙開発				
授業の目標	インターネットに代表される情報化社会の発達は、私たちの生活や産業のあり方を大きく変えてきた。本講義では、現在の高度情報化社会を構築する基盤技術の概要を理解してもらおうとともに、宇宙開発からエネルギー問題、身近な製品に至まで、私たちの生活を支えるナノテクノロジーについて理解を深めてもらう。				
学習内容	現代の情報化社会を支える様々な基盤技術についてナノテクノロジーの側面から解説し、私たちの生活との関わりについて概説する。 【注意】これまでに「ロングテールとナノテクノロジー」「ナノテクノロジーとグローバル社会」「グローバル社会とナノテクノロジー」の単位を修得した学生は履修できません。				
授業計画	回	内容			
	1	概論～ナノテクノロジーの動向～：下村			
	2	宇宙開発と社会：早川			
	3	宇宙環境利用のサイエンス：早川			
	4	ディスプレイの変遷：小野			
	5	ナノの世界を見る：小野			
	6	情報を捕まえる素子～センサ～：伊藤			
	7	情報を蓄える素子～メモリ～：伊藤			
	8	タッチパネルの科学：下村			
	9	自己組織化によるナノ構造：下村			
	10	進化する電池：池田			
	11	エネルギー問題に挑戦するナノテク：池田			
	12	ナノエレクトロニクスの発展と歴史：荻野			
	13	プラズマが拓く新しい技術：荻野			
	14	電磁波の歴史と応用～発生から検波まで～：根尾			
	15	古くて新しい誘電体：根尾			
受講要件	ナノテクに興味のある人。 【注意】過去に「ロングテールとナノテクノロジー」「ナノテクノロジーとグローバル社会」「グローバル社会とナノテクノロジー」の単位を修得した学生は履修不可。				
テキスト	特に指定しない				
参考書	講義中に適宜紹介する				
予習・復習について	シラバスに記載された各講義題目中の単語をインターネットなどを使って調べておくことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各教官がレポートを課して採点し、それらの合計点で評価する。ただし、規定の出席回数に満たない学生は、レポートの点数に関わらず、不合格とする。				
オフィスアワー	特定の時間を設けてはいないが、質問には時間の許す限り随時応じる				
担当教員からのメッセージ	将来の専門分野と進路を決める際の参考にしてください。 【注意】本講義は、2010年度まで「ロングテールとナノテクノロジー」、2011年度は「ナノテクノロジーとグローバル社会」、2012・2013年度は「グローバル社会とナノテクノロジー」				

一」 という授業科目名で開講されていたので、これらの単位を既に取り得た学生は履修できません。

授業科目名	新・佐鳴湖から考える				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	工学研究科	
			研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	松田 智 (新)、金原 和秀、二又 裕之、前田 恭伸、新谷 政己				
クラス	情工	学期	後学期	必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	COD (H18 ワースト 1)、COD (H21 ワースト 10)、富栄養化、水質汚濁、栄養塩 (窒素、リン)、汽水湖 (浜名湖、遠州灘)、50 種以上の魚生息、ヤマトシジミ、現地フィールドワーク				
授業の目標	2003 年度より展開している「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の成果を活用して、佐鳴湖の環境と水質、微生物について交代で講義をする。日本の湖沼や閉鎖海域の汚濁解消はなかなか進まず、基準値達成率は 50% 以下である。地域の佐鳴湖を題材に水質汚濁からとりわけ水に関わる環境問題について深く考えることを目標とする。				
学習内容	授業計画に従って、さまざまな切り口から佐鳴湖の環境について理解を深める。また、どうすれば問題の解消が進むか考えることにより、地球上で発生している水環境問題の理解と解決の糸口を探る習慣を身につけてもらう。この講義の特色はなんといっても現地佐鳴湖でのフィールドワークを大々的に取り入れていることである。キャンパスから約 2 キロと近い立地を生かし、全 15 回の講義のうち 5 回分を主に土日のフィールドワークにあてる。				
授業計画	回	内容			
	1	イントロダクション：佐鳴湖と「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の紹介 (戸田)			
	2	佐鳴湖の水質：水質データから佐鳴湖の水環境を考える (松田)			
	3	佐鳴湖の生態系と水文 (戸田)			
	4	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 1 (金原)			
	5	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 2 (新谷)			
	6	佐鳴湖の水質浄化対策、全国の事例紹介 (前田)			
	7	生物利用浄化技術 (1)：微生物利用の水質浄化 (二又)			
	8	生物利用浄化技術 (2)：よりサイズの大きな生物による水質浄化、ヤマトシジミ (戸田)			
	9	「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の研究紹介 (戸田)			
	10	事前アンケートをもとに受講者全員で討論 (戸田ほか)			
	11	フィールドワーク 1：「佐鳴湖に行ってみよう」スケジュール初期にできれば講義のコマを利用して佐鳴湖を訪れる。(天候を考慮するため期日未定)			
	12	フィールドワーク 2：「佐鳴湖水質調査体験」年 4 回、静岡県浜松土木事務所が開催している市民参加の佐鳴湖水質調査に参加する。所用約 3 時間 2 コマ分、5 月中旬の土曜が予定日 (期日は前期当初には決まるが雨天順延あり)			
	13	フィールドワーク 3：「佐鳴湖をいろいろ見て回る」佐鳴湖周辺の様々なものを見、人の話を聞き、動物に出会う体験をする。所用約 3 時間 2 コマ分 (天候を考慮するため期日未定)			
	14				
15					
受講要件	3 年前学期の「材料力学」、後学期の「住環境工学」を履修することが望ましい。				
テキスト	授業中にプリントを配布。				
参考書	杉山英男編著「木質構造」(共立出版)、日本建築学会「構造用教材」「建築材料教材」。その他は授業中に随時紹介する。				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				

成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール (afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。 本科目は、二級・木造建築士受験資格を得るために必修となる科目です。

授業科目名	環境化学工学 (Environmental Chemical Engineering)				
担当教員名	松田 智 (MATSUDA Satoshi)		所属等	工学研究科	
			研究室	C216	
分担教員名					
クラス	K コース	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月1・2
キーワード	大気汚染、水質汚濁、廃棄物、リサイクル、対策技術、単位操作、温暖化				
授業の目標	環境を浄化・修復する工学技術の3つの柱となっている大気汚染防止技術、水処理技術、および廃棄物処理技術は、その中に化学工学の単位操作の原理を数多く包含している。すなわち、分離選別、粉碎、脱水、乾燥、油化、ガス化、生物利用などを総合的に活用することで技術が成り立っている。技術を構成しているそれぞれの単位操作を理解し、組み合わせの結果としての技術の原理を理解する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題解決へ向けた化学工学の視点からの取り組み 2. 廃棄物処理の現状とリサイクル技術 3. 地球温暖化問題の理解と対応策 4. 大気汚染物質の汚染防止技術とその原理 5. 焼却および高温操作に関わる定量的な取扱い 6. 水質汚濁の現象と機構についての理解 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境化学工学とは(1)：環境問題の理解(科学)と対策技術(工学)、システム思考、地球環境問題と地域環境問題 2 環境化学工学とは(2)：環境工学における化学工学的手法の重要性、対策技術の概要 3 地球温暖化(1)：温暖化のメカニズム(地球の温度の決まり方、温度への影響因子)、将来予測 4 地球温暖化(2)：対応策をめぐって(エネルギー使用の効率化と新エネ、低炭素社会は真の目標か?) 5 オゾン層破壊とその対策：メカニズム、オゾンホール及び紫外線量の実態、対策技術 6 酸性雨とその対策：NO_xとSO_x、塩化水素、光化学オキシダントなどの成因及び対応策 7 大気汚染と対策技術：脱硫と脱硝技術、ばいじん、ダイオキシン、浮遊微粒子などの成因及び対応策 8 中間試験 9 廃棄物とリサイクル(1)：一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物の処理と処分、特に中間処理技術としての焼却について 10 廃棄物とリサイクル(2)：最終処分をめぐって、リサイクルの分類と用いられる技術 11 焼却と高温操作をめぐる演習(1)：種々の発熱量、自然条件、焼却操作(空気比その他) 12 焼却と高温操作をめぐる演習(2)：エンタルピー収支の応用(定容・定圧・定温・断熱の諸過程、 ガスの加温・冷却所要熱量など) 13 焼却と高温操作をめぐる演習(3)：断熱火炎温度、発電機の効率、送風機動力(気体の圧縮仕事) 14 水環境：水循環と水資源、水質指標とその意味(BOD・COD・TOC・DO・pH・アルカリ度など)、 水質汚濁の原因と対策の実例・・・佐鳴湖の場合 15 化学物質と環境：化学物質の使用と環境への排出、リスクによる管理(ダイオキシンを例に) 				
受講要件	化学工学の単位操作について理解しておくこと。地球環境科学・環境技術、リサイクル量論、および資源循環化学を習得していることが望ましい。				
テキスト	「入門 環境の科学と工学」(川本克也・葛西栄輝 著、共立出版)				
参考書	「廃棄物工学の基礎知識」(田中信壽 編著、技報堂出版) 「環境工学入門」(鍋島淑郎他著、産業図書)				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。また授業で取り上げられた演習問題を独力で再び解いてみることも必要である。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、環境問題に対処する方法論としての化学工学の基礎知識と定量的扱いに関する基礎が身に付いているかどうかを評価する。評価の配分は、中間試験・期				

	<p>末試験計 80%、演習・レポート等 20%である。その内容は、授業内容を十分に理解し身につけているかどうか(70%)、授業内容を応用する力がついているか(30%)で評価する。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週金曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設ける。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けるが、電子メール (tcs mats@ipc.shizuoka.ac.jp) で予約することが望ましい。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p>	<p>環境問題に対処するには、幅広い知識だけでなく、具体的な対策を考えるために、定量的・工学的な考察(収支バランス等)が有用であることを、本授業でしっかり学んでいただきたい。</p>

授業科目名	電子計算機工学 (Computer Architecture)				
担当教員名	中井 孝芳		所属等	工学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	共通	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数	2	曜日・時限	月5・6
キーワード	コンピュータ アーキテクチャ、高速化技法、マイクロプロセッサ、割り込み、キャッシュ記憶、周辺機器				
授業の目標	電子計算機の主な機能は、マイクロプロセッサが担っている。マイクロプロセッサの基本動作、およびその高速化技法を学ぶことにより、その取り扱いができるようにする。すなわち、文字、データの表現とその取り扱い方の修得、マイクロプロセッサの基本動作の理解、演算および命令の高速化技法の理解、割り込みおよびキャッシュ記憶などの理解、周辺装置とのデータ授受方法の修得である。				
学習内容	電子計算機の主要な機能は、マイクロプロセッサが担っているので、マイクロプロセッサを意識しながら講義する。マイクロプロセッサは多くの電子機器に使用されている。リモコンのような制御からコンピュータグラフィックス(CG)のような図形処理まで広範にわたる。このマイクロプロセッサの基本動作を理解し、またその高速化技法について学ぶ。マイクロプロセッサを使用する上で必要な割り込みや、キャッシュ記憶、入出力方法などについても学ぶ。				
授業計画	1 電子計算機およびマイクロプロセッサの歴史。数値および文字の表現 2 主記憶装置とアドレッシング 3 命令の基本動作 4 プッシュ・ダウン・スタックとその応用 5 加算(減算)演算とその高速化技法 6 乗算演算とその高速化技法 7 除算演算とその高速化技法 8 浮動小数点演算技法 9 パイプライン演算および命令パイプライン 10 中間試験、種々のメモリ 11 ハードディスク、周辺装置とそのデータ授受 12 DMA(ダイレクト・メモリ・アクセス)とチャンネル 13 割り込み 14 キャッシュ記憶と仮想記憶 15 OS(オペレーティング・システム)とは				
受講要件	論理回路Ⅰ、Ⅱおよび基礎電子回路を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	適宜プリントを配布する。				
参考書	「計算機アーキテクチャ」(橋本昭洋著、昭晃堂)、「新版 電子計算機工学」(中川裕志、朝倉書店)				
予習・復習について	マイクロプロセッサの動作原理が理解できるように、復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、マイクロプロセッサを取り扱える基本的能力があるかを評価する。評価は、中間および期末試験による。内容は、(a)授業内容の吸収・理解により取り得る点(80%)、(b)授業内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(20%)。				
オフィスアワー	講義日の昼休み				
担当教員からのメッセージ	マイクロプロセッサの使用(応用)範囲は非常に広いので、マイクロプロセッサの動作原理を十分理解してほしい。				

授業科目名	機能性有機材料 (Functional Organic Materials)				
担当教員名	久保野 敦史 (KUBONO Atsushi)		所属等	工学研究科	
			研究室	物質1号館3階316号室(教員室)	
分担教員名					
クラス	Vコース	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月7・8
キーワード	有機、有機化合物、高分子、機能、光、電子				
授業の目標	有機材料の特徴と用途を理解する。(1.有機化合物の構造について 2.分子間・分子内相互作用と性質の関係 3.機能性官能基と性質の関係 4.実用的な典型的材料の構造と機能発現のメカニズム)				
学習内容	有機材料として工業的に利用されているものは、色素・染料、各種添加剤、液晶、高分子材料(ゴム・繊維・プラスチック)、塗料・接着剤・界面活性剤である。本講義では、有機化学の基礎知識を使って、これらの構造と性質の関係を学ぶ。				
授業計画	1 ガイダンスと有機材料関連の常識問題による復習 2 有機化合物の特徴と電子構造 3 油脂と界面活性剤の基礎 4 香料・有機材料・液晶の基礎 5 色素・染料の基礎 6 印刷・エレクトロニクス材料の基礎 7 医薬と農薬の基礎 8 中間試験 9-15 様々な機能性有機材料・デバイスの紹介				
受講要件	物質工学総論 I、II、材料科学基礎、ならびに基礎有機・高分子材料を履修すること				
テキスト	「マテリアルサイエンス有機化学」伊与田正彦 他、東京化学同人、ISBN978-4-8079-0614-7				
参考書	「高分子材料化学」吉田泰彦他、三共出版、「ナノテクノロジーと有機材料」(服部憲治郎、山本 靖著、米田出版)				
予習・復習について	教科書や配付資料にしたがった予習・復習に加え、自主的に身近な有機・高分子材料について調べることが望ましい。				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験ならびに演習レポートにより評価し、習熟度60%で合格とする。				
オフィスアワー	適宜				
担当教員からのメッセージ	授業のはじめに簡単な常識問題を行う。 学生の興味や理解度に応じて、進度や内容を適宜変更することがある。				

授業科目名	リスク分析 (Risk analysis)				
担当教員名	前田 恭伸 (MAEDA Yasunobu)		所属等	工学研究科	
			研究室	A423	
分担教員名					
クラス	A	学期	後学期	必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木1・2
キーワード	リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、環境リスク、技術リスク、災害リスク				
授業の目標	リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションの概念を理解し、それら概念を使えるようになる。				
学習内容	工学システムは様々なメリットを社会にもたらしてくれるが、同時にリスクをもたらす場合が少なくない。ここでは、環境リスクを中心に、さまざまなリスクを評価し、それらを社会的に管理していくための考え方について学ぶ。				
授業計画	回	内容			
	1	1：リスクとは			
	2	2：リスク分析とは			
	3	3：リスクアセスメント			
	4	4：環境リスクアセスメントの方法（1）屋内空気中のリスク			
	5	5：環境リスクアセスメントの方法（2）排出源近傍の大気リスク			
	6	6：環境リスクアセスメント演習（1）ガソリンスタンドのリスク（全体説明）			
	7	7：環境リスクアセスメント演習（2）ガソリンスタンドのリスク（有害性の同定・量反応評価）			
	8	8：環境リスクアセスメント演習（3）ガソリンスタンドのリスク（曝露評価・リスクの判定）			
	9	9：環境リスクアセスメント演習（3）グループ活動			
	10	10：環境リスクアセスメント演習（4）リスクの判定再考：どれだけ危ないのか？			
	11	11：環境リスクアセスメント演習（5）リスクのばらつきとモンテカルロシミュレーション			
	12	12：技術リスクアセスメント			
	13	13：リスクマネジメント			
	14	14：リスクマネジメントシステム			
	15	15：総合討論			
受講要件					
テキスト	瀬尾佳美著：「リスク理論入門」，中央経済社，2005，4-502-25080-5.				
参考書	池田三郎ほか：「リスク、環境および経済」，勁草書房，2004，4-326-50245-2.				
予習・復習について	授業中に数回の演習を課す。演習をクリアするためには、少なくとも復習をまめに行っておく必要があるだろう。				
成績評価の方法・基準	数回の演習を予定している。この演習の成果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	木曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	社会調査論 (Theory of Social Research)				
担当教員名	中 正樹		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1 クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	月 1・2
キーワード	社会調査、統計的調査、事例的調査、社会調査史、量的調査、質的調査				
授業の目標	社会科学としての社会調査の意義や種類、社会調査の歴史、社会調査の基本的な目的と方法、社会調査を実施する上でのモラル、実際の調査例（量的調査と質的調査）などの全体概要について解説する。				
学習内容	第1部では、まず社会調査とは何かについて学ぶ。ついで、社会調査の歴史について学ぶ。その際に対象となるのは、古典的な貧困研究、20世紀初頭のアメリカの地域研究、古典的な産業労働調査である（担当：中）。第2部では、労働者に対する社会調査の実例を取り上げつつ、日本における地域社会調査について学ぶ（担当：藤井）。以上の授業を通じて、社会調査について基礎的な知識を習得することを目指す。				
授業計画	回	内容			
	1	オリエンテーション			
	2	第1部：社会調査とは何か			
	3	第1部：社会調査の歴史① 社会調査の始まり			
	4	第1部：社会調査の歴史② 古典的社会調査			
	5	第1部：社会調査の歴史③ シカゴ学派			
	6	第1部：社会調査の歴史④ 地域調査			
	7	第1部：社会調査の歴史⑤ 世論調査			
	8	第1部：社会調査の歴史⑥ マス・コミュニケーション効果調査			
	9	第2部：社会調査とは何か2（私と社会調査）			
	10	第2部：ホーソン・リサーチ			
	11	第2部：地域社会調査の検討			
	12	第2部：地域社会調査の検討			
	13	第2部：地域中小企業労働者調査			
	14	第2部：炭鉱労働者調査			
	15	第2部：社会学的人間論の課題			
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。				
参考書	福武直・松原治郎編『社会調査法』（有斐閣双書、1998年） 安田三郎『社会調査ハンドブック』（有斐閣双書、1991年） ほか、必要な場合には講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業の進行状況に応じて指示する。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業時に課す小レポートによる評価を100%とする。 ※毎回小レポートを提出していても、内容が評価に値しなければ当然単位が取得できないことはありうる。 ※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。				
オフィスアワー	中：金曜日5・6限（12時45分～14時15分）を予定。 藤井：昼休み前後など、基本的に研究室にいるときはいつでも。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	博物館展示論				
担当教員名	高松 良幸		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	月1・2
キーワード	展示、展示史、展示メディア、企画立案、展示と教育				
授業の目標	展示とは何か、について展示史、メディア論的な立場からの理解を図るとともに、博物館における展示の実際について具体的に紹介し、展示企画の立案、展示の具体的運営に関する基礎的な能力の育成を図る。あわせて、日本の博物館における展示イベントの現状と課題について考察する。				
学習内容	展示の種類、歴史、性格等についての講義を行う。また、博物館における展示に関して、その種類、実施方法、人を惹きつける展示プランの立案法等を講述するとともに、展示企画書等の作成方法等について修得させる。あわせて、日本の博物館における展示イベントの現状と課題について考察する。				
授業計画	回	内容			
	1	展示とは I－陳列と展示			
	2	展示とは II－展示の政治表象性			
	3	展示の歴史 I－博物館出現以前			
	4	展示の歴史 II－博物館以外の展示の場			
	5	展示の歴史 III－博物館の展示史			
	6	博物館における展示の種類			
	7	展示実施の流れ I－企画から開会まで			
	8	展示実施の流れ II－開会から評価まで			
	9	資料の展示の方法			
	10	展示計画の立案 I－展示企画書			
	11	展示計画の立案 II－展覧会図録			
	12	展示用キャプションの役割			
	13	ギャラリートークのあり方－展示と教育普及			
	14	展示補助のための視聴覚メディア			
	15	まとめ－展示企画書の発表、講評			
受講要件	博物館学芸員資格取得のための必修授業（平成24年度以降入学生）				
テキスト	なし				
参考書	授業中に指示する。また、必要に応じてプリント等を配布する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習、復習時間を要する。				
成績評価の方法・基準	授業中に作成する展示企画書と最終レポートにより評価する。両者の比率は各50%とする。展示企画書は授業の内容理解の上に立ち、受講生各自の展示企画への応用度を基準に採点する。最終レポートは、授業の内容理解度を基準に採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				
担当教員からのメッセージ	出来るだけ多くの美術館博物館を訪れ、展示の実際を体験してください。				

授業科目名	現代コミュニケーション論 (Current Topics in Communication Studies)				
担当教員名	近藤 真		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	月7・8
キーワード	コミュニケーション、ことば、文化				
授業の目標	情報伝達や意味形成という側面から情報社会を分析するための基本的な視点を学ぶ。情報メディアにおけるコミュニケーション分析の課題や、合意形成や市民参加の討論のためのコミュニケーション的課題など、メディア系・コミュニティ系の両科目を受講するための基盤となる知識を身につける。				
学習内容	現代情報社会における様々なコミュニケーションに注目し、それらの特徴や仕組み、文化・社会的背景を学ぶことによって、現代社会における異なる視点を持ったアクターによる意思疎通や合意形成の方法について知識を深めることを目的とする。				
授業計画	各講師の担当順序は変更になる場合がある。				
	回	内容			
	1	オリエンテーション -授業全体の概観- (全員)			
	2	コミュニケーションの基礎概念 (近藤)			
	3	言語メッセージ・非言語メッセージの特徴 (近藤)			
	4	日本人のコミュニケーションの特徴 (近藤)			
	5	受け手から見たコミュニケーション (近藤)			
	6	言語コミュニケーションにおける発話意図と含意 (田村)			
	7	言語コミュニケーションのメカニズム (田村)			
	8	言語コミュニケーションと対人配慮 (田村)			
	9	コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(1) (ウィルキンソン)			
	10	コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(2) (ウィルキンソン)			
	11	コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(3) (ウィルキンソン)			
	12	異文化コミュニケーションの落とし穴(1) (シェフタル)			
	13	異文化コミュニケーションの落とし穴(2) (シェフタル)			
	14	異文化コミュニケーションの落とし穴(3) (シェフタル)			
15	まとめ (全員)				
受講要件	特になし				
テキスト	なし。(授業時に資料を配布する。)				
参考書	講義の中で必要に応じて指示します。				
予習・復習について	講義中にふれられた話題について、参考書、インターネット、新聞、テレビなどで資料収集をする作業を最低90分行うこと。				
成績評価の方法・基準	4人の講師がそれぞれレポートを課し、各レポートの評価点を総合して評価する。ただし、未提出のレポートがある場合には、他のレポートの評価に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは、水曜5,6時限。各担当教員を直接訪ねる場合には、事前にメール等でアポイントを取ること。				

担当教員からの
メッセージ

コミュニケーション活動は、我々が日常的に無意識のうちに行なっている活動ですが、コミュニケーション活動の諸相を、あらためて学問的な視点から見直すことが、みなさんの今後のコミュニケーション活動の一助になることを期待します。

授業科目名	美術史 (History of Fine Arts)				
担当教員名	高松 良幸		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	火1・2
キーワード	唐絵、倭絵、山水画、雪舟、文人画、洋風画、浮世絵				
授業の目標	<p>美術作品は、単に人に美的な感動を与えるだけでなく、そこに見られるさまざまな表現などからは、その作品が制作された意図や社会背景等を読み取ることも可能である。すなわち美術作品は、それが制作、伝来した過程で関わった人々の心情や社会状況などを伝えるヴィジュアルなメディアとしての側面を有している。この講義では、美術史研究の基本的な目的である美術作品の様式史の解明とともに、このようなヴィジュアルな表現の解釈法を身につけることを目標とする。</p> <p>また、近年、各種の美術作品は、デジタルコンテンツ等の題材として取り上げられることが多い。本授業を通じて、実物の美術作品に関する制作、受容の状況を理解するとともに、その過程をモデル化することで、デジタルコンテンツ等を作成するための資質養成に役立ててもらいたい。</p>				
学習内容	<p>本年度は日本絵画における景観表現をテーマに日本絵画史を概観する。</p> <p>日本において景観・風景を描くことは、中国の山水画の影響を受けながら古くから試みられてきたが、平安時代後期に花開いた倭絵以降、日本の景観・風景を描くことが幅広く行われるようになった。本講義では、日本における景観・風景の絵画化の歴史を辿りながら日本絵画史を概観するとともに、各時代における景観・風景表現の特質、また景観・風景が描かれた意味などについて考えてもらう。</p>				
授業計画	回	内容			
	1	美術史入門			
	2	唐以前の中国山水画			
	3	平安時代前期以前の景観・風景の絵画化			
	4	唐絵と倭絵			
	5	絵巻物に見る景観表現			
	6	鎌倉時代の景観表現			
	7	中国における水墨画の発展			
	8	水墨画の流入			
	9	室町時代の水墨山水画			
	10	室町時代やまと絵における景観表現			
	11	近世初期の景観表現—狩野派の作品を中心に			
	12	文人画の景観表現			
	13	洋風画の風景表現			
	14	浮世絵風景画			
	15	近代日本画における景観表現			
受講要件	3年次配当の博物館実習で美術系博物館での実習を希望するものは必ず履修しておくこと。				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。授業内容理解度 50%、授業内容応用度 50%で採点する。				
オフィスアワー	授業中に指示する。				

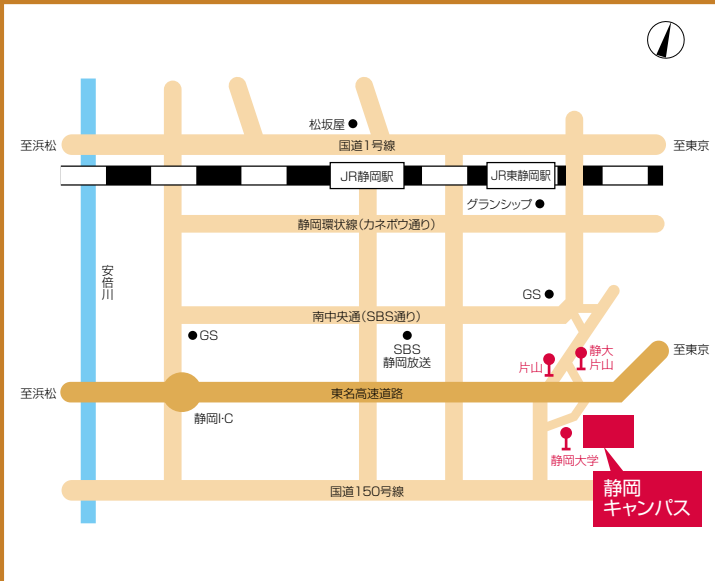
授業科目名	認知心理学 (Cognitive Psychology)				
担当教員名	漁田 武雄		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	水5・6
キーワード	認知、心理学、スキーマ、記憶、社会情報				
授業の目標	情報システムを活用するのはあくまで人であり、人が情報をどのように認知するかという視点を欠いて情報システムを開発することはできない。「認知心理学」では、人が情報を認知する際の心理学的な基礎知識を身につけさせることが目的である。				
学習内容	<p>この講義では、「認知という心の働き」を中心として、心理学の基礎的な理論や実験等について解説する。また、この講義は、情報学部に通じる人たちに共通して必要と思われる内容で構成してある。</p> <p>われわれ人間は、絶えず、環境からの莫大な情報にさらされており、同時に、環境に働きかけている。このような環境と行動の相互作用は、「認知という心の働き」によって支えられている。</p> <p>「認知」とは、「知るという心の働き」および獲得された「知識」であり、さまざまな情報の処理過程からなっている。また、認知が成立するためには、認知の対象（外界、過去の出来事、自分自身など）に関する情報を処理するばかりでなく、対象に関する既存の知識（これをスキーマという）をフル活用する。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この授業について (シラバス、評価の方法、参考図書)</p> <p>第1章 認知とスキーマ 1. 認知とスキーマ スキーマとは、エームズの部屋 2. スキーマの使用 同化と調節、好奇心 3. スキーマの発達 ピアジェの理論、自己中心性</p> <p>第2章 記憶 1. 記憶とは 記憶の基礎、記憶できなくなったら 2. 忘却 忘却曲線、検索の失敗 3. 記憶喪失 逆行性健忘、PTSD、多重人格 4. 検索の過程 文脈依存記憶 5. 記憶の変容 記憶とスキーマ、再構成、目撃証言 6. 記憶術とその基礎 魔法の数7±2、記憶術 アンダーライン、一夜漬け</p> <p>第3章 社会的情報処理 1. 社会情報の処理 認知的不協和理論、説得 2. 社会情報の伝達 うわさ 3. 社会情報の潜在的効果 サプリミナルCM 単純接触の効果、鏡の顔</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。そのかわり、全部で10数枚の講義資料を配付する。				
参考書	オリエンテーションの際に、参考図書リストを配布して解説する。				
予習・復習について	毎回講義の復習をすることが望ましい。そうすれば、レポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	各單元ごとに、レポートを提出する。 単位取得の基準は、3回のレポートを全部提出していること、3回のレポートの合計点が60点以上であること。 詳細は、オリエンテーションで解説する				
オフィスアワー	随時。メールでアポを取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

授業科目名	情報社会思想 (Thoughts on Information Society)				
担当教員名	岡田 安功		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	後学期	必修選択区分	
対象学年		単位数		曜日・時限	水7・8
キーワード	公と私、社会的、ジョン・ロック、所有、共有、公共圏、欲求、消費社会、アーキテクチャ、ヴァーチャリティ				
授業の目標	情報社会を分析・理解したり、情報社会に参加するためにキーとなるような思想について、自ら検討し自ら考える力を養う。				
学習内容	公と私をテーマに、近・現代社会、そして情報社会に特有の構造や考え方を検討することにより、情報社会における人間のあり方を考える。				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>岡田 (安) ジョン・ロックでネットの規制を考える</p> <p>第2回 なぜ国境があるのか</p> <p>第3回 情報は誰のものか</p> <p>第4回 誰がコンテンツを規制できるか</p> <p>中澤</p> <p>第5回 フォーディズム体制</p> <p>第6回 脱工業社会論の隆盛</p> <p>第7回 ポスト・フォーディズムの時代へ</p> <p>第8回 質疑応答1</p> <p>田中 (稔)</p> <p>第9回 ファッション業界におけるデザイン模倣問題</p> <p>第10回 パロディ文化の遊戯性と批判性</p> <p>第11回 キッチュ批判・消費社会批判再考</p> <p>原田</p> <p>第12回 所有をめぐる法と倫理 ―ネットが生む新しい〈共有〉―</p> <p>第13回 アート・パフォーマンスと法 ―芸術にモラルは必要か―</p> <p>第14回 ヴァーチャル×法 ―二分法的思考の限界―</p> <p>第15回 質疑応答2</p>				
受講要件	特にありません				
テキスト	各教員が必要に応じて指示します。				
参考書	各教員が必要に応じて指示します。				
予習・復習について	指示された予習は必ずしてください。復習をすることが的を射たレポートを作成する上で大切です。				
成績評価の方法・基準	4人の教員の評価の合算です。それぞれの教員の指示した課題を必ず提出してください。				
オフィスアワー	各教員が授業中に告知します。				
担当教員からのメッセージ	4人の教員がそれぞれに独自の見解を展開します。それらの見解には共通点もありますが、ときには対立する部分もあるかもしれません。教員の見解を鵜呑みにするのではなく、皆さん自身の頭で教員の見解を検討し、自分の見解を批判的に形成することが大切です。				

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

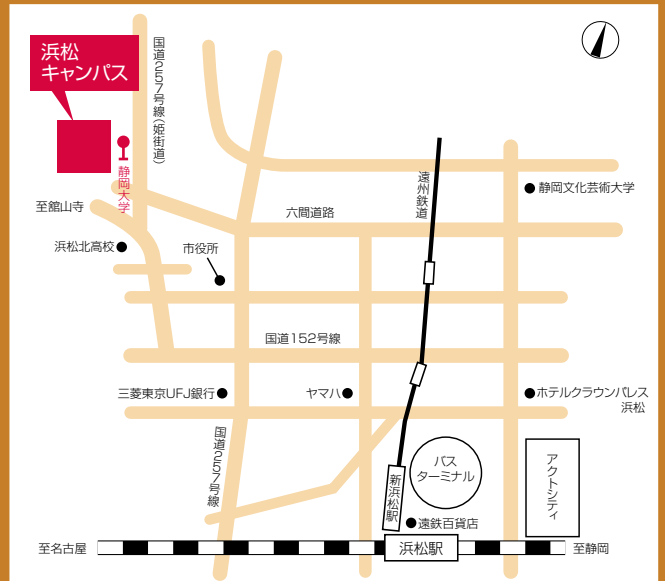
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



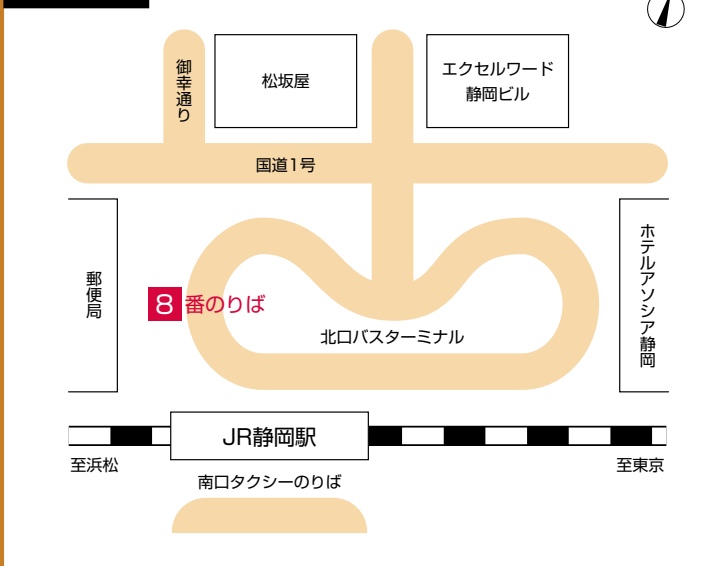
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

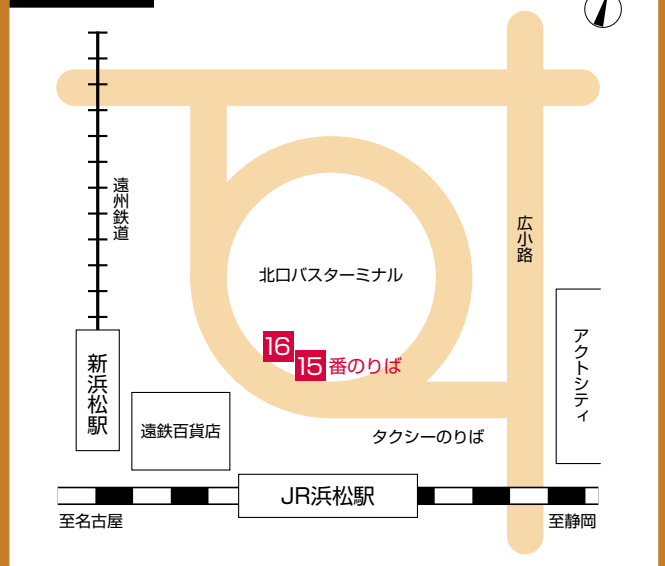


バス停案内図



1. JR静岡駅北口しずてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。



静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/